

2018(平成30)年度石巻専修大学
自己点検・評価報告書（教員活動編）

石巻専修大学
2019(令和元)年 5 月

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	坂田 隆	就任年度	1989(平成元)年度
----	------------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 食糧問題と資源、栄養学、食と感覚の科学、化学実験 I/II、食環境学演習 I/II/III、食環境学実験 I/II/III、食品工学実習、卒業研究、子どもの食と栄養
2.大学院担当科目 比較栄養生理学特論、比較栄養学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 学際科目 106 人類と自然（専修大学）、人の尊厳（慶応義塾大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
査読付き 4 編 (単著 3, 共著 1)						
研究者情報データベース参照						
【その他】 (報告書など)						
1 (単著)						
研究者情報データベース参照						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
4 回 (単 3、共 1)						
研究者情報データベース参照						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018 年度	特定非営利活動法人生命科学研究機構副理事長
2018 年度	日本フードスペシャリスト協会理事
2018 年 4, 6, 8, 10, 12 月、2019 年 2 月	ラボトークセッション主催
その他社会活動 5 件（研究者情報データベース参照）	
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年度	クラス担任（2 年）	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 双方向授業、反転学習、毎回の課題提出・添削返却、数量データの読取り・考察演習、Course Power の活用などによる自主的学習能力の涵養と知的好奇心の開発、知識の関連付けをはかった。	目的は概ね達成できた。
（実験） 安全管理とそれぞれの操作の理解、手引きに書いてない事項についての観察に重点を置いた。	事故はまったく無く、レポートには操作の意味や注意点、自発的な観察内容が書いてあった。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 情報の検索・入手、文献から実際の実験操作まで自ら導く能力、失敗したときの対処能力、発表能力の養成に重点を置いた。	情報検索能力はついた。実験装置を自分で工夫して組み立てられるようになった。考察能力は要改善。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	福島 美智子	就任年度	1989(平成元)年度
----	------------	----	----	----	--------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 化学、理工化学、分析化学、食品分析化学、環境放射能測定学（平成30年度は非開講）、化学実験、食環境学実験Ⅰ、食環境学実験Ⅱ、食環境学実験Ⅲ、食品分析実習、食環境学演習Ⅰ、食環境学演習Ⅱ、食環境学演習Ⅲ、卒業研究、フレッシュマンセミナー、食環境特別科目Ⅰ
2.大学院担当科目 有機材料化学特論、環境物質化学特論、物質工学特別研修Ⅰ、物質工学特別研修Ⅱ、物質工学特別演習・実験Ⅰ、物質工学特別演習・実験Ⅱ、資源環境化学特論、機能性物質設計工学セミナー、物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Multi -element Analysis of Cultivated Oysters by Neutron Activation Analysis	共著	2018.8	KURRI Progress Report 2017/	M. FUKUSHIMA, A. CHATT, T. MAEDA	CO8-2	
牡鹿半島のモミ (<i>Aries firma</i>) を用いた 放射性セシウムのモニタリングと動態 の検討	共著	2019.3	石巻専修大学 研究紀要 第30号	福島美智子・松谷武成・ 根本智行・依田清胤	p9—p13	
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
* Neutron Activation Analysis of trace elements in oyster soft tissues and estimation of bioaccessible levels of oysters from different seasons	共著	2018.4	Methods & Applications of Radioanalytical Chemistry MARC XI	M. FUKUSHIMA, A. CHATT		
*中性子放射化分析法によるカナダ食品試料の 多元素分析	共著	2018.9	日本分析化学会第67年会	福島美智子, A. CHATT		
*モミ (<i>Abies firma</i>) を対象にした宮城県牡鹿 半島における Cs-137 のモニタリング (2)	共著	2018.9	日本分析化学会第67年会	福島美智子・松谷武成・ 根本智行・依田清胤		

*APDC/MIBK 抽出法と中性子放射化分析法を用いたヒジキの As(III)と As(V)の分析	共著	2018.9	日本分析化学会第 67 年会	<u>M. FUKUSHIMA</u> , J. CHANNUIE, A. BUSAMONGKO, S. LAOHAROJANAPHAN D, A. CHATT		
*Neutron Activation Analysis for APDC/MIBK Extractable Inorganic Arsenic (III) and Arsenic (V) Species in Japanese Hijiki	共著	2019.2	International Nuclear Science and Technology Conference INST 2019	<u>M. FUKUSHIMA</u> , J. CHANNUIE, A. BUSAMONGKO, S. LAOHAROJANAPHAN D, A. CHATT		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	京都大学原子炉実験所共同利用研究委員会委員
2018(平成 30)年 4 月～9 月	日本分析化学会第 67 年会実行委員
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	日本分析化学会東北支部幹事
2018(平成 30)年 4 月～	放射線安全取扱部会東北支部委員
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	山形県廃棄物処理施設審査委員会委員
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	宮城県廃棄物処理施設専門委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	放射線取扱主任者	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	放射線障害予防委員会委員長	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	理工学部食環境学科 1 学年担任	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	理工学部教務委員会委員	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	自己点検・評価運営委員会委員	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	核燃料物質等管理運営委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（教育活動全般・FD 活動） 考える力を身につける教育を実施。	それなりに成果を上げていると確信している。
（授業） 「化学」、「理工化学」のような1年生を対象にする科目に関しては、基礎学力が不足している学生にも理解できるように、演習問題を取り入れながら講義を行った。「分析化学」では学生の理解を助けるために演示実験を取り入れた。	一定程度の成果が得られた。
（実験） 安全に実験を行うための心がけを学生に理解させるように努めつつ、実施している実験内容を理解しやすいよう工夫した。	実験の回数を重ねるごとに学生たちの理解が深まり、スキルも向上する様子が見てとれた。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 学生が自分の力で理解して、得られた結果に対して考察できるようなテーマの卒業研究の指導を行った。また、社会人に成ってからプレゼンテーション能力は大切であると思われるため、より良いプレゼンテーションを準備できるように指導し、口頭での発表方法についても十分な指導を行った。さらに、3年生の演習に関しては、4年生の卒業研究の途中経過を何度か聞かせることで、1年後の卒業研究の導入教育を行った。また、4年生になった時の就職活動の準備のため、入社試験で実施されるSPI試験への準備の指導、スケジュール管理の仕方など、考え方に対する指導なども行った。	指導した学生は、前期、後期とも練習の成果が見られる立派なプレゼンテーションを行った。また質疑応答も十分に評価できるものであった。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	高崎みつる	就任年度	1989 (平成元)年度
----	------------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 水質環境工学 水質浄化工学 淡水資源学 卒業研究 食環境演習Ⅲ 化学実験Ⅰ(分担) 食環境実験Ⅱ(分担) 食環境実習(分担)
2.大学院担当科目 水質生態修復学特論 水質生態制御学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁 数	査読 の有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Stratification of sulfur species and microbial community in launched marine sediment as revealed by improved sulfur-fractionation method and 16S rRNA gene sequencing	共著	2019 年 3 月 6 日 (受理)	微生物生態学会 (受理直後)	Hideyuki Ihara, Yoko Katayama, <u>Mitsuru Takasaki</u> , Tomo Aoyagi, Tomoyuki Hori		
【その他】 (報告書など)						
「生物化学の手法を活用した掘削土・刈草・除伐材の資源化技術開発」	共著	2019 年 3 月 6 日	国交省・河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野 (河川)技術研究開発報告書	<u>高崎みつる</u> 玉置 仁		
石巻専修大学研究ブランディング事業報告書 平成 28 年度～平成 30 年度	共著	2019 年 3 月 22 日	石巻専修大学	<u>高崎みつる</u> 、芳賀信幸、阿部知顕、依田清胤、鳴海史高、福島美智子、宮寄厚、玉置仁、尾池守、泉正明、高橋智、島田了八、足立岳志、中込真二、工藤すばる、佐々木慶文、渡辺正芳、劉忠達、木村健司、松谷武成、前田敏輝、太田尚志、鈴木英勝、青柳智、熊谷幸博、菊池忠次	14-38	

【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
津波打ち上げされた海底堆積物の酸化還元境界 で見出された単体硫黄が鍵となる微生物硫黄循環	共著	2019 年 3 月	日本水環境学会 2019 年会	猪原英之、片山葉子、青柳智、 <u>高崎 みつる</u> 、堀知之		
海洋由来津波堆積物内の無機硫黄形態 及び硫 黄酸化細菌の鉛直プロファイル	共著	2018 年 10 月	微生物学生態学会 2018 年 年会	猪原英之、片山葉子、青柳智、 <u>高崎 みつる</u> 、堀知之		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2002 年（平成 14 年）～現在に至る	国土交通省東北地方整備局 北上川リバーマスター
1999 年（平成 11 年）～現在に至る	国土交通省東北地方整備局 鳴瀬・吉田川流域学識者懇談会委員
1996 年（平成 8 年）～現在に至る	国土交通省東北地方整備局 北上川流域学識者懇談会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

Ⅴ 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
私立大学研究ブランディング事業	第 1 グループ 代表	

Ⅵ その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 学生の理解・イメージレベルを確認しながら全員参加型の応答を心がけた講義を行う。講義後にその日の交互内容に関するレポートをまとめさせ、受け手（学生）の解釈を通し、次回講義への反映を行う	
（実験） 実験の意味を「自然界や産業界からの意義」「学術的意義」「学問の基準」などから説明しそのバックグラウンドの下で実験を行う。但し、手先の作業に不慣れな学生の多いことから、実験の正確さ（再現性の高さ）に関するレベルアップは評価基準から外す	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 体を動かし自然界にテーマを探る=それを意識させ → 自分のテーマは様々な研究・観測・実験の手伝いを経た後で自ら考えさせる。そのテーマを理系大学の卒業研究デザインとして相応のものとなるよう指導し、実験を自ら進めさせる	
（その他特記すべき事項） 情報方の中から、社会の変化を踏まえさせその中・将来の姿を予想した学生一人ひとりが自ら感じ動かされた考え方を形に出来るように心がけた指導を行う	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	柴田清孝	就任年度	1992(平成 4)年度
----	------------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 分子生物学、遺伝子工学、サプリメント論
2.大学院担当科目 遺伝子工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
大規模食鳥処理場で分離された ESBL 産生大腸菌 の ESBL 遺伝子解析による株同定の試み	共著	2018 年 (H30 年) 9 月	平成 30 年度全国公衆衛生獣医師協議会東北ブ ロック	依藤大輔、阿部知顕、 <u>柴田清孝</u>		
Analysis of <i>cop1</i> -induced inflorescence morphology in Arabidopsis <i>cop1</i> 変異による矮化誘導機構の解析	共著	2019 年 (H31 年) 3 月	第 60 回日本植物生理学会年会	中川繭、竹内梨沙、大沼 巧、 <u>柴田清孝</u>		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年 4 月～2019 年 3 月	遺伝子組換え実験安全委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 講義ごとに、まとめ・小テストを行い講義内容の理解を深めた。	授業アンケートでは、平均的な評価が得られた。
（実験） 化学実験：タンパク質の定量 食環境学実験Ⅰ：遺伝子工学実験を行った。	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 大学祭理工学部企画：知の宝箱に参加した。	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	山崎達也	就任年度	2000(平成 12)年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 フレッシュマンセミナー、食環境特別科目 I、基礎化学 A、基礎化学 B、無機化学、化学環境学、化学実験、食環境学実験 I・II、食環境学実験III、食環境学演習 I・II、食環境実習 II、水環境実習、食環境学演習III、卒業研究
2.大学院担当科目 無機プロセス化学特論、物質工学特別研修 I , II、有機材料化学特論、物質工学特別演習・実験 I , II、複合材料化学特論、資源環境化学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
Partial oxidation of real bioethanol to acetaldehyde over Au nano particles supported on several zeolites	共著	2018.9	平成 30 年度化学系学協会東北大会	鈴木友香理・斎藤麻里子・菊池尚子・塩谷歩美・山崎達也・加藤雅裕・吉川卓志・和田守		
Pt-Rh/CeO ₂ -Al ₂ O ₃ 触媒の CH ₄ /CO ₂ 改質反応特性に及ぼす担体複合効果	共著	2018.9	第 122 回触媒討論会	末永拓蔵・内海悠介・菊池尚子・山崎達也		
ゲート効果を示す ELM-11 への低級炭化水素気体の吸着特性	共著	2018.11	第 32 回日本吸着学会研究発表会	高橋秀典・菊池尚子・山崎達也		
Partial Oxidation of Real Bioethanol to Acetaldehyde using Au Nano Particles Encapsulated in MFI Zeolite Pore	共著	2019.3	日本化学会第 99 春季年会	鈴木友香理・菊池尚子・山崎達也・加藤雅裕・吉川卓志・和田守		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2009(平成 21)年 11 月 27 日～	日本吸着学会評議員
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2011(平成 23)年度～	実験廃棄物処理委員会委員長	
2011(平成 23)年度～	分析センター長	
2005(平成 17)年度～	毒物・劇物管理責任者	
2011(平成 23)年度～	放射線傷害予防委員会委員	
2011(平成 23)年度～	実験廃棄物処理委員会委員長	
2018(平成 30)年度～	人を対象とする研究倫理審査委員会委員	
2018(平成 30)年度～	大学院物質工学専攻主任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）1 年次配当の「基礎化学 A、B」は理工学部の固有科目であるが、化学の基礎学力が極めて乏しい学生も多くなってきた。そのため中学レベルからはじめる必要があり、大学レベルまでの引き上げに苦慮した。昨年と比較しても学力水準は低下し、特に食環境学科の学生の気質が理工学部からそうでないものへと変化したことを感じた。 2 年次配当の「無機化学」は基本的に食環境学科と生物科学科の学生、「化学環境学」は食環境学科の学生だけの受講となったが、基礎学力の低下は著しく、予定の進度を達成できないことが多かった。 上記の授業では基本的に講義プリントを用意して講義を行ったが、プリントをもらって安心してしまう学生もあり、板書してもノートをとらない学生への指導の必要性を感じた。次年度以降は、板書をどう利用するか、プリントの利用法とノート作成法などの指導を進めていきたいと思う。	基礎化学 B に関してはボリュームを減らし、演習や解説に時間をかけたのでおおむね満足されたようである（評価 4.2～4.6）が、まだ不足と感じる学生もいたようである。配布したプリントも評価されていると感じた（評価 4.3）が、板書に関しては改善したい。 無機化学に関しては内容の理解の評価がやや低くなった（3.7）、学力レベルに合わせた対応が必要である。 化学環境学に関しても内容の理解の評価がやや低く（3.7）、また板書や話し方に関して改善の余地がある（評価 3.9）
（実験）化学実験では、器具操作ができない学生や基本的知識（常識）がない学生が多くなってきた。実験を安全に行う上で一層の配慮が必要と感じた。また、集合時間の厳守や実験にふさわしい服装の徹底などははじめに徹底することで改善される傾向にあったが、積極的に作業に参加しない学生やふざけ半分の学生がいたことは否定できない。また、メンタルに問題を抱える学生の対応など、教員個人では対応できない場合も多くなっており、全学的に対応を検討していかなければならないと考える。 レポートについてはやたらとたくさん書いてくる学生と、出せばいいというようななげやりなレポートに二極化する傾向にある。どちらも大事なポイントを抽出できないという点では同根の問題で有り、「レポートとは何か」から指導が必要と感じる。実験では「考察とは何か」、「考察の考え方」を指導しているが、考える力を養う努力は困難を極めている。 食環境学実験 I, II では、提出されたすべてのレポートをチェックし、学生に訂正指示や書き方の指導などのケアを行っているが、日本語の問題をはじめ、人に見せるものであるという意識など、レポートに対する考え方から指導しなければいけないと感じている。	二年生の化学実験に関しては、これまでデータ処理と考察を徹底的に行ってきたので、「実験の意味や考察がよくわかった」、「計算できて嬉しい」という学生がいたが、その一方で、実験の進行が遅く、十分に時間がとれなかった学生も有りフォローが十分でなかった。積極的に質問できる環境をつくっていきたい。 三年生の実験では数回のレポート再提出が必然の状態だが、できる限る対応し、ある程度のものは頑張っについてきた。しかし満足なレポートに達しないものの散見され、従来の方法の限界も感じている。
（ゼミナール・卒業研究・演習）卒業研究については、研究室で継続的に行っているテーマについて、今年も卒研生が熱心に取り組んだ。今回在籍した 3 名の卒業研究は学術的にある程度の成果を上げており、各自 1 回以上、全国的な学会での発表も行っている。ただし、「決まった実験はできるもののデータの整理や解析ができない」、「長期的な研究計画を立てられない」などの傾向は相変わらずあり、考えながら研究を進めていけるよう、各学生に個別で指導を行い、短期的な計画を立てながら研究指導を進めた。プレゼンについても、相手の立場に立って話す訓練が不足していると感じたので、各自でお互いに積極的に説明させる訓練を行った。	連日遅くまで実験していたが、みんな笑顔で卒業できたことがなによりの評価と考える。学会にも参加させたので苦労もあったと思うが、その分積極性も出てきたと思う。 今後は学生の気質に応じた研究指導がますます要求されるので、それに対応していきたい。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工 学部	食環境 学科	職名	教授	氏名	前田 敏輝	就任年度	1990 (平成 2) 年度
----	-------	--------	----	----	----	-------	------	----------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 フレッシュマンセミナー、食環境特別科目 I、物理学、運動と波動、食品レオロジー、水環境の物理学、化学実験、食環境学演習 I・II・III、食品工学実習、食環境学実験 I・II、卒業研究
2.大学院担当科目 修士課程 応用光学特論、光物性学特論、応用物性学特論 I、博士課程 物質光工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年 4 月～	食環境学科主任	
2018（平成 30）年 4 月～	教員資格審査委員会委員	
2012（平成 24）年 4 月～	放射線障害予防委員会委員	
2015（平成 27）年 4 月～	開放センター委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 「大福帳. js」という交換日記型 Web アプリケーションを利用し、学生との間で双方向のコミュニケーションを行なった	担当科目「物理学・理工物理学」の授業評価において、「内容を理解できましたか」の評価が 3.5 となり、昨年度の 3.0 から改善した。大福帳での質問のやり取りが、授業への関心を高めたと思われる。
（実験） 実験テーマ「放射線の計測」において、放射線計測とコンピュータ実習を融合した実験を実施した	コンピュータによるやや高度なデータ解析、文書作成ソフトによるレポート執筆を学生に求めたが、多くの学生にとって負担が大きく、レポートの完成度はやや低くなった。今後難易度の調整が必要である。
（ゼミナール・卒業研究・演習） ビジネスチャットアプリ Slack を導入し、研究室内のコミュニケーションの円滑化を図った。	Slack の利用により、教員からの指示、学生からの質問などがリアルタイムで行えるようになった。また実験データや文書のやり取りも簡単になり、学生指導が効率的に行えた。
（その他特記すべき事項） (1) 志津川高校の生徒を対象に模擬授業を実施した (2) 仙台育英高校の生徒を対象に模擬授業を実施した	(1) 演示実験を取り入れた授業のため、生徒は最後まで集中して聞いてくれた。 (2) 実際に食品を食してもらって、その食感を言葉で表現するという体験型の授業が、非常に好評であった。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	教授	氏名	玉置 仁	就任年度	2003(平成 15)年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 食環境特別科目 I(分担), 環境調査法, 生物環境工学, 生物環境統計学, 食環境学実習 I(分担), 水環境実習(分担), 化学実験(分担), 食環境学実験 I, II(分担), 食環境学演習 I, II(分担), 食環境学実験 III, 食環境学演習 III, 卒業研究, 自然環境論(分担)
2.大学院担当科目 沿岸生態工学特論, 生態工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
河川砂防技術研究開発制度成果レポート 生物化学の手法を活用した掘削土・刈草・除伐材 の資源化技術開発	共著	2019(平成 31)年3月	国土交通省ホームページ	玉置仁, 高崎みつる	1-15	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
波津々浦湾干潟の底質環境変化における周辺域 からの流入物の寄与	共著	2018(平成 30)年9月4 日	第21回日本水環境学会シンポジウム	丸山千賀, 鈴木まゆみ, 小瀬知洋, 川田邦明, 玉 置仁, 坂巻隆史		
沿岸工事の前後におけるアサリの生育と干潟底質・ 水質環境の変化	共著	2019(平成 31)年1月9 日	第6回日本水環境学会東北支部研究発表会	高橋直也, 高谷貴之, 玉置仁		
沿岸工事の前後におけるアサリの生育と干潟底質・ 水質環境の変化	共著	2019(平成 31)年3月7 日	第53回日本水環境学会年会	高橋直也, 高谷貴之, 玉 置仁, 丸山千賀, 小瀬知 洋, 坂巻隆史		
波津々浦湾における干潟底質の粒度組成の変動と 湾周辺からの堆積物負荷との関係	共著	2019(平成 31)年3月7 日	第53回日本水環境学会年会	澁谷真人, 関根正也, 丸 山千賀, 鈴木まゆみ, 大 野正貴, 小瀬知洋, 川田 邦明, 玉置仁, 坂巻隆史		
波津々浦湾干潟における周辺域からの堆積物負荷 が干潟底質へ及ぼす影響	共著	2019(平成 31)年3月9 日	第53回日本水環境学会年会	丸山千賀, 鈴木まゆみ, 大野正貴, 小瀬知洋, 川 田邦明, 玉置仁, 坂巻隆 史		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2009 年 4 月～継続中	(公社)日本水環境学会東北支部幹事
2012 年 4 月～継続中	環境省 生態系監視調査 アマモ場調査グループ 万石浦サイト・松島湾サイト代表者
2018 年 4 月～継続中	(公社)日本水環境学会 湿地・沿岸域研究委員会委員長
2018 年 8 月～2019 年 3 月	宮城県鳴瀬川流域水循環計画策定検討委員会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】	
アウトリーチ:第 1 回石巻専修大学研究シェアリング・プログラム, 2019 年 2 月 25 日	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2014 年 3 月～	学校法人専修大学個人情報保護委員会(個人情報業務責任者)	
2017 年 4 月～	入学試験委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 図書館を活用した文献検索	
（実験） 図書館を活用した文献検索，体験することを重視した実験の展開	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	准教授	氏名	鈴木英勝	就任年度	1999（平成 10）年度
----	------------	----	-----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 食品加工学、食品寄生生物学、情報活用 II、食環境演習 I,II,III,食環境実験 I,II,III、キャリアデザイン
2.大学院担当科目 海洋生物ミネラル特論,海洋生物機能学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
活締め脱血による宮城県産養殖ギンザケの品質 向上に関する予備的報告	単著	2019 年(平 成 31 年 3 月)	石巻専修大学研究紀要	鈴木英勝	127-130	無
【その他】(報告書など)						
廃棄サバから DHA、EPA のコメントが掲載		2018 年(平 成 30 年 9 月)	週刊アサヒ芸能			
廃棄サバから DHA、EPA 抽出成功 石巻専修 大の鈴木准教授ら、製造法で特許取得		2018 年(平 成 30 年 9 月 1 日)	石巻かほく			
ブラックバスかまぼこに		2019 年(平 成 31 年 2 月 2 日)	石巻かほく			
産学連携で初の研究シェアリング・プログラム 研究記事が紹介		2019 年(平 成 31 年 2 月 28 日)	石巻かほく			
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
マサバ内臓脂肪塊の有効利用に関する基礎的研	単著		日本水産学会東北支部大会			

究						
---	--	--	--	--	--	--

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
石巻専修大学模型研究会 模型展示	大学祭 地元、仙台の玩具店	2018 年（平成 30 年）	顧問を務める石巻専修大学模型研究会の模型の展示

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2003（平成 15）年～	日本水産学会東北支部幹事 2003（平成 15）年～ 日本水産学会東北支部連絡調整役（2016 年（平成 28）年～
1994（平成 6）年～	石巻専修大学同窓会幹事
2015 年(平成 27) 年～	石巻北高等学校・飯野川高等学校 外部評価委員（学識部門）
2017(平成 29)年～	石巻市河北町まちづくり協議会 専門委員（学識部門）
【その他研究活動上特記すべき事項】 特許取得、特開番号 2015-232100、発明等名称 脂質組成物、高度不飽和脂肪酸、それらの製造方法および製品	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2013（平成 25）年～	学生部	
2015（平成 27）年～	高大接続	石巻北高等学校・飯野川高等学校担当
2018（平成 30）年度	就職指導委員	

VI その他特記すべき事項

青森県の菓子製造業者に海藻類を使用したお菓子の技術指導。今年中に商品化予定。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 新聞の記事を取り入れ、新しい食品や寄生虫の情報を食品加工学・食品寄生物で学生に伝えた。 文字が小さいとの指摘に対して、大型スクリーンを採用した	
（実験） 食環境学科でありながら食の実験がほとんどないとの指摘に対して、アイスクリーム、蒲鉾の製造実験を行った	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 食環境学科	職名	准教授	氏名	鳴海 史高	就任年度	1998(平成 10)年度
----	------------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 有機化学，高分子化学，食品成分の化学，化学実験Ⅰ・Ⅱ，食環境学実験Ⅰ～Ⅲ，食環境学演習Ⅱ・Ⅲ，食環境学実習Ⅲ，卒業研究
2.大学院担当科目 有機プロセス化学特論，有機材料化学特論，精密合成化学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
Optical resolution of <i>anti-O,O'</i> -bis(carboxymethyl)- <i>p</i> - <i>H</i> -thiacalix[4]arene and its application	共著	2018(平成 30)年 9 月	平成 30 年度化学系学協会東北大会	岩清水慶多、高橋健太、 鳴海史高		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年度～継続中	石巻市廃棄物対策審議会, 会長
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年度	図書館委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）授業毎に宿題を課し，提出させ，翌週に解答を配布した．特に正解率が悪かった問題については，授業内で解説した．	宿題については，授業アンケートにおいて，復習に役立つといった意見が多いため，今後も継続していく．
（実験）特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習）特記事項なし	
（その他特記すべき事項）特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	芳賀 信幸	就任年度	1889（平成 1）年
----	------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 バイオテクノロジー、動物生理学、生物学、原生動物学、生物科学特別科目 II、生物学実験、生物科学実験、生物科学実習、卒業研究
2.大学院担当科目 細胞工学特論、細胞操作特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】特記事項なし						
【論文】特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
Paramecium: a simple and sensitive bioassay system for cytotoxicity and biocompatibility of nanoparticles in excitable membrane function and nuclear organizations in early development.	単著	2018 年 10 月	8 th Annual World Congress of NANO SCIENCE & TECHNOLOGY			
ゾウリムシの生活史相転移におけるイマチュリンの役割	単著	2018 年 10 月	日本原生生物学会第 51 回松江大会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2000(平成 12)年度～継続中	石巻市介護保険運営審議会会長
2006（平成 18）年度～継続中	石巻テニス協会会長
2013（平成 26）年度～継続中	石巻市地域包括ケア推進協議会会長
2018 (平成 30)年度～継続中	日本原生生物学会監事
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2019（平成 31）年 1 月 11 日（他）	キャンパス・ハラスメント防止委員会委員（相談員）	学生・教員からの聞き取り調査等

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）一コマで一つのトピックスが完結するように、講義内容を精選した。重要なポイントは次の時間の始めの部分でも振り返って確認する作業を行った。 学習内容の中で特に重要なものについては、新たな問題を考えることによって多方面から知識を深めることができることを、例を挙げて解説した。	担当した講義は4科目であったが、それぞれの総合評価は4.7から4.9であった。アクティブラーニングを講義に取り入れる要望があったので、次年度では効果的な方法を考えて実施したい。 熱意のある面白い授業、という感想もあった。
（実験）実験のエッセンスとして、目的の明確化、実験手法の原理の理解、実験操作技術の習得、実験結果と考察の区別、などを明確にしてレポートを作成する意識付けを行った。	初めに実験の意義を理解すると学生のレポートは個性的で充実したものになる。
（ゼミナール・卒業研究・演習）卒業研究のテーマは、学生の自主的な興味と事前調査に基づいて決定するように努めた。また、好奇心や瞬間的な思い付きなども尊重して、個々の実験の進め方に取り入れるようにアドバイスし、エンカレッジした。 広い視野に立って考察する習慣を身に着けることの重要性を実感した。	多くの学生は、卒業研究が自分から発した知的作業で進行しているという実感を持てたのではないかと思う。また、ゼミナールや演習では、広い視点から問題を討議することによって、仲間の興味を共有できる姿勢が育つケースもあった。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	吉原 章	就任年度	1996 (平成 8) 年度
----	------------	----	----	----	------	------	----------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎物理学 B (BI/FE), 基礎物理学 B (IE/ME), 量子物理学
2.大学院担当科目 修士課程：応用物性学特論 I，表面界面物性工学特論，非線形光学特論 博士後期課程：表面物理工学特論，磁気物性工学特論，非線形光工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		特記事項なし
2.作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし
4.その他教育活動上特記すべき事項		特記事項なし

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
		特記事項なし	

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
平成 29 年 4 月 1 日	宮城工業会特別会員
平成 29 年 4 月 1 日	石巻商工会議所参与
平成 29 年 4 月 1 日	東北エネルギー懇談会参与
【その他研究活動上特記すべき事項】 論文審査員： Phys. Rev. & Phys. Rev. Lett. （米国物理学会）	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
平成 29 年 4 月 1 日	理工学部長及び関連教学役職	
	専修大学評議員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ■昨年度の授業評価アンケートで出された学生の要望に沿って、担当科目（基礎物理学B、量子物理学）の講義で使用するパワーポイントファイルをコースパワー上に掲載し、学生が自由にダウンロードできるようにした。 ■基礎物理学Bを履修した留学生のために、フリガナ付きの講義ファイルや試験問題も準備した。 ■量子物理学では、図書館が購入したDVD（神の方程式）を活用した。	■学生アンケートでは基礎物理学Bの講義内容が難しいという意見は相変わらずあるが、講義用ファイルをダウンロードできるので、予習・復習ができて理解が進むという意見もあった。 ■昨年は単位を取れなかった留学生が今年度は単位を取得できた。
（実験） 定年退職による2年次物理学実験担当者の不足を補い、かつ12回の実験指導を確保するため、従来の2週実験＋1週レポート作成指導の4サイクルから3週実験＋1週レポート作成指導の3サイクルに変更することを平成28年度末の物理学実験担当者会議で提案した。平成29年度から3サイクル方式で物理学実験は運営されている。	平成30年度の物理学実験はほぼ従来通りに運営することが出来た。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 3年次から指導してきた3名に加えて、1名が他研究室から移籍してきたため、4名の卒研生を指導した。卒研テーマは琥珀の赤外分光測定を2名、コンピュータ・シミュレーション1名、珪藻類・巻貝類・ゾウリムシの赤外分光測定1名であった。	珪藻類・巻貝類の赤外吸収測定を可能にするため、人工ダイヤモンド板を組み込んだ試料ホルダーを考案した。海洋由来試料の赤外吸収測定が可能になった。
（その他特記すべき事項） 学生アンケートでの要望や他学科教員からの意見を取り入れ、物理関連3科目の共通教科書として、平成29年度より高専レベルの教科書を採用した。	■基礎物理学Bの教科書に関するアンケートを実施した結果、高専レベルの教科書を使うことに肯定的な意見が多かった。一方、このレベルの教科書では易し過ぎるという意見と、それでも難しいという意見もあった。 ■授業のレベル設定が極めて困難な状況に直面しており、昨年も提案したが、習熟度別クラス編成が必要である。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学学科	職名	教授	氏名	松谷武成	就任年度	2003（平成 15）年度
----	-------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 海洋動物発生学、無脊椎動物学、海洋動物生産学
2.大学院担当科目 無脊椎動物増殖学特論、無脊椎動物生理学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
牡鹿半島のカササギ(<i>Aegialitis armilla</i>)を用いた放射性セシウムのモニタリングと動態の検討	共著	2019年3月	石巻専修大学紀要 30号	福島美智子、根本智行、 依田清胤	9-13	
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018 年 4 月 1 日	石巻市水産物地方卸売市場運営協議会 会長
2018 年 4 月 1 日	宮城県水産高等学校 評議員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年 4 月 1 日	学生部委員会 委員	
2018 年 4 月 1 日	紀要編集委員会 委員	
2018 年 4 月 1 日	石巻専修大学育友会主任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）個々の事象を知るとともに、それぞれの事象の関係を把握することを目指してスライドを中心とした講義を行っている。	その日の講義で理解させたい項目をさらに整理すべきであろう
（実験） で生命体の形態と機能を理解すること希望している	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 実験設定をしっかり理解し、得られた結果を科学的に評価できることを目指して実験と研究を指導してい。	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	佐々木洋	就任年度	1989(平成元)年度
----	------------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 海洋学、生態学、極限環境の生物学、卒業研究
2.大学院担当科目 海洋生産生態学特論、海洋生産環境学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 学内教員セミナー「授業研究会」にて講演	平成31年 1月24日	FD委員会主催の授業アンケートにおいて好評であったため、教員、事務員を前に短時間の模擬講義を行った。
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【修士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
平成 30 年度	島絵里奈	北極海における有殻翼足類 <i>Limacina helicina</i> の殻密度の測定	主査

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
水産加工場廃液由来のリサイクル培地による燃料油生産可能な植物プランクトン培養への適用可能性	共著	H31 年 2 月	沿岸海洋、56 巻、2 号。	佐々木洋、野坂裕一、真壁竜介、斎文伸、太田尚志	115-122.	有り
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
Variability of shell density of thecosomatous pteropod <i>Limacina</i> sp.	共著	H31 年 2 月	第 34 回北方圏国際シンポジウム	島絵里奈、佐々木洋、木元克則		無し
Shell morphology/density variations of thecosomatous pteropod <i>Limacina helicina</i> recovered from off Mombetsu, Sea of Okhotsk: A result from 2017 to 2018	共著	H31 年 2 月	第 34 回北方圏国際シンポジウム	島絵里奈、佐々木洋、佐々木理、木元克則		無し

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
石巻専修大学シェアリングプログラム	石巻専修大学	平 31 年 2 月	有用微細藻類の利用

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
平成 30 年度	日本プランクトン学会評議委員
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 講義中の学生の反応を注視しながら講義を行っている。	FD 委員会主催の授業アンケートにおいて「海洋学」、「生態学」は高評価であった。
（実験） 担当する実験のうち、3 年生を対象に数理生態学実験を行っている。複雑なプログラム言語を使用せず、計算ソフトのエクセルのみを使用するためほぼ全員が実験のねらいを理解するに至っている。	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究の課題は、身近な牡鹿半島周辺の海洋環境と生物を扱うことが多い。4 年生の一人は卒研発表の際に、優秀ポスター賞を受賞した。	一部の卒業論文は高い評価を得た。
（その他特記すべき事項） 特別科目 I として、特に英語に興味を持つ 1 年次学生を対象に英文生物学書の輪読をさせている。	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

所属	理工学部	生物科学科	職名	教授	氏名	角田 出	就任年度	1989(平成元)年度
----	------	-------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 1) 理工学部生物科学科 : 基礎化学（化学Ⅰ，基礎科学A），海洋脊椎動物学（水族動物学，海洋生態学），魚類生理学（水族生理病理学），生物科学実験Ⅴ，生物科学演習Ⅱ，卒業研究，生物科学実習ⅠB（臨海系），生物科学実習ⅡB（海洋生物系），生物科学実験Ⅰ・Ⅱ，生物科学実験Ⅲ，生物学実験，バイオサイエンスコミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ，フレッシュマンセミナー，基礎履修演習（後期） 2) 人間学部 : 自然環境論， 3) 理工学部全体 : 生活習慣と健康管理
2.大学院担当科目 1) 理工学研究科修士課程 : 魚類生理学特論，生命科学特別研修Ⅰ・Ⅱ，生命科学特別演習・実験Ⅰおよび実験Ⅱ 2) 理工学研究科博士後期課程 : 魚類生理病理学特論・海洋生物学セミナー・生命環境科学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 環境リスク学(島根大学生物資源科学部)

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書，教材，参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表，講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 石巻小学校（6年生対象）理科教室実施 宮城県水産高等学校	2018 年（平成 30）年 10 月 25 日 2019 年（平成 31 年）3 月 28 日	東日本大震災からの復興支援事業の一つ，日本海水学会若手会主催の第 5 回海水・生活・化学連携シンポジウムの一環として石巻小学校児童に対し実験講義を行った（代表 高瀬）。 宮城県水産高等学校との共同研究（研究支援）として，当該高等学校の学生達

		が学会等で発表できるように，実験およびその後の発表に至る各過程での支援を行った： ①，マボヤの鮮度は見かけによらない?!（第 5 回海水・生活・化学連携シンポジウム発表；受賞），②ナンノクロロプシス経口投与がヒラメ成魚の生理状態に及ぼす影響，③魚屋さんにおけるマボヤの陳列方法の提案（H31.3.28 水産学会発表）。
--	--	---

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発表図書・雑誌名称（巻・号数 or 章番号）（発行所の名称）	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
黒酵母由来 β -グルカンの経口投与が魚類の生理活性に及ぼす影響	共著	2019（平成 31）年 3 月	石巻専修大学研究紀要，第 30 号	角田 出・高瀬清美		無
【その他】（報告書など）						
地域特産オリーブを活用したオリーブ銀鮭の開発	単著	2019（平成 31）年 3 月	平成 30 年度共創研究センタープロジェクト事業（研究プロジェクト）報告書			無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）		
生息環境条件の違いが魚類群効果に及ぼす影響 生息環境条件の違いが魚類群効果に及ぼす影響 ― 環境水の温度，溶存酸素，塩分濃度，流速，水質汚濁，餌条件―	共著	2018(平成 30)年 6 月 8 日	日本海水学会	角田 出，佐藤裕希，渡辺大介，野木慶太，角張博聡，高瀬清美		
黒酵母由来 β -グルカンや野生植物ミネラの経口投与がギンザケの生体防御活性に及ぼす影響	共著	2018(平成 30)年 6 月 8 日	日本海水学会	高瀬清美，角田 出		
マボヤとマガキの品質向上を目指したオゾンマイクロ・ナノバブル処理	共著	2018(平成 30)年 10 月 25 日	第 5 回海水・生活・化学連携シンポジウム（日本海水学会）	角田 出，高瀬清美，末永寛太，丹野好美		
震災後の宮城県沿岸域の水・底質と同所に生息するシロメバルのストレス応答	共著	2018(平成 30)年 10 月 25 日	第 5 回海水・生活・化学連携シンポジウム（日本海水学会）	角田 出，高瀬清美，佐藤大仁，角張博聡，		
黒酵母由来 β -グルカンの経口投与が魚類の生理活性に及ぼす影響	共著	2018(平成 30)年 10 月 25 日	第 5 回海水・生活・化学連携シンポジウム（日本海水学会）	高瀬清美，角田 出		
生物資源を用いた魚類の外部寄生虫症の予防と治療	共著	2018(平成 30)年 10 月 25 日	第 5 回海水・生活・化学連携シンポジウム（日本海水学会）	小泉 彩，高瀬清美，角田出		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30）年～現在に至る	所属学会： 日本動物学会，日本水産学会，日本海水学会，日本水環境学会，日本農芸化学会
2018（平成 30）年～現在に至る	委員： 日本海水学会；評議委員， 日本農芸化学会； 東北支部会 参与 日本海水学会；環境・生物資源研究会 代表 平成 31 年 3 月 11 日 同研究会シンポジウムを（公財）微生物化学研究所で開催 NPO 環境保全米ネットワーク；会計監事， 公益財団法人塩事業センター研究開発外部評価委員； 環境分野，および，分析分野 宮城県水産高等学校 石巻市オリーブ研究会委員・第 6 次部会委員
2018（平成 30）4 月～2029（平成 31）年 3 月	社会貢献等： 宮城県水産高等学校と連携事業として，1) マボヤの鮮度保持，2) ヒラメの成長と生体防御活性増強に関する研究の技術指導・同校発表の支援等（平成 30 年 10 月の海水・生活・化学連携シンポジウムで発表，受賞。また，平成 31 年 3 月 28 日の日本水産学会高校生の部ポスター発表会にて 2 演題を発表） 石巻市オリーブ研究会委員，および，同 6 次化推進委員 ギンザケ等の高品質化に向けて石巻市や同事業関係企業等と連携 ジビエの安全・安心に関する地域の研究開発支援 共創研究センタープロジェクト事業「地域特産オリーブを活用したオリーブ銀鮭の開発」代表 J A みやぎ登米 「生き物調査」に研究室の学生を引率して参加・指導 NPO 環境保全米ネットワークの活動に参加し，環境保全に留意した農業の推進に係る 第 5 回海水・生活・化学連携シンポジウム（日本海水学会主催，東日本大震災復興関連事業）の開催に協力
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年 4 月～2018（平成 31）年 3 月	生物科学科 1 年生担任	
2018（平成 30）年 4 月～2018（平成 31）年 3 月	図書館委員	

VI その他特記すべき事項

特になし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善，授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 受講生には以下のことを周知するように心がけている：① 授業の意図を十分に伝え，理解を促す。②一定の到達レベル内において，個々人の到達点を設定し，それをクリアーさせる。③ 講義の終わりや次講義の始めには，学生の理解度・立ち位置を認識させる。④ 身近な不思議が，さまざまに絡み合って，新たな発見に繋がることを気付かせる。これらを併用することで，学生達の学習意欲を高め，授業への前向きな参入を促すとともに，全体および個人のレベルアップを図るように努めているつもりではある。また，⑤ 地元である石巻圏域の現状を知り，学生生活・勉学に活かすこと，および同地域への定着を促す。そのために，関係する情報をこまめに発信するとともに，地元企業の見学会を開催したり，企業のトップや部門長の方々等に講演・質疑応答をお願いしたりすることを含め，授業内容および同周辺事情に興味を抱かせることで自発的行動を誘発するように心がけているつもりではある。しかし，学生達の基礎力欠如に加え，勉強不足，そして何よりもゼミ配属前の学生においては大学進学目的喪失からの回復遅延もあり，学習内容は当然のことながら，現在の学生達のレベルアップやモチベーションを高く持続することを優先する必要性のある事を痛感している。	授業アンケートをみる限り，授業の取り組みとして周知したつもりであった予習・復習の徹底，目標の設定と可視化，到達点・現状の把握をさせつつ云々は，学生達の行動には殆ど反映されていないことが分かった。次年度は，学生達の基礎力欠如や勉強不足の改善に加え，少しでも学生達の前向きな動き，モチベーションを高く保ち続けられるような実効性のある方策を考えたい。
（実験） 上記①～④の事象を周知・徹底させることは当然ながら，実験に臨む態度，器具の取り扱い，準備から実際の実験実施までの各ポイントを確認・意識させつつ，基礎から応用に向けたステップアップを図るように努めている。ただし，個々人が実験を通して学生と向かい合う時間は極めて短く，限られてもおり，また，基礎力の欠如，並びに，大学進学目的喪失者の増加等の課題も未解決であり，現在の学生達のレベルやモチベーションの持続性等を考えると，今後，システムの最適化（担当者を限定したり，テーマの統一・関連性についての配慮を高めたりする）を急ぐ必要性の高さを感じている。	ゼミ配属生をみる限り，学生実験の効果は極めて低いと言わざるを得ない。実験内容を事前に読み，概略をつかんだり，分からないことを調べたりする等の事前の準備，実際の実験では指導されたポイントを把握し，不明な点は尋ねたり，後で良く調べたりして，それまでの情報を基にレポートを作成する。そして，返却されたレポートを良く見直し，課題解決を図る。このような当たり前のことができるように，少しでも，実験・実習枠の中で改善を進めたい。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 今年の卒業研究・演習参加者は4名であり，通常年に比べて，学生当たりの研究・学習等の活動場は広がった。とは言え，研究室は狭く，協働するには課題も多かった。学生には，自己および地域の現状等を自覚させるとともに，種々の課題解決に積極的に取り組みを進めるように，適度な負荷を掛け，かつ，できるだけ学生本人に考えさせた後に，適宜サポートを行うように心掛けた。また，学生達の共同実験，および，個別実験を併用しつつ，自身の現状および到達点を常に意識させるとともに，進取の気質を持って物事に取り組むように指導したつもりである。例えば，共創センタープロジェクト事業や企業等との共同研究を始めとし，近隣の高等学校（宮城県水産高等学校等）の学生指導や共同研究・研究支援や関連学会や研究会に参加させたりした。その結果，未だ十分とは言えないが，地面に足をつけながら，現状改善やその先の課題をみつけて取り組みを始める学生は育ちつつあると感じる。そして，一部の学生は学会シンポジウムで発表するま	学生側からの評価は別として，また，全体のレベルを均一に高めることができたと問われれば是とはし難いところもあるが，学生達には，自己および地域の現状等を自覚させるとともに，種々の課題解決に積極的に取り組むことで，それぞれに実験に関すること以外にも，広く情報を求め，議論し，またお互いに助け、励まし合いながら，課題解決にいたる道筋を実際に歩ませたりすることによって，彼らに不足していた何かを感じ取ることができたと考えている。彼らのこれからの歩みが楽しみである。

でに至り，希望する企業や業種に就職，あるいは，大学院進学し得る学生を輩出できるようになってきたと感じている。	
(その他特記すべき事項) (1)宮城県立水産高等学校の講義・実習，および，クラブ活動を通した研究・発表等の支援を行った。彼らは，学会や科学系の大会等で発表し，各種の賞を得るに至っている。(2)震災復興支援の一環として，石巻小学校にて理科教室を開催し，ゼミ生参加の下，6年生の児童達に海洋系の実験・講義を行った。(3)学会活動や震災復興支援の一環として，石巻で海水・生活・化学連携シンポジウムを開催したり，東京で環境・生物資源研究会シンポジウムを開催したりすることで，研究者・企業との連携等の各種ネットワークづくりを進めることができ，これらは今後の研究・産業の発展に繋がるものと確信している。	(1)次年度も，水産高等学校の講義・実習やクラブ活動を通した研究・発表等の支援を継続する予定である。 (2)学会活動や復興支援活度等を実施する際には，これまで以上に学生参加型の事業形態を取り入れるようにしたい。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	根本智行	就任年度	1999(平成 11)年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 多様性生物学、植物系統分類学、保全生物学、フレッシュマンセミナー、基礎理数演習Ⅱ、自然環境論、生物科学実習Ⅰ、生物科学実習ⅡA、植物学実習、生物学実験、生物科学実験Ⅰ、生物科学実験Ⅱ、生物科学実験Ⅲ、生物科学演習Ⅰ、生物科学演習Ⅱ、卒業研究、
2.大学院担当科目 系統分類学特論、系統進化学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 生物学実験Ⅱ（宮城教育大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業研究会等を含む) 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 仙台市野草園植物講話講師	2018(平成 30) 年 9 月 8 日	「萩の植物学」について、仙台市市民向けの講演を行った。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Phylogenetic analysis for a new classification of the <i>Desmodium</i> Group of Leguminosae Tribe Desmodieae	共著	2018(平成30)年6月20日	The Journal of Japanese Botany 93/3/165-189	Kazuaki Ohashi, Hiroyoshi Ohashi, <u>Tomoyuki Nemoto</u> , Tatsuki Ikeda, Haruna Izumi, Haruna Kobayashi, Hirokazu Muragaki, Koji Nata, Natsumi Sato and Maika Suzuki	165-189	有
Phylogenetic analyses for classification of the <i>Desmodium</i> group of Leguminosae Tribe Desmodieae 2. Two new genera separated from <i>Desmodium</i> and two new combinations in <i>Grona</i> and <i>Sohmaea</i>	共著	2018(平成30)年10月20日	The Journal of Japanese Botany 93/5/293-306	Kazuaki Ohashi, Hiroyoshi Ohashi, <u>Tomoyuki Nemoto</u> , Chika Abe, Hayato Kotani, Koji Nata Hironori Ohtake and Kana Yamamoto	293-306	有
牡鹿半島のもみ(<i>Abies firma</i>)を用いた放射性セシウムのモニタリングと動態の検討	共著	2019(平成31)年3月	石巻専修大学研究紀要第30号	福島美智子、松谷武成、根本智行、依田清胤	9-13	無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
メドハギとダイズの根粒菌ゲノム比較と共生アイランド進化	共著	2018(平成30)年8月20日	植物微生物研究会第28回研究交流会	今野勇希、梶原聖也、 <u>根本智行</u> 、菅原雅之、南澤 究		
メドハギとダイズの根粒菌共生アイランドとゲノムコアの比較：宿主植物により共生アイランドは進化するか？	共著	2018(平成30)年8月29日	日本土壌肥科学会 2018 年度大会	今野勇希、梶原聖也、 <u>根本智行</u> 、菅原雅之、南澤 究		
Geographic distribution of root nodule bacteria associated with <i>Trifolium lupinaster</i> in Japan	共著	2018(平成30)年8月29日-9月	7th International Legume Conference	<u>Tomoyuki Nemoto</u> , Ayaka Hoshi, Katsuya Sato		

		1 日				
モミ (<i>Abies firma</i>)を対象とした宮城県牡鹿半島における Cs-137 のモニタリング(2)	共著	2018(平成30)年9月12-14日	日本分析化学会第67年会	福島美智子、松谷武成、 <u>根本智行</u> 、Amares Chatt		
イイギリ (ヤナギ科) の雄花にみられる雄蕊の特異な配列および発生パターン	共著	2018(平成30)年12月8日	東北植物学会第8回大会	<u>根本智行</u> 、東 隆行、 邑田 仁		

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2007(平成 19)年度～継続中	植物研究雑誌編集委員
2007(平成 19)年度～継続中	石巻市環境審議会委員
2011(平成 23)年度～継続中	河川水辺の国勢調査アドバイザー
2017(平成 29)年度～2018(平成 30)年度	7th International Legume Conference (28 Aug. – 2 Sept. 2018, Sendai, Japan) (第 7 回国際マメ科会議) 実行委員会委員
2018 (平成 30) 年度～	日本植物学会第 83 回大会 (仙台大会) 実行委員会委員 (高校生対象企画担当)
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2013(平成 25)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	自己点検・評価全学委員会委員長	
2013(平成 25)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	自己点検・評価運営委員会委員長	
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	生物科学科 2 年生担任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み(工夫や改善、授業アンケート結果への対応など)	点検・評価(授業アンケート結果なども含む)
(授業) パワーポイントを使用した授業を行っている。学生には、毎回、スライドの大部分についてプリントで配布している。授業開始時にその日のポイントを明示し、終了直前にはポイントのまとめを行っている。スライドには重要度(=復習時のポイント)を示すマークをつけ、また練習問題や章末問題をつけて復習の手助けをしている。授業中は、可能な限り学生に発問し、口頭あるいは黒板にて解答させるようにしている。	全体的には一方的な授業になりがちである。口頭による発問や練習問題をなるべく多く取り入れることで、(1)学生に思考する時間を増やし、(2)学生とのコミュニケーションの時間を増やすよう心がけた。 配布資料、パワーポイントの見やすさについては、学生の評価は比較的高く、取り組みの成果は上がっていると考える。 授業によっては羅列的な説明が多すぎる科目もあり、内容の整理が必要である。 説明やパワーポイントのスライドの切り替えが早すぎるという指摘もあるため、時間配分を見直し、ゆとりをもった授業設計を心がける必要がある。
(実験) テキストあるいは配布資料で、読めばわかるように実験手順をわかりやすく提示するよう心がけている。 2年生の生物学実験では、レポート内容の充実のため、実験時間内にレポートの作成・提出まで行わせて、提出時に内容確認を行い、必要に応じて再確認を命じている。時間の許す限り、観察結果の適切な整理と正確な理解ができるよう、個別に指導を行っている。 3年生の生物科学実験では、実験内容が多いこと、学生数が多いことから、実験時間内でのレポート指導は不可能である。レポートを受領する際の個別対応によりレポート内容は、短時間内に内容全体をチェックし、可能な限り修正・改善指導を行った。	・2年次生物学実験：レポート内容に対する個別対応により、学生の理解度の向上には一定の効果があると考えている。しかし、時間的な制約があるため、チェックが十分行き届いていない。指導の行き届かない部分を、学生どうしのコミュニケーションを活用して補うことも試していきたい。 ・3年次生物科学実験：提出前のチェックにより、レポート内容は改善してきた。改善点を整理して、実験時間中に、「見せるレポート」作りのためのコツを指導する必要がある。
(ゼミナール・卒業研究・演習) 4年生には、各自が独立して研究する状況を意図的に設定し、個別の研究テーマを与えている。演習(研究室セミナー)では、適切なパワーポイントファイルを作成し、原稿を持たないで口頭発表をするよう指導した。	最終口頭発表では、学生は原稿を持たずにしっかり口頭発表を行うことができた。また、ポスター発表会でも要領よく発表

また、最終口頭発表の後に、学科のポスター発表会に向けて、ポスター作成の指導も行った。	することができており、指導には一定の成果が得られたものと評価する。しかし、学生の力だけで発表準備を完成するまでには至っておらず、教員に依存する傾向が強い。時間をかけた事前指導の更なる徹底が必要である。
(その他特記すべき事項) (1)2017(平成 29)年度に引き続き「生物分類技能検定」の受験指導を正課外授業として実施した。試験直前に、過去の問題を使用して模擬試験を 2 回実施した。また、試験で必須の植物のスケッチ描画の指導を行った。試験の結果、3 級は 21 名中 15 名、4 級は 16 名中 14 名が合格した。受験者を学年別にみると、3 級が 1 年 8 名、2 年 8 名、3 年 4 名、4 級は全員 1 年生であった。昨年度に比べ、1 年生の興味関心が高い。 (2)石巻好文館高校の総合的な学習の時間「甲斐ある人といわれたいむ」で自然科学分野の出前授業を行った(平成 30 年 6 月 19 日)。 講義のタイトル:「植物分類学」-植物の多様性から自然を理解する-	(1)昨年の実績(3 級:21 名中 7 名合格、4 級:4 名中 4 名合格)と比べ、今年度は 3 級の合格率が高くなったこと、また、4 級の受験者が急増した。今年度の取り組みが、事前の周知が行き届いたこと、学生の興味・関心を引きつけたことは評価に値する。この実績を踏まえ、次年度も 1 年生への周知とともに、合格者がさらに上級の 2 級、3 級にチャレンジするよう支援する体制を整備したい。 (2)高校の短い授業時間に対して、少し内容を欲張りすぎた。質問を受け付ける時間がほとんどなかった。次の機会には内容をさらに厳選する必要がある。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	宮 寄 厚	就任年度	2006(平成 18)年度
----	------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 微生物学、植物生理学、菌類学、生物学実験、生物科学実験 II、生物科学実験 III、生物科学実習 I、生物科学実習 IIA、植物学実習、基礎理数演習 I、生物科学演習 I、生物科学演習 II、バイオサイエンスコミュニケーション II、バイオサイエンスコミュニケーション III、特別科目 IV、卒業研究
2.大学院担当科目 微生物生理学特論、発生生理学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 生化学（石巻赤十字看護専門学校）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
Grafting as a tool for study of phototropism in <i>Phycomyces</i> .	共著	2019(平成30)年 2 月	Phototropism: Methods and Protocols (Series of Methods in Molecular Biology, 1924), Humana Press	A. Mivazaki (本人) and T. Ootaki	199-206	無
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30)年 4 月 1 日～継続中	日本菌学会東北支部会事務局代表
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2019(平成 31)年 3 月 31 日	日本菌学会編集委員会編集委員
2018(平成 30)年 10 月 13・14 日	理工学部学祭企画「知の玉手箱」出展参加
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	理工学部生物科学科主任	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	主任教授協議会委員	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	資格審査委員会委員	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	保育士・教員養成センター委員	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～	教務委員会委員	

VI その他特記すべき事項

入試問題チェック者、オープンキャンパス学科紹介（2 回）、オープンキャンパス研究紹介（1 回）、推薦入試面接担当（1 回）、育友会支部懇談会（2 回）、学生の進路に関する面談（含休・退学面談 10 回）、キャリア設計サポート教員（後期）

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 学科固有科目として微生物学（2年次前期）、植物生理学（2年次後期）、菌類学（3年次後期）を担当し、第1回授業時にプリントしたシラバスを配布して授業概要について丁寧に解説している。教科書は用いず、その科目に必要と思われる領域を選択した内容でプリントを作成している。プリント配布および学習支援システムCoursePowerに資料をアップしている。学習状況をチェックする目的で毎回出席を確認している（時短効率化・正確さを図るため、授業用教員アドレスへ必要事項を送信する方法）。	試験答案は返却して状況を概説しており、授業のフィードバックを実践した。本試験不合格者に対しては再試験を実施して対応した。授業アンケート（総合的判断）では、微生物学3.9（平均4.2）、植物生理学3.9、菌類学4.4であった。前2科目の評価を下げた要因は、学生が感じた内容の深さと情報量の多さにあった。しかし、客観的に見て内容は基礎レベルであることから、次年度は情報量を配慮する。
（実験） 生物学実験（2年次前期・後期）、生物科学実験II（3年次後期）を担当している。テキストの工夫として、スムーズな作業の進行を図るため手順確認チェック欄を付けてある。補足する内容をプリントで配布して解説することで、実験への理解度やレポート作成を支援している。	実験中は常に学生の質問に対応し、操作に気を配るよう心がけた。全てのレポートを添削・コメント付けして返却しており、授業のフィードバックを実践した。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究の内容は、学生と十分に話し合った上で決定している。卒業研究の経過内容を発表する演習は毎週定期的に行われ、進捗状況をチェックして必要事項を指導している。発表会の近くでは、定時外にも十分な時間をとって対応している。口頭発表・ポスター発表に加え、卒業論文提出を課すことで、種々の発表形式に対応できるよう指導している。	卒研生3名のうち1名は4年次の取得単位が26単位と多く、十分な指導ができなかった。うち1名は遠方（北上方面）からの学生であり、生物材料を取り扱う指導の難しさを実感した。学生の興味に加え、生活リズムに合わせた卒研テーマの選定が必要である。
（その他特記すべき事項） 出前授業・石巻西高校（6月26日）60分×2回、模擬授業・志津川高校（6月27日）60分×1回 主任として、ガイダンスに始まり、履修・メンタル相談の対応、オープンキャンパスでの学科紹介、学科会の調整・実施等に尽力した。	出前授業・模擬授業では、専門とする菌類の話題を紹介した。この内容は、高校の生物の教科書ではほとんど扱われていないことから、生徒の視野が広がったことを期待したい。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部生物科学科	職名	教授	氏名	依田清胤	就任年度	1993(平成 5)年度
----	-----------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎生物学 B、植物機能形態学、植物生態学、自然環境論（分担）、バイオサイエンスコミュニケーションⅡ（分担）、生物科学演習Ⅰ（分担）、生物科学演習Ⅱ、生物学実験Ⅰ・Ⅱ、生物科学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生物科学実習Ⅰ・Ⅱ、植物学実習、卒業研究
2.大学院担当科目 森林生態学特論、植物生理生態学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
スーダンの侵略的外来植物メスキートの生理と生態	共著	2018	日本緑化工学会誌 43(4)	依田清胤、齋藤忠臣、 辻渉、安田裕、縄田浩史	586-589	
モミ (Abies firma) における放射性セシウムの動態の検討	共著	2018	石巻専修大学研究紀要 29	福島美智子、松谷武成、 根本智行、依田清胤、 大山高熙	5-7	
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
ケヤキの幹から検出される温度変動の樹液流依存性の検証	単著	2018 (平成 30) 年 9 月 14 日	日本植物学会第 82 回大会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30）年 5 月 26～27 日	日本沙漠学会第 29 回学術大会実行委員長
2018（平成 30）年度～継続中	石巻市農政対策審議会会長
2018（平成 30）年度～継続中	石巻市立稲井中学校評議委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
平成 30 年度	広報委員会委員長	
平成 30 年度	IR 推進委員会委員長	
平成 30 年度～継続中	石巻専修大学創立 30 周年記念事業委員会プロジェクト代表	
平成 30 年度	FD 委員会委員	
平成 30 年度	ホームページ委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） CoursePower を活用した講義形態を推進した。	授業評価アンケートはおおよそ平均的な評価だった。今後、さらなる改善を図る。
（実験） 学生相互でのやり取りを促す形態を心掛けた。	「授業への取り組み（2018）」を踏まえ、改善点を模索しながらすすめる。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 野外での活動を促すよう心掛けた。	個別指導のため、授業の成果は学生個人の事性に強く依存する。2018年度は、指導が機能した学生と十分に機能しなかった学生があった。これらの点につき、改善点を模索しながらすすめる。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	阿部 知顕	就任年度	2004(平成 16)年度
----	------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 動物発生学、生化学、理工化学、食品微生物学、バイオサイエンスコミュニケーション I/II、基礎理数演習 I/II、特別科目 II、特別科目 IV、生物科学実習 IA～IIB、動物学実習、生物学実験、生物科学実験 I～III、生物科学演習 I～II、卒業研究
2.大学院担当科目 分子遺伝学特論、生命科学特別研修 I/II、生命科学特別演習・実験 I、生命科学特別演習・実験 II、発生遺伝学特論、細胞・分子生物学セミナー、生命環境科学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 生化学（葵会仙台看護専門学校、仙台医師会看護専門学校）、細胞生物学（石巻赤十字看護専門学校）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）	2018 年 4 月～6 月	バイオサイエンスコミュニケーション I において、学生同士の討論形式のディベートを活用し、クリッカーを使った参加型授業を実施。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項	2018 年 6 月	マインドマップアドバンスプラクティショナーの資格を活用し、学生のノートテイキングの方法について指導

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 特記事項なし	
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	教授	氏名	太田 尚志	就任年度	2014（平成 26）年度
----	------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目： プランクトン学、海洋生態学、水圏微生物学、生物学、理工生物学、情報活用法Ⅰ、コンピュータ活用Ⅰ、生物科学演習Ⅰ、生物科学演習Ⅱ、生物科学演習Ⅲ、生物学実験、生物科学実験Ⅱ、生物科学実験Ⅲ、基礎理数演習Ⅰ、フレッシュマンセミナー、バイオサイエンスコミュニケーションⅡ、卒業研究、生物科学特別科目Ⅳ
2.大学院担当科目： 海洋浮遊生物学特論、海洋浮遊生物生態学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
水産加工場廃液由来のリサイクル培地による 燃料油生産可能な植物プランクトン培養への適 用可能性	共著	2019 (平成 31 年) 年 2 月	沿岸海洋研究 第 56 巻 第 2 号	佐々木、野坂、真壁、齋、 太田	pp.115-122	有
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
海の砂漠に陸の砂漠がもたらすもの	単著	2018 (平成 30 年) 年 5 月	日本砂漠学会第 29 回学術大会公開シンポジ ウム			
ミズクラゲのストロビレーションに及ぼす温度 の影響	単著	2018 (平成 30 年) 年 10 月	2018 年日本付着生物学会シンポジウム			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018 年（平成 30）年度～継続中	東北マリンサイエンス拠点形成事業女川湾調査検討委員
2018 年（平成 30）年度～継続中	仙台一高井戸沢小屋管理委員
2018 年（平成 30）年度～継続中	宮城県仙台第一高等学校山岳部コーチ
2018 年（平成 30）年度～継続中	北上町大須生活改善センター運営委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 所属学会：日本海洋学会、日本プランクトン学会、日本原生動物学会	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年（平成 30）年度～継続中	就職指導委員会	
2018 年（平成 30）年度～継続中	個人情報保護委員会	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）学生の板書速度に大きな開きがあったことを考慮し、ここ数年は、板書量を減らし、資料を配布してスライドでの解説を中心とする講義形式を採用している。講義内容には最新の科学ニュースや身近な話題を取り上げて、画像、動画などを利用して視覚的に内容を把握させるような工夫する他、配布プリントに穴埋め式の記入欄（重要キーワードを記入させる）を設けたり、講義中に学生に質問する（考えさせる）機会を設けるなどした。	授業評価アンケート評価点はすべて平均以上であった。次年度は、今年試みた工夫点をさらに微修正（学生への質問機会を増やす、質問内容を吟味するなど）しながら、改善に取り組む。
（実験）安全第一、関連講義との関連付けを意識するよう心がけた。また、期限までにレポート未提出だった学生に対してポータルで提出を促した（複数回）。	最終的なレポート提出率が大幅に改善された。
（ゼミナール・卒業研究・演習）個別指導の時間をできるだけ多くするよう心がけた。	卒業研究の仕上がり及早まり、総合ディスカッションの時間が増えた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	准教授	氏名	奈良英利	就任年度	2018（平成 30）年度
----	------------	----	-----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 細胞組織学、動物解剖学、自然環境論（分担）、健康科学（分担）
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Systemic neutrophil migration and rapid consumption of neutrophils in spleen.	共著	2018	Data Brief, 20	Takeda, <u>Nara</u> et al.	680-682	有り
Augmentation of the expression of the eotaxin receptor on duodenal neutrophils by IL-21.	共著	2018	Cytokine, 110	Takeda, <u>Nara</u> et al.	194-203	有り
Adsorption of Soluble Immunoglobulin-Type Adhesion Molecules to Cellulose Acetate Beads.	共著	2018	Ther Apher Dial, 22	Nishise, <u>Nara</u> et al.	261-265	有り
Interleukin-21 attenuates FITC-induced contact hypersensitivity response via regulation of dendritic cell function.	共著	2018	J Invest Dermatol, 138	<u>Nara</u> et al.	2174-2184	有り
Protein Tyrosine Phosphatase SHP-2 Is Involved in the Interleukin-21-Induced Activation of Extracellular Signal-Regulated Kinase 1/2.	共著	2018	Tohoku J Exp Med, 244	Jin, <u>Nara</u> et al.	187-193	有り
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 毎回プリントを配布し、それに沿った講義を行った。	授業アンケートの結果、プリントのおかげで復習がしやすいとの評価を受けた。内容を毎年ブラッシュアップしつつ、継続していくつもりである。
（実験） 1. いくつかの学生実験を分担して行った。 2. 本学で動物細胞の培養システムを立ち上げ、確立するとともに、技術を学生に指導した。	1. おおむね高評価だった。しかし、一人で大人数を指導するので目が行き届かない場面もあり、SA の学生をもっと鍛えてから参加させればよかった。 2. 細胞培養実験が出来るようになったので、よりレベルの高い研究ができるようになった。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究のテーマを示し、なぜ今この研究が必要なのかを説明し、実験の指導、補助、データ解析の指導を行った。	配属学生に口頭発表、ポスター発表を行わせた。それ以外にも研究結果を卒業論文として書かせ、学術論文の書き方やデータの解釈の大切さを指導した。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	准教授	氏名	渡辺 正芳	就任年度	2017（平成 29）年度
----	------------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎数学（基礎数学 I）、数学（基礎数学 II）、理工数学（線形数学 I）、応用数学、解析学、基礎理数演習 I、基礎理数演習 II、生物科学特別科目 II、生物科学特別科目 IV、バイオサイエンスコミュニケーション III、生物科学実験 III、生物科学演習 II（通年）、卒業研究（通年）国際体験研修（通年、異文化体験型）
2.大学院担当科目 修士課程：数理解析特論、情報数理特論 博士課程：応用解析学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】特記事項なし						
【論文】特記事項なし						
【その他】(報告書など)特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年度	教務委員	
2017（平成 29）年度～2018（平成 30）年度	国際交流センター委員	国際体験研修で講義を行い、発表学生のサポートをした。

VI その他特記すべき事項

・ダンス愛好会部長、ダンス愛好会は 2018（平成 30）年度石巻専修大学学生表彰の敢闘団体賞を受賞 ・2018（平成 30）年度、大学案内作成における生物科学科担当者

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 算数・数学を一から学び直しながら教養を深めて、「社会知性の開発」につながるような講義を行った。歴史、芸術、心理学、物理・化学・生物など、さまざまな分野と絡めて身近な例を挙げながら授業を行ったことが特色である。たとえば、基礎数学においては次のようなものを挙げた。古代エジプトにおける地球の大きさの計算方法、大学裏山の山頂から見える距離、サグラダファミリアの構造、ピカチュウの寿命、刺激と感覚の関係、神経の反応時間、私たちは巨人になれるか？などである。	授業評価アンケートの個人の平均は4.6でおおむね良かった。授業以外の勉強時間に注目すると、大学全体では週に30分程度や全くしなかったとの回答が多いが、後期の数学では1～2時間程度がボリュームゾーンとなり、8割程度の学生が週1時間以上勉強していた。
（実験） 1年次後期のフレッシュマンセミナーでは生物統計学入門の講義を行った（平均・分散・標準偏差・相関係数・回帰直線・対数グラフなど）。また、3年次前期の生物科学実験Ⅰでは、前半で統計学の学び直しを行い、後半では数理生態学入門の講義を行った。数理生態学は、1年次の基礎数学・数学で学んだ微分積分の活躍の場でもあり、個体数のコンピュータシミュレーション実験の準備にもなることから、講義の効果を期待したい。	2年次の生物学実験、化学実験および3年次の生物科学実験において、学生がスムーズにレポートなどに取り組めるよう、講義内容と実験内容を有機的に結びつける必要がある。また、1年次の講義ではレポートの書き方指導を充実させる必要がある。
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・勉強→発表→議論の流れを通して、考える力や伝える力を養うことを大きな目的として指導を行った。普段のセミナーから分かりやすく伝えることを意識させ、パワーポイントを使ったプレゼン方法を丁寧に指導した。 ・有志の3年次の学生で数理生物学の自主ゼミを継続して行った。卒業研究発表の本番さながらのプレゼン大会を実施し、成果を試す場を提供した。学生同士が互いに評価し、その後の成長に結びつくようにした。	・数学という分野の特性上、勉強のみで終わってしまう傾向にあるが、少しでも学生の成果が出るようサポートする。 ・3年次には数学関係の科目がないこともあり、今後も意欲のある学生を募り、セミナーを実施していく。
（その他特記すべき事項） ・2018（平成30）年度の生物科学科卒業研究ポスター発表会の世話人 ・「生物科学科標本チーム」を立ち上げ、透明標本などを作成して石鳳祭で販売した（共同代表：中川、渡辺）。 目的は、学科内での縦のつながりの場の提供、生物科学科の知名度アップ、正規の授業にはない経験の場の提供である。 また、「知の玉手箱」とのコラボ企画として、理工学部スタンプラリーを開催して石鳳祭の集客に努めた。	・研究室単位ではなく、全体に向けたポスター作成指導を検討する。 ・学生が自ら考えて共同で作業を行うことで、主体性、協働性を養うことができるよう、引き継ぎなどサポートする。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 生物科学科	職名	助教	氏名	中川 繭	就任年度	2015(平成 27)年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 フレッシュマンセミナー、基礎理数演習 I, II、生物科学実習 IA、生物科学実習 IIA、バイオサイエンスコミュニケーション II、生物科学演習 I、生物科学特別科目 III、生物科学実験 I, II、植物学実習、バイオサイエンスコミュニケーション III、生物科学実験 III、生物科学演習 II、卒業研究
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 植物の花器官形成のABCモデルを学ぶ教材の開発	2019(平成31)年3月7日	筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター（T-PIRC）遺伝子実験センター 形質転換植物デザイン研究拠点平成30年度成果報告会にて、筑波大学生命環境系T-PIRC遺伝子実験センターの小野道之准教授と共同研究で開発した教材の報告を行った。
4.その他教育活動上特記すべき事項 ひらめき☆ときめきサイエンス「花のかたちはどう決まる？ 遺伝子から迫る花のでき方」 高大連携事業「総合科目I」 「花はなぜ花になるのか」	2018(平成30)年8月8日 2018(平成30)年10月3日	日本学術振興会主催の科研費研究のアウトリーチ活動として、高校生を対象に花の観察実験実習を行った。 専修大学北上高等学校の学生を対象とした高大連携授業。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当 頁数	査読 の有無
【著書】特記事項なし						
【論文】						
高校生物における花器官 ABC モデルの 取り扱い方について	共著	2019(平成 31)年 3 月 受理	日本生物教育学会「生物教育」 60 巻 2 号(予定)	中川 繭・高橋香穂理		有
花器官形成に働くクラス A, B, C 遺伝子が 欠損したシロイヌナズナ変異体の花式図の作成	共著	2019(平成 31)年 3 月 受理	日本生物教育学会「生物教育」 60 巻 2 号(予定)	中川 繭・高橋香穂理		有
【その他】(報告書など)						
光による茎伸長制御機構の解析	単著	2018(平成 30)年 9 月	日本植物学会第 82 回大会研究 発表記録	中川 繭	P. 211	無
Analysis of <i>cop1</i> -induced Inflorescence Morphology in <i>Arabidopsis</i> , (<i>cop1</i> 変異による 矮化誘導機構の解析)	共著	2019(平成 31)年 3 月	日本植物生理学会 The 60th Annual Meeting of the Japanese Society of Plant Physiologists. 講演要旨集	中川 繭・竹内梨沙・ 大沼巧・柴田清孝	P. 251	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
光による茎伸長制御機構の解析	共著	2018(平成 30)年 9 月	日本植物学会第 82 回大会	中川 繭		
Analysis of <i>cop1</i> -induced Inflorescence Morphology in <i>Arabidopsis</i> . (<i>cop1</i> 変異による 矮化誘導機構の解析)	共著	2019(平成 31)年 3 月	第 60 回日本植物生理学会年会	中川 繭・竹内梨沙・ 大沼 巧・柴田 清孝		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30) 年 8 月 8 日	日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス「花のかたちはどう決まる？ 遺伝子から迫る花のでき方」
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2016(平成 28)年 4 月 1 日～	遺伝子組換え実験安全委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 1年次のフレッシュマンセミナーにて、授業ノートの取り方、実験ノートの取り方、実験レポートの書き方についての講義を行っている。実習以外の実験科目は2年次開講のため、効果がわかるのは次年度となるが、大学での勉強の仕方について戸惑っている学生も多く概ね好評である。 共通科目である「環境と科学」は、各授業の最後に小課題を提出させることで学生の理解度を把握し、進行や課題内容を調整した。コメントや質問に対して次の時間に匿名公開形式でフィードバックを行うことで学生の授業への参加意識を高めた。最初の講義で講義概要と共に、単位認定規準や該当授業におけるルールについて説明することで、授業内容に関心のある学生だけが受講するよう促したことも授業への満足度が高かった理由と思われる。 今年度から担当している「生物科学特別科目III」では遺伝学の講義を行っている。受講者の元々の知識にかなり差があり、取り上げる題材と説明のレベル調整が難しい部分があったが、各授業の最後に小課題を提出させることで学生の理解度を把握し、進行や課題内容の調整を行った。	「環境と科学」の評価は 4.6 と満足度は悪くないが、時間外学修の時間が少ないので、持ち帰り課題を増やすことを検討する。 生物科学特別科目 III」の評価は 4.3 と平均よりやや上ぐらいだが、最も低いのが理解度で 3.6、最も高いのが熱意の 4.6 ということで、多くの学生は完全には理解できなくても楽しんで受講していたと推測する。今後は理解度を上げるために自学用課題を増やすことを検討する。
（実験） 学生の実験への積極的な参加を促すために、実験の心構えや実験前の準備、実験レポートの書き方についての講義を行った。レポートの採点后、採点基準や多かった間違い・指摘点を公開し、より良いレポートを書けるように情報提供を行った。	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究を通して、学生が論理的に物事を考えそれを他者に伝えられる力を身につけることを目的として、powerpoint を用いた口頭発表形式のセミナーを定期的に行うとともに、コースや学科単位で行われる口頭発表、ポスター発表の準備に時間をかけて取り組ませた。その結果、学生の研究に対する関心も非常に高くなり、高いレベルでの研究と発表が可能となった。	今年度の卒研生の一人は卒業研究のポスター発表会でベストポスター賞を受賞することができた。本人の努力と教育の成果と考える。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	山本 憲一	就任年度	2006(平成 18)年度
----	------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 自動車工学Ⅰ,自動車工学Ⅱ,自動車整備Ⅱ,カーエレクトロニクス, 機械工学演習Ⅰ, 機械工学演習Ⅱ,工作・測定作業実習,機械工学実験Ⅱ(自動車),機械工学実験Ⅲ(自動車),機械工学実験Ⅳ(自動車),[自動車整備技術講習(整備士試験受験対応)]
2.大学院担当科目 材料強度評価システム特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 自動車工学（八戸工業高等専門学校）、自動車工学（八戸工業大学）、知能情報システム特別講義（東北文化学院大学） 自動車整備技術講習の講師（宮城県自動車整備振興技術講習所石巻専修大学特定分教場）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 要点ノート	2018 年（平成 30 年）4 月～	講義に学生を集中させるため”要点ノート”を作成して予め配布。要点を記入させながら講義を進める為、学生は集中して聴講するようになった。
2.作成した教科書、教材、参考書 実物教材	2018 年（平成 30 年）4 月～	自動車関連講義には必ず、実物部品を準備して学生に手で触れてもらうことにした。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018 年（平成 30 年）4 月～	自動車関連講義の最終目的は整備士試験に全員を合格させる事である。従って常に整備士試験問題との関連で講義を進めるようにした。
4.その他教育活動上特記すべき事項 自動車整備技術講習	2018（平成 30 年）4 月～	機械工学科自動車工学コース学生は整備士試験に全員合格させたい。本講習は受験に必須の講習であるが、規定以上に講義時間を確保してこれにあたった。
専大北上高校との高大接続事業	2018 年（平成	専大北上高校自動車コース学生が当校を訪れ、ハイブリッド車学科・実

(石巻専修大学授業)	30 年) 10 月 18,19 日	習と機械工作の 2 部門を勉強した。
専大北上高校との高大接続事業 (専大北上で出前授業)	2019(平成 31) 年 2 月 4 日	山本が仙台北上高校を訪れ、「自動車の将来と自動車産業の動向」について講演した。
みやぎカーインテリジェント人材育成事業の運営	2018 年 (平成 30 年)8 月 16・31 日	自動車の部品を実際に分解、組付を行うことにより自動車の仕組みを理解した上で、自動車設計工程全般における幅広い知識を習得する。及びシミュレーション技術の向上を図る。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項無し						
【論文】						
特記事項無し						
【その他】（報告書など）						
特記事項無し						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項無し						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
手作り自動車省燃費競技大会	県運転免許センタ ー	2018(平成 30)年 9 月 15 日	優勝

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30)年 4 月 11 日～13 日	カーシェアリング車両の点検並びにタイヤ交換
2018(平成 30)年 10 月 20 日	自動車整備コンテスト（自動車技術会東北支部理事）で 1 位
2018(平成 30)年 11 月 30 日	自動車技術会主催市民講座（山下小学校で授業、学生も参加）を実施して好評
2018(平成 30)年 11 月 14～16 日	カーシェアリング車両の点検並びにタイヤ交換
2018(平成 30)年 4 月～2018(平成 30)年 6 月	石巻地域産学官グループ交流会自動車関連産業集積部会，IMプロジェクト活動
【その他研究活動上特記すべき事項】 特になし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年 4 月～2019 年 3 月	自動車工学センター長	

VI その他特記すべき事項

特記事項無し

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 実習の一環として、学外授業に積極的に参加させている（学生整備コンテスト・市民講座）	好評
（実験） 実験には毎回実機を使い、手で触る事を優先させている	好評
（ゼミナール・卒業研究・演習） 自動車工学コースの卒業研究活動は 4 月から開始して、夏休み期間中に集中して終える。この間ヤル気を継続させるのが難しい。今後 3 年生から卒論活動を開始する体制を検討して行きたい。	3 年 3 月から開始した。
（その他特記すべき事項） 特記事項無し	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	島田了八	就任年度	1989(平成元)年度
----	------------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 熱力学、熱力学Ⅰ、熱力学Ⅱ、伝熱論、応用熱工学、冷凍および空気調和、機械工学実験Ⅴ、機械工学演習Ⅱ、卒業研究、（他実験演習分担）
2.大学院担当科目 熱制御工学特論、伝熱促進工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30)年 9 月 7 日	日本機械学会東北支部第 54 期秋季講演会実行委員長
2018(平成 30)年 9 月 7 日	日本機械学会東北支部第 54 期秋季講演会座長
2018(平成 30)年度～継続中	石巻市環境審議会会長
2018(平成 30)年度～継続中	石巻工業高等学校評議員
2018(平成 30)年度～継続中	(公社) 自動車技術会東北支部理事
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年度	理工学研究科長	
2018(平成 30)年度～継続中	入学試験委員長	
	上記充て職	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 講義終了時に確認テストを行い、理解度を確認するとともに、添削した解答を次週返却し、その際理解度が低かった部分は再度解説を行った。 期末試験の結果から判断すると、理解度はかなり上がってきたと感じられる。 留学生用にふりがなを振ったりした専用の資料を配付した。	板書する量を減らすと授業評価も改善する。
（実験） 学生の主体性を重視しながら監視し、実験データを取る上での注意、データの整理法、まとめかた、レポートの書き方まで丁寧に指導している。学生実験開始前の準備は、時間をかけて安全を確認しながら理解のしやすさに配慮しながら行っている。	データの整理法やレポートの書き方まで指導すると期限内提出多くなり、内容も充実してきた。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究は、各人の個性や主体性を重視しながら、危険なことがないように立ち会い、助言を常に行っている。 結果よりも過程を重視している。	助言待ちになる場合が多い
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	尾池 守	就任年度	2002(平成 14)年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 航空宇宙工学、トライボロジー、機械工学演習Ⅰ、機械工学演習Ⅱ、卒業研究
2.大学院担当科目 システム流体工学特論、流れシステム工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Effect of the Recess Geometry on Flow Characteristics of Cryogenic Hybrid Journal Bearings for Rocket Turbopumps	共著	2018 年(平成 30 年)7 月	JAST Tribology Online, Vol. 13, No. 3 (DOI 10.2474/trol.13.140)	M. Oike, M. Kikuchi, S. Takada, T. Sudo, T. Takano	140-151	有
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
リセスを有する極低温フローティング・リングの流動特性	共著	2018 年(平成 30 年)9 月 7 日	日本機械学会東北支部第 54 期秋季講演会	高田仁志、菊池正孝、高 野智之、 <u>尾池守</u>		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2016(平成 28)年度～	みやぎ工業会顧問
2016(平成 28)年度～	七十七ビジネス振興財団評議員
2016(平成 28)年度～	石巻商工会議所顧問
2018(平成 30)年度	東北工業大学外部評価委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2016(平成 28)年度～	学長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 8 回程度のレポートを課し、毎回採点・添削後、返却することで、学習成果の向上を目指した。	授業アンケートの結果は比較的高い評価が得られたが、内容の理解度を高めるためには、演習や実例に基づく自主的な学習の機会をさらに増やしたい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 専修大学北上高等学校でロケットに関する高大接続授業（出前授業）を行った。	文系志望の生徒が多数を占めたが、レポートから判断する限り、画像による実例の呈示や簡単な実験を行うことで、興味を喚起することができたと考えられる。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	泉 正明	就任年度	2003(平成 15)年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 流れ学、設計法、情報システム概論Ⅰ、情報システム概論Ⅱ、流体機械
2.大学院担当科目 計算機援用工学特論、熱流体シミュレーション特論、高機能化プロセス工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30）年度	日本機械学会東北支部商議委員、支部企画担当
【その他研究活動上特記すべき事項】	
2018（平成 30）年 9 月 7 日 、日本機械学会東北支部第 54 期秋季講演会の実行委員会幹事担当	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2016(平成 28)年 4 月～継続中	キャンパスハラスメント防止委員会委員長	
2017(平成 29)年 4 月～継続中	FD 委員会委員	
2016(平成 28)年 4 月～平成 31 年 3 月	物質機能工学専攻主任教授	
2016(平成 28)年 4 月～平成 31 年 3 月	大学院資格審査委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・ノートを取る時間を少なくするため、講義前プリントを配っている。 ・板書時間を短くするため、極力パワーポイントとプロジェクターを活用している。	プリントを完璧に作ると、授業を聞いているだけになり、理解不足になるようである。プリントに空白を作り、自筆で埋めさせる等の工夫をする。
（実験） ・講義の内容を忘れていた学生が多いため、実験前に内容を十分説明するようにしている。	実験後にもレポートの書き方の指導もかなりの時間必要である。
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・講義の内容を忘れていた学生が多いため、演習や卒業研究の前に内容を十分説明するようにしている。	1年の基礎科目の内容を忘れていた学生が多い。基本に多くの時間が取られている。
（その他特記すべき事項） ・特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部機械工学科	職名	教授	氏名	川島純一	就任年度	2009(平成 21)年度
----	-----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 燃焼機関，自動車工学Ⅰ・Ⅱ，機械設計製図Ⅰ，自動車整備Ⅰ，機械演習Ⅰ・Ⅱ，機械工学実験Ⅴ，卒業研究
2.大学院担当科目 応用熱工学特論，熱エネルギーシステム工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 自動車工学（八戸工業大学）

【教育業績】

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2010(平成 22)～2012(平成 24) 年度	日本機械学会商議委員
2016(平成 28) 年度～2018(平成 30) 年度	日本機械学会エンジンシステム部門代議員
2018(平成 30) 年度	日本機械学会エンジンシステム部門企画委員会副委員長
2009(平成 21) 年度～継続中	自動車技術会東北支部参与
2009(平成 21) 年度～継続中	石巻市企業誘致アドバイザー
2009(平成 21) 年度～継続中	みやぎ高度電子機械人材育成センター運営委員
2010(平成 22) 年度～継続中	電気自動車エコラン競技大会実行委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2011(平成 23)～2012(平成 24)年度	就職指導委員	
2010(平成 22)年度～継続中	大学開放センター委員	
2017(平成 29)年度～継続中	理工学部クラス担任	
2017(平成 29)年度～継続中	大学教務委員会委員	
2013(平成 25)年度～継続中	機械システム工学専攻主任教授	
2013(平成 25)年度～継続中	大学院資格審査委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 自動車整備講習会において、全面的に course power を活用した e-learning を実施。	2018 年度 自動車整備士二級過去問 1553 問登録完 後期 36 コマの講習会で使用
（実験） ①カーボン FRP 焼成用の電気炉導入（電気自動車作製用） ②電気自動車設計用の SolidWorks を 2 式導入 ③モーター回生試験機製作 ④計測，解析制度向上のため，車載風速計，傾斜計，GPS ロガー，デジタルデータロガー，小型電流電圧電力計導入	2018 年度 ①電気自動車ボディ 1 台作成に使用 ②3 月～8 月 車両設計に活用（卒論） ③モーター回生効率実験成功（卒論） ④実走行中の位置、車速、電力挙動モニタ実施（卒論）
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究：電気自動車を設計・試作し，SUGO 電気自動車エコラン競技会に参戦した。（2012 年度より継続中）	2018 年度 可変回生システムを導入。レース走行中、回生制御のみで減速操作が可能であることを確認。
（その他特記すべき事項） 2017 年度卒業生：自動車整備士二級国家試験 5 名合格 2018 年度卒業生：自動車整備士二級国家試験実技免除資格取得 12 名	2009 年度より二級整備士 97 名合格

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	足立 岳志	就任年度	平成 2 年
----	------------	----	----	----	-------	------	--------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目	フレッシュマンセミナー、材料工学、自動車力学、材料強度学、機械設計製図 2、機械工学実験 1、2、3、4、5、機械工学演習 1、2、卒業研究
2.大学院担当科目	エネルギーシステム工学特論、機械システム工学特別研修 1、2、機械システム工学特別演習・実験 1、2、機能材料システム工学特論、物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)	特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
9月7日	日本機械学会東北支部第54期秋期講演会 座長、実行委員会
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
	学科主任	
	教務委員	
	工作センター長	
	試験センター長	
	研究助成専門委員会	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） パワーポイントの導入。資料の配布。計算問題の定期的な確認。	
（実験） 説明途中に理解の確認のため、学生へ質問。分からない場合は再度説明。	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 研究内容について詳しく説明。実験装置の使用法についても実地で詳しく説明。	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 □機械工学科	職名	教授	氏名	亀谷裕敬	就任年度	2010(平成 22)年度
----	-------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目	卒業研究、演習ⅠとⅡ 情報活用法、機械力学、計測工学、振動工学<以上専任>	フレッシュマンセミナー、物理実験、機械工学実験、工作実習<以上は分担>
2.大学院担当科目	構造動力学特論、構造システム振動特論	
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)	特記事項なし	

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 機構学と機械力学について補習塾を毎週開催	毎週	通常の講義や課題に対応できない学生向け
2.作成した教科書、教材、参考書 機構学の実演教材を各種製作し講義中に実演	毎週	本年度も新作 4 種類を追加
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 一般社会人エンジニア向け「エアーコンプレッサー」	2019.2.26	テックデザイン(株)主催

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
受託研究報告書	単	2019.3	-	-	30	なし
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
H30.4.1	設計工学会東北支部商議員会にて年度計画策定等、本年度は東北支部の副支部長兼商議員を拝命
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
H30年度全体	就職指導部長として4年生の内定率向上に貢献	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 授業アンケート結果を踏まえ、講義内容の改善（時間割り当て、板書内容ならびに順番など）を図る。	アンケート結果が改善した。
（実験） 学生実験で用いる実習装置「芯出し練習機」「歯車組立実習機」を設計、部品手配、セット完成し、実際に３年生の教育に活用した。	好評かつ教育効果抜群で成功したといえる。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究は「ものづくり」の基本に立ち返り、計画、設計、部品手配、工作、測定確認、組立調整、実験検証と性能分析までの一連の流れを体験させた。	学生も納得かつ充実感を感じる卒業研究となり、満足できる結果であった。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	教授	氏名	水野 純	就任年度	2012(平成 24)年度
----	------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 工作実習 I、工作実習 II、制御工学 I、制御工学 II、精密加工学、メカトロニクス、ロボット工学、国際体験研修、機械工学実験 V、機械工学演習 II、卒業研究
2.大学院担当科目 メカトロニクス工学特論、生産工学特論、高機能機械要素学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】 特記事項なし						
【論文】 特記事項なし						
【その他】(報告書など) 特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30）年度～継続中	いしのまき多文化共生社会推進懇談会 副会長
2016（平成 28）年度～継続中	日本学術振興会弾性波素子技術 150 委員会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017（平成 29）年度～継続中	国際交流センター長	
2018（平成 30）年度～継続中	外国人留学生担任	
2013（平成 25）年度～継続中	学生部委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）【パワーポイントによる授業内容の理解改善】平成 29 年度の活動報告書に記載したとおり、科目によっては、パワーポイントによる授業形式が適しており、理解を深めるための有効なツールであることが確認できたため、平成 29 年度も続いて同内容を実施した結果、授業内容の理解改善が確認できた。 【ビデオ・グラフィックアニメーション教材による授業内容の理解改善】平成 29 年度の活動報告書に記載したとおり、機械や構造などの動きを動画で確認することによって効果的に理解度が高まったことが確認できたため、平成 29 年度も続いて同内容を実施した結果、授業内容の理解改善が確認できた。 【演習問題の出題】平成 29 年度の活動報告書に記載したとおり、授業で学んだ内容についての演習問題を解くことによって理解度が高まったことが確認できたため、平成 31 年度も続いて同内容を実施した結果、授業内容の理解改善が確認できた。	授業アンケートでは、ロボット工学と制御工学 II でそれぞれの総合的に 4.6 と 4.0 といった高い評価が得られたので、次年度も引き続き同内容の取り組んでいく。
（実験）平成 29 年度の活動報告書と同様に、機械工学実験 III・IV では、単軸ロボットの制御実験と垂直多関節型ロボットの制御実験をそれぞれ担当している。これらの内容に関連する制御工学・メカトロニクス・ロボット工学の科目も担当しており、授業内容を実験 III・IV に反映しており、ロボットを自ら制御することによって機械制御における仕組みの理解が深まったことが実験レポートから確認できた。また、授業科目と実験科目の内容を直接関連づけることによって授業内容の理解も深まった結果となった。	授業内容の理解が深まった結果となった。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 【ゼミナール】該当しない。 【卒業研究】学生が卒業研究で挙げた成果をまとめ、卒業研究発表を行った。聴講者に十分内容が伝わったことと質問に的確に答えられたことは、研究指導が適確であったと考える。 【機械工学演習 II】授業内容としては、卒業研究テーマに関連した外国語論文を与え、指導教員の下で論文内容を取りまとめ発表会で口頭発表する内容である（シラバスより）。平成 29 年度の活動報告書と同様に、パワーポイントによって内容をまとめ発表を行った結果、上記の卒業研究について述べたように、聴講者に十分内容が伝わったことと質問に的確に答えられたことは、指導が適確であったと考える。	研究指導が適確であったと考える。
（その他特記すべき事項） 専修大学北上高校で高大連携授業（出前授業）を行った。題目：実践的に学ぶロボット工学（2018 年 5 月 16 日実施）	生徒たちからのレポートから、内容が十分伝わったことが分かった。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 機械工学科	職名	准教授	氏名	高橋 智	就任年度	2006(平成 18)年度
----	------------	----	-----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、情報活用法Ⅰ、CAD 工学、CAM 工学、フレッシュマンセミナー、機械工学実験Ⅴ、機械工学演習Ⅱ、卒業研究
2.大学院担当科目 材料プロセス工学特論、高機能要素学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
表面処理したカキ殻粉末を用いた PLA 複 合材料フィラメントの強度特性	単著	2018(平成 30)年 9 月 7 日	日本機械学会東北支部 第 54 期秋季講演会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30)年度	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の教育プログラム開発部会員
2018(平成 30)年 9 月 7 日	日本機械学会東北支部第 54 期秋季講演会 実行委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2019(平成 31)年 3 月 31 日	入学試験委員	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2019(平成 31)年 3 月 31 日	スポーツ奨励学生選考委員会委員長	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2019(平成 31)年 3 月 31 日	広報委員	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2019(平成 31)年 3 月 31 日	地域協働プログラム推進委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 各授業において、学生の反応や習熟度を反映させた授業内容の改良を行った。 (1)材料力学では、学生の要望に応え演習問題や例題の解説を充実させた。また、アクティブラーニング的な取り組みとして、パスタを利用したタワーの設計・製作を行った。 (2)CAD 工学／CAM 工学においては、本学に適した教科書等が見当たらないため、独自の資料（パワーポイント、PDF）を作成し WEB システムで公開し、復習にも役立つようにした。また、学習した知識の定着・実践を目的とし、演習課題を充実させた。 (3)情報活用法 1 においては、授業毎にミニッツペーパー（授業の理解度と難易度の確認）を課し、学生のレベルに合わせた授業内容とした。	各授業アンケートでは、全項目にて良好な評価が得られた。 (1)計算問題の理解力向上が見られた。実際の設計・製作作業は、学習意欲の向上を図る取り組みとしても効果的であった。 (2) (3) アンケート結果から、独自資料およびミニッツペーパーによって、理解力の向上が見られた。授業時間外の学習時間が少ないため、興味を持って取り組めるような復習課題を開発する。 学生の授業理解度および学習意欲の向上を目的とした取り組みを実施しており、一定の成果が得られていると考える。
（実験） 機械工学実験Ⅲ・Ⅳでは、「硬度試験」、「NC 工作機械」、「機械要素」、「ひずみゲージによる測定」を担当した。学生が自主的に実験に取り組めるよう、作業マニュアルや視覚的に理解しやすい補助資料を作成した。さらに、授業で得られた知識の定着を目指し、実験と授業との関連づけを意識した実験内容とした。	学生のコメントから、実験内容の理解度が高まったことがわかる。次年度は補助資料の改良を行う。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究では、自身の研究活動において培った見識や経験を基にした学際的な指導により機械工学関係の人材育成に寄与している。	学会発表や研究助成につながる研究成果もあり、適切な研究指導ができていると考える。
（その他特記すべき事項） (1) 3 次元 CAD 資格試験の学内向け資格取得講座の講師および試験実施責任者を担当した。 (2) Pepper 社会貢献プログラムに参加し、石巻地域の人材育成に寄与した。 (3) 東松島市立の中学校 3 校にて、プログラミング教育に関する出前授業を行った。 (3) 専修大学北上高校で高大接続授業（出前授業）を行った。 (4) 第 22 回石巻地区中学校ロボットコンテストの運営に協力した。	(1) 受講者 5 名が合格した。受講者の試験結果を分析し、次年度の講座資料を作成する。

(5)南浜つなぐ館にて、「石巻市沿岸部の復元立体模型」の展示協力をした。	
(6)福島県新地町復興支援課が実施している「心の情景ジオラマ事業」へ技術協力した。	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	亀山 充隆	就任年度	2016(平成 28)年度
----	--------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報システム概論 IA, プログラミング論 II, 情報技術者専門科目 II, 組み込みソフトウェア, 情報社会論, フレッシュマンセミナー, 情報電子工学実験Ⅳ・Ⅴ, 情報電子工学演習, 卒業研究
2.大学院担当科目 物質工学特別演習・実験Ⅱ情（情報科学）, 物質工学研修Ⅱ（情報科学）
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項	平成 30 年 11 月 10 日	東工大で開催された日本工学教育協会主催第 4 回ワークショップ「研究倫理」において、「研究倫理を学ぶ動機づけの講義を考える」に関する発表を行った。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
CNOT-Measure Quantum Neural Networks"	共著	2018 年 (平 成 30 年) 5 月	Proceedings of the IEEE 48th International Symposium on Multiple-Valued Logic	Martin Lukac, Kamila Abdiyeva, <u>Michitaka</u> <u>Kameyama</u> (本人)	187-191 5 頁	有
Experimental Study of the Algorithm Selection Hardness in Computer Vision	共著	2018 年 (平 成 30 年) 9 月	Proceedings of the Euromicro: Machine Learning Driven Technologies and Architectures for Intelligent Internet of Things (ML-IoT)	Martin Lukac, Nodia Izbassarova, Albina Li, <u>Michitaka</u> <u>Kameyama</u> (本人)	6 頁	有
High-Accuracy Scene Recognition and Its Application to Highly-Safe Intelligent Systems	共著	2018 年 (平 成 30 年) 10 月	Proceedings of the 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)	Kenichi Takada and <u>Michitaka</u> <u>Kameyama</u> (本人)	2524-2529 6 頁	有
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
オプティカルフローを用いた高精度動作 シーン認識と高安全知能システムへの応 用"	共著	2018 (平 成 30) 年 9 月	電気関係学会東北支部連合大会	高田 健一, <u>亀山 充 隆</u> (本人)		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
-----------------	-----	------	------------

特記事項なし			
--------	--	--	--

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2005(平成 17)年 5 月～継続中	電子情報通信学会集積回路研究専門委員会顧問
1994(平成 6)年 9 月～継続中	Associate Editor , MVL Journal and Soft Computing
2014(平成 24) 年 4 月～継続中	一般財団法人青葉工業会常任理事
2014(平成 24)年 4 月～継続中	日本工学教育協会教育士審査委員
2018(平成 30)年 1 月～継続中	IEEE Sendai Section Chair
2018(平成 30)年 11 月～継続中	日本工学教育協会, 東北工学教育協会 第 6 7 回年次大会協力教員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017 (平成 29) 年 4 月～継続中	入試委員会委員	
同上	進学サポート奨学生選考委員会委員	
同上	研究助成専門委員会委員	
2018 (平成 30) 年 4 月～継続中	コンプライアンス委員会委員長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 授業内容の理解を深めるために多くの演習問題を課しながら授業を行っている．ほぼ2回の授業ごとにレポート問題も課している．	（授業） 演習の効果は多大であるが、これをやらないで提出しない学生が多い．いかに、やる気を起こさせるかが課題である．
（実験） 実験結果のまとめ方やレポート記載方法，さらに発表会でのプレゼンテーション方法について具体的な指導を行った．	（実験） その効果は顕著であり，発表時間は7分ではあるが実験Ⅳ発表会では多くの学生が立派なプレゼンをすることできている．
（ゼミナール・卒業研究・演習） 平成29年度研究室配属学生3名の卒業研究及び大学院修士課程学生1名を指導した．大学院修士の学生については，修士の学位を取得することができた．その研究成果の一部を国際会議にて発表した．また，学部生3名についても，卒業研究，演習等を熱意をもって指導した．	（ゼミナール・卒業研究・演習） 修士学生の研究成果は顕著なものがあり，国際会議論文としても高い評価を得た．卒業研究内容についても実用製品につながる成果であり，充実したものであると思われる．しかしながら，学生が卒業研究に十分打ち込んでいないことは残念である．いかに，やる気を起こさせるかが課題である．
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	（その他特記すべき事項） 特記事項なし

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	中込 真二	就任年度	1989(平成元)年度
----	--------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 フレッシュマンセミナー、電子回路、電気・電子回路応用、集積回路工学、センサ工学、情報電子工学実験Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ、情報電子工学演習、卒業研究
2.大学院担当科目 集積回路工学特論、機能デバイス工学特論、電子機能素子工学特論、半導体機能デバイス工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
β -Ga ₂ O ₃ / p-type 4H-SiC Heterojunction Diodes and Applications to Deep-UV Photodiodes	共著	2019年3月	Physica Status Solidi A, 216,	Shinji Nakagomi, Toshihide Sakai, Kentaro Kikuchi, and Yoshihiro Kokubun	1700796	有
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
ゾル・ゲルディップ法による NiO 薄膜の 作成	共著	2018年9月	第 79 回応用物理学会秋季学術講演会、 講演要旨集、19p-PB8-19	安田隆，後藤宗久， <u>中込真二</u>		
NiO/ β -Ga ₂ O ₃ ヘテロ接合ダイオードのス イッチング応答の温度依存性	共著	2018年9月	第 79 回応用物理学会秋季学術講演会、 講演要旨集、21p-331-1	<u>中込真二</u> ，菊地賢太 郎，矢野浩司，國分 義弘		
(001) β -Ga ₂ O ₃ 基板上に形成した NiO 薄 膜の結晶配向性	共著	2019年3月	第 66 回応用物理学会春季学術講演会、 講演要旨集、9p-S011-5	<u>中込真二</u> ，安田隆， 國分義弘		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018 年度	電気化学会 化学センサ研究会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2013 年 4 月～	共創研究センター長	
2014 年 4 月～	研究助成審査委員会委員長	
2015 年 4 月～	大学院委員会委員	
2013 年 4 月～	研究活動等コンプライアンス委員会委員	
2018 年 4 月～	研究推進委員会委員	
2013 年 4 月～2019 年 3 月	教務委員	

VI その他特記すべき事項

石巻専修大学研究活動表彰、2016 年度、2017 年度、2018 年度

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 新たにセンサ工学を担当となり、講義内容を準備しながら授業を行った。基本となる考え方は数式を使って表す必要があり、計算方法もその場で示したが、計算の苦手な学生には不評であった。次年度はある程度プリントを配布するつもりである。 電子回路は小さい教室に変えたことで授業への学生の集中の度合いが少し高まったように感じている。	黒板の文字が読みにくいとの指摘があった。一字一字をゆっくり書くように心がけるつもりである。
（実験） 3年次の実験では模型を作りながら測定をするテーマを担当している。ひとりひとりの学生が実際に手を動かさないと結果が出てこないのも、学生の力量が試される実験である。	このところ完成まで至る学生が減ってきているので、もう少し助言等を増やす必要性を感じている。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 2名の卒研学生とともに、最近取り組んでいる新しい材料の成膜条件の検討と電氣的測定により、世界的にも殆ど報告のないパラメータを得られた。早いうちに論文等で発表するつもりである。	特に問題ない。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	安田 隆	就任年度	1998(平成 10)年度
----	--------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 電磁気学ⅠA，電磁気学ⅠB，電磁気学Ⅱ，半導体デバイス工学，フレッシュマンセミナー，情報電子工学実験Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，情報電子工学演習，卒業研究
2.大学院担当科目 光情報デバイス工学特論，光半導体デバイス工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
ゾル・ゲルディップ法を用いた酸化亜鉛系半導 体の作製	単著	2019年3月	石巻専修大学研究紀要第30号		Pp15-21	無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
ゾル・ゲルディップ法によるNiO薄膜の作成	共著	2018(平成 30)年9月19 日	第79回応用物理学会秋期学術講演会	安田 隆, 後藤宗久, 中 込真二		
(001) β -Ga ₂ O ₃ 基板上に作成したNiO薄膜の結晶 配向性	共著	2019年(平 成31)年3 月9日	第66回応用物理学会春季学術講演会	中込真二, 安田 隆, 國 分義弘		
ゾル・ゲルディップ法によるNiCdO薄膜の作成		2019年(平 成31)年3 月12日	第66回応用物理学会春季学術講演会	安田 隆, 山田恭明, 梅 津瑠偉		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
201(平成 29)年 4 月～継続中	応用物理学会東北支部役員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2015(平成 27)年 4 月～	理工学部教務委員長	
2015(平成 27)年 4 月～	全学教務委員	
2017(平成 29)年 4 月～	情報電子工学科主任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）（電磁気学ⅠA，ⅠB，Ⅱ） 関数電卓を活用して，自らの手で計算する機会を増やして，電磁現象の数量的感覚を磨く。次いで，精選した基本問題の演習を繰り返して，電気・磁気に現れる物理量の理解を図る。	試験結果やアンケートを見ると，電磁現象の理解は十分とは言えない。学生の基礎学力に合わせて，題材や問題を再検討する必要があるが，目に見えない現象を理解させることは難しい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） X線回折装置を利用して，学生が自分の手で測定する機会を増やし，結晶構造の理解度向上を狙う。	装置の取り扱いには慣れたようであるが，結晶構造の本質的な理解にはほど遠い。模型などを利用して，理解を助ける工夫をする必要がある。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	工藤すばる	就任年度	1989(平成元)年度
----	--------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 電気回路 A, 電気回路 B, 信号処理基礎論, シミュレーション工学, フレッシュマンセミナー, 情報電子工学実験 I～V, 卒業研究, 情報電子工学演習, キャリア設計
2.大学院担当科目 修士課程 音情報デバイス工学特論, 情報デバイス工学特論, 物質工学特別研修 I,II (情報科学), 物質工学特別演習・実験 I,II (情報科学) 博士課程 超音波デバイス工学特論, 知能情報工学特論, 物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 情報科学 (石巻赤十字看護専門学校)

【教育業績】 (学内外向けに発表・公表したもの)

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫 (授業研究会等を含む) 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Equivalent circuit consideration of frequency-shift-type acceleration sensor	共著	2018(平成30)年6月	Jpn. J. Appl. Phys. 57, 07LD08	Yoshifumi Sasaki, Sumio Sugawara and <u>Subaru Kudo</u>	pp.1~5	有
Reduction of the coupling vibration between the bending vibrators of the frequency-change-type two-axis acceleration sensor	共著	2018(平成30)年6月	Jpn. J. Appl. Phys. 57, 07LD17	Sumio Sugawara, Yoshifumi Sasaki and <u>Subaru Kudo</u>	pp.1~5	有
【その他】(報告書など)						
縦ねじり変換器を用いた新しい圧電振動子の基礎研究	研究代表者	2019(平成31)年3月	2018年度開放センター共創研究センター活動報告	工藤すばる, 佐々木慶文, 菅原澄夫	pp.18~19	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
縦ねじり変換器を用いた触覚センサ用複合振動子の有限要素法解析	単著	2018(平成30)年9月	日本音響学会 2018年秋季研究発表会			
Vibration analysis of tactile sensor using complex resonator with longitudinal-torsional vibration converter	共著	2018(平成30)年10月	第39回超音波エレクトロニクスシンポジウム	<u>Subaru Kudo</u> , Yoshifumi Sasaki and Sumio Sugawara		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
1998(平成10)年～継続中	電子情報通信学会ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員
2001(平成13)年～継続中	日本音響学会編集委員会査読委員
2007(平成19)年～継続中	日本音響学会評議員
2004(平成16)年～継続中	超音波シンポジウム運営委員会論文委員
2004(平成16)年～継続中	Japanese Journal of Applied Physics Ultrasonic Electronics 特別編集委員
2012(平成24)年～継続中	東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究会プロジェクトメンバー
2015(平成27)年～継続中	電子情報通信学会超音波研究専門委員会専門委員
2018(平成30)年8月5日	石巻専修大学創立30周年記念事業「小学生向けプログラミング教室」の企画・開催
2018(平成30)年10月13日	石鳳祭「ひらいてみよう！知の玉手箱」出展(テーマ：ラジオの製作)
2019(平成31)年2月25日	石巻専修大学研究シェアリング・プログラム出展(テーマ：生体情報検出用触覚センサの原理と応用)
2018(平成30)年度	技術相談受付1件、石巻ソフトテニス協会副会長
【その他研究活動上特記すべき事項】	
2019(平成31)年3月9日 APEX/JJAP Editorial Contribution Award 受賞 (The Japan Society of Applied Physics)	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2015(平成27)年4月～2018(平成30)年度	情報教育研究センター長	
2011(平成23)年4月～2018(平成30)年度	就職指導委員	
2015(平成27)年4月～2018(平成30)年度	個人情報保護委員会(個人情報部門責任者)、個人情報保護運営会議委員	
2017(平成29)年4月～2018(平成30)年度	自己点検・評価全学委員会委員、自己点検・評価運営委員会委員	

VI その他特記すべき事項

これまでに参加した教育研究集会 私立大学情報教育協会 平成30年度 東北地域事業活動報告交流会 2018(平成30)年12月10日 東北工業大学 八木山キャンパス 私立大学情報教育協会 第10回産学連携人材ニーズ交流会 2019(平成31)年3月5日 AP市ヶ谷 Learning Space

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 電気回路 A、電気回路 B では、毎回数人の学生に練習問題を解いてもらい授業中に発表させ質疑応答を行った。信号処理基礎論、シミュレーション工学では、授業内で表計算ソフトを用いた演習を行い、毎回数人の学生に練習問題を解いてもらい発表させている。	授業評価アンケート結果から履修者の理解度やレベルが 2 分割されていることがうかがえるため、今後は専門用語や技術用語の意味や使い方を詳しく説明することを心掛けたい。また、練習問題は基礎問題と応用問題に分けて出題するようにしたい。
（実験） 情報電子工学実験Ⅰ・Ⅱでは、電気系のテーマである「交流回路」を担当した。また、情報電子工学実験Ⅲ・Ⅳでは、「回路素子と電気・電子回路実験」を担当し、回路素子の実験、デジタル回路に関する実験、信号処理に関する実験等、情報電子系の学部基礎実験教育を行った。実験レポートを提出しない学生がいるため、実験時間内にレポートを提出するような方法で全員からレポートを回収した。	少人数での実験であり学生と 1 対 1 で向き合える個別指導のメリットを生かし、学生 1 人 1 人の能力と課題を把握することができた。今後はこれらの情報を就職指導や研究室での指導に生かしていきたい。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究及び関連する実験・演習を通じて、各種の電子計測機器の使用法の習得に加え、コンピュータシミュレーション技術や 3 次元 CAD を用いた設計開発手法の基礎的技術を教授することができた。	卒業研究発表会や卒業論文の執筆を通じて、学生のプレゼンテーション能力やコミュニケーション技術の向上に寄与することができた。
（その他特記すべき事項） 地域社会の情報教育等に対する興味・関心を喚起するため、「小学生向けプログラミング教室」及び「ラジオの製作」を企画・実施した。また、本学学生の地元 ICT 企業への就職をサポートするために、「伊達な ICT-WORK せんだい・みやぎ」大学等連携会議に出席し意見交換を行った。就職指導員として 2018(平成 30)年度は情報電子工学科の就職内定率 100%を達成した。	「プログラミング教室」には小学生 19 人が参加、「ラジオの製作」には 10 人が参加したが、より多くの人が参加できるように次回は開催時期や実施方法等について検討を行う。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	教授	氏名	本田 秀樹	就任年度	2018（平成 30）年度
----	--------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 電磁気学、電子計測の基礎、自動車制御工学、情報電子工学実験Ⅲ
2.大学院担当科目 シミュレーション情報学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
再エネ連系拡大を目的とした力率調整用 コンデンサ群制御による配電系統電圧適 正化	単著	2019(平成 31) 年 3 月 12 日	電気学会 全国大会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・スライド資料は極力文字を大きくし、図を取り入れるよう工夫した。 ・担当している全ての講義を、パワーポイントを活用したスライド方式で実施した。	・期前半は授業中にスライドの切替が早いとの指摘を受け、直ちに改善に努めた。期後半には、苦情は解消した。 ・アンケートでは資料が良かったとの声が聞かれた。
（実験） ・解説付き資料を個別に作成配布し、説明を加えながら実験を進行した。 ・実験後は、毎週末をレポートの期限とし、翌週には全員に添削付のレポートを返却した。	・直ちにレポートを返却することで疑問が早期に解消できたとの声があった。
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・着任初年度につき、4年生受け入れなし。	
（その他特記すべき事項） ・何人かの学生から進路相談を受け、ある学生に対しては特定企業の工場見学が出来るよう調整し、同行した。	・工場見学を調整した企業からは、学生の採用に向けて前向きな回答を頂き、学生も就職に向けて意欲を示している。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	准教授	氏名	佐々木 慶文	就任年度	2001(平成 13)年度
----	--------------	----	-----	----	--------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 1 年次：フレッシュマンセミナー、情報社会論、2 年次：情報システム概論 IIA/IIB、情報技術者専門科目 I、情報電子工学実験 I/II、3 年次：画像情報工学、情報電子工学実験 III、4 年次：卒業研究、情報電子工学演習、情報電子工学実験 V
2.大学院担当科目 修士課程：画像情報システム工学特論、知能情報システム工学特論、博士課程：知能集積システム工学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Equivalent circuit consideration of frequency-shift-type acceleration sensor	共著	2018(平成30)年7月	Japanese Journal of Applied Physics, Vol. 57, Issue 7S1	Yoshifumi Sasaki, Sumio Sugawara and Subaru Kudo	07LD08	有
【その他】(報告書など)						
(上記論文の日本語による解説) 周波数変化型加速度センサの電氣的等価回路考察	共著	2018(平成30)年12月	超音波テクノ, 2018年11-12月号(日本工業出版)	佐々木 慶文, 菅原 澄夫		無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年 3 月～	高大産連携事業 (Pepper 社会貢献プログラムソーシャルチャレンジ) 2 テーマを担当
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	宮城県高度情報化推進協議会委員
2018(平成 30)年 8 月	東松島高校総合科目講義担当
2019(平成 31)年 2 月	平成 30 年度 高大産連携プロジェクト報告会
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	広報委員会委員	
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	4 年次クラス担任	学科内役職
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	情報電子工学実験 III/IV 世話人	学科内役職
2018(平成 30 年)6 月 24 日, 7 月 8 日, 7 月 22 日, 8 月 5 日	オープンキャンパス展示	イベント
2018(平成 30 年) 10 月 14 日	ひらいてみよう! 知の玉手箱展示	イベント
2019(平成 31 年) 2 月 25 日	第 1 回研究シェアリングプログラム展示	イベント

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） (1) 情報システム概論 IIA/IIB ではおよび情報技術者専門科目 I では、演習の解説やフォローをできるだけ行った。 (2) 課題メールを見ないために不合格となる学生を減少させるため、必修科目である情報システム概論 IIA/IIB では授業内テストを前倒しで 14 回目に行い、追課題が必要な学生に対しては、課題提出を 15 回目で行う追テストの受講条件とした。 (3) 画像情報工学では、内容を理解するために特定の知識や技術が必要であるため、講義 2 回目までにその旨を説明した。	(1) 両講義とも、最後まで受講した学生については、不合格者 0 と効果はあったようである（授業アンケートでも好意的な意見が見られた）。 (2) メールを見ていなかった学生でも、追テスト当日（講義期間内）に連絡をつけることができた。 (3) 未だ準備不足のまま講義を受け、理解できない学生が見られたため、改善が必要である。
（実験） 昨年度同様である。情報電子工学実験 I, II は開学時から、情報電子工学実験 III, IV は 2011 年度からの内容を引き継いで実験を行っているが、そろそろ需要に応じて刷新が必要ではないかと考えている。	実験 III/IV は独自に改変が可能であるため、2020 (平成 29) 年度入学者を対象として、刷新を検討している。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 本年度は 3 名の学生を担当したが、3 名とも希望があったため、希望に沿った形で卒業研究を実施した。昨年度、比較的ギリギリになるまで卒業研究が終わらなかった点を考慮して、約 1 ヶ月前倒しで卒業研究を進めた。	2 名については、1 月中にまとめに入れるなど、早めに卒業研究を進めた効果が見られた。1 名については、7 月頃に急遽希望を変えたことや、卒業研究以外に着手しすぎたことから、卒業研究がおろそかになっていた。学生によるが、指導教員が学生の行動を、卒業研究が十分に行えるよう、これまで以上に強くコントロールする必要が出てきている。
（その他特記すべき事項） ・受講人数が少ないため、平均などの統計データからは、あまり正確な状況が把握できない。このため、本年度もできるだけ演習中に見回り、学生と会話をし、状況を把握するように努めた。 ・アンケートに際し学生に対して不平不満こそ授業改善に役立つ旨説明し、自分の思ったことを答えてもらうよう誘導した。	本年度は、比較的まともなアンケート結果が得られたと見ている。また、誘導を行った結果、普段はあまり言っていないあるいは態度に出ないような不平不満が回答として得られたことは成果だと思われる。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	講師	氏名	木元一彦	就任年度	1992(平成 4)年度
----	--------------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 電子物性工学，磁気工学，オプトエレクトロニクス，物理学実験ⅠⅡ，情報電子工学実験ⅢⅣ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017（平成 29）年度～継続中	学生部委員	
2017（平成 29）年度～継続中	放射線障害予防委員会委員	
2017（平成 29）年度～継続中	実験廃棄物処理委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）学生の理解度、習熟度を絶えず確認しながら授業内容の見直し、説明内容の適正化を図り結果的に学生がスムーズに次の段階に進めるよう工夫している。また授業内容のアンケート結果から必要に応じてムービーなどを取り入れた講義を行うようにしている。	受講者からのアンケートに対する回答は少なかったが、否定的なものではなかった。全く勉強していないと分かる学生数名以外は概ね合格点に達していた。
（実験）本学の場合、教員が一緒になって実験をやってみることが肝要と思われる。学生に敷居の高さを感じさせずに実験の面白さを理解してもらうことが第一である。さらに実験の原理の十分な説明と得られる結果の相関が良く見えるように実験を進行している。	学生実験では学生個人個人まで目が行き届かないことが多いので、SA等の助けも借りて多くの学生の理解度が向上するように努めたい。
（ゼミナール・卒業研究・演習）2 ないし 3 名と比較的少人数を相手にすることになるので、個人の性格や特徴を把握した上でそれぞれに合った助言などを行っている。卒業研究で行う実験には世の批判に耐えうる厳しい基準（科学の常識）が必要なので、実験に必要な基本的な心構えや技術を特に伝えるようにしている。	学生は自然科学、実験の面白さに引き込まれる様子を見ることは喜びだが、ともすれば安易な方向に流れやすくもあるので、守るべき原則については説明をし注意を促している。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 情報電子工学科	職名	助教	氏名	劉 忠達	就任年度	2016(平成 28)年度
----	--------------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報活用法Ⅰ，コンピュータ概論Ⅰ，情報ネットワーク，情報電子工学実験Ⅲ・Ⅳ，情報社会論，卒業研究，情報電子工学演習，フレッシュマンセミナー，物理学実験
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 石巻好文館高校出前授業	2018(平成)6月20日	石巻好文館高校にて出前講義として、「情報セキュリティについて」の授業を行った

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
楽譜記載の音符列からテンポの早い・遅 いを推定する	共著	2018(平成 30)年12月	第19回 計測自動制御学会システムイン テグレーション部門講演会(SI2018)	川村 暁, 劉忠達, 白 藤淳一, 吉田等明		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 授業では，理解を深めるために数多くの実習を取り組んだ．一方的な情報の伝達ではなく，学生と活発に意見交換できるように工夫し，学習成果の向上を目指した．	授業アンケートでは，それなりの評価が得られた．次年度は，予習する範囲を徹底的に指導し，事前学習の改善に取り組み．
（実験） 操作の説明だけではなく，関連授業で学習したこととの関連付けを意識させるとともに基礎知識から応用に向けたステップアップを図るように努めている．	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 個々の学生と相談の上，学生の興味を引き出し，自主的に卒業研究を行うよう努めている．学生が主役であること常に意識させて自ら物事に進めるように指導した．助役として，プログラミング向上セミナーの開催や問題解決の助言などサポートを行った．	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	理工学部 情報電子学科	職名	助教	氏名	木村 健司	就任年度	2014(平成 26)年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報活用法Ⅱ、コンピュータ概論Ⅱ、情報社会論（複数担当者科目）、情報システム概論ⅠB、プログラミング論Ⅰ、物理学実験（複数担当者科目）、情報電子工学演習、卒業研究、情報電子工学実験Ⅳ（複数担当者科目）、Ⅴ
2.大学院担当科目 ソフトウェア基礎科学特論、情報論理学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
Regular graphs and vertex-deleted subgraphs	共著	2018(平 成 30)年 11月3日	The Fourth Japan-Sino Symposium on Graph Theory, Combinatorics and Their Applications	<u>Kenji Kimura</u> 、 Yoshimi Egawa		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
2019 年 3 月 25 日から 27 日に石巻専修大学にて、石巻組合せ論研究集会を開催し、世話人を務める。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～	図書館委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 授業中に出题する課題の量を増やし、なるべく授業内で内容を理解させるようにした。	アンケート結果から好評のようだったので、来年度も継続し、内容を向上させる
（実験） 補助資料を配布し、スムーズに実験を行えるように促した。	実験自体はスムーズに出来ていたが、レポート作成能力が低いので、改善させる必要がある。
（ゼミナール・卒業研究・演習） ゼミでは、プログラム作成能力、数学力、プレゼンテーション力を伸ばす指導を中心に行った。 卒業研究では、VR など最新の IT 機器を用いて、学生の興味に合わせた内容をテーマとして扱った。	機器の調子が悪いことがあったので、来年度は新しく購入した方がいいかもしれない。
（その他特記すべき事項） （１） 石巻好文館高校が取り組む総合的な学習の時間「甲斐ある人といわれたいむ」分野別課題研究（個人研究）の講師を務めた（出前授業）。 （２） 志津川高校 1 年生が来学したので、模擬授業を行った。	（１）、（２）両方とも、授業内容は Virtual Reality 関連の話であった。この分野は移り変わりが早いので、来年度同じような機会があれば、内容を最新のものに更新するべきだろう。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	晴山俊雄	就任年度	1995(平成 7)年度
----	-----------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 経営学総論、人的資源管理論、ゼミナールⅢ、外書購読、キャリア設計
2.大学院担当科目 労務管理論特論、同演習、労務管理論特殊研究、同演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】特記事項なし						
【論文】「アメリカ雇用関係史」	単著	2019	石巻専修大学『経営学研究』第30巻		1-13	無し
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 特記事項なし	
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	大坂 良宏	就任年度	2000(平成 12)年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 財務管理論Ⅰ・Ⅱ、企業論Ⅰ・Ⅱ、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ
2.大学院担当科目 財務管理論特論、財務管理論特殊研究、企業論特論、企業論特殊研究
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 秋田県中小企業団体中央会セミナー	2019 年 3 月 12 日	秋田県中小企業団体中央会 演題「協同組合の適正な管理・運営を図るために」
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30)年 4 月 1 日~3 月 31 日	日本財務管理学会理事
同上	中小企業ベンチャービジネスコンソーシアム副会長
同上	石巻市コンプライアンス委員会委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年 4 月 1 日~3 月 31 日	紀要編集委員会委員	
同上	就職委員会委員	
同上	開放センター委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 企業論では企業の歴史的成立過程と会社構造に起因する企業社会の問題を扱っている。コーポレートガバナンスや企業と環境問題など事例を交えながらアプローチしている。また、財務管理論では資金調達論や意思決定の領域に焦点を当てた経営財務論の領域を扱っている。	明確な正解のない企業社会の問題を読み解くには、企業論の基本的理解が重要であり抽象的にならないよう事例を紹介しながら説明を加えている。概ね好意的に受けとめられているようだが、理解にやや困難な面もあったかもしれない。今後とも基本を大切にしながら進めていく必要がある。 経営財務論の領域でも近年テクニカルな色彩を強くしている。複雑な部分は削ぎ落とし単純化しながら説明を加えている。数値処理の作業は必須なので、一層シンプルなパターン化を図り達成感を提供したい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 現実の企業社会において要求される能力は、予め用意された解答ではなく、その時々状況を分析把握しながら最適解を導き出すところにある。ゼミナールにおいては、試行錯誤を繰り返しながら持てる力を出し合い、議論を上手く積み上げられるよう環境づくりにつとめ、課題解決型の演習を実施している。	報告者、質問者、司会の役割を順番に務めることによって、課題への取り組みに集中することができたようだ。学生の夏期休暇期間中の準備不足から、今年は東京で行われる証券ゼミナール大会への出場を果たすことができなかった。今後の課題である。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	:経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	日野 博明	就任年度	1989(平成元)年度
----	------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 プログラミング基礎、プログラミング論、プログラミング論Ⅰ、プログラミング論Ⅱ、アルゴリズム論、ビジネスシミュレーション論、情報活用法Ⅱ、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ
2.大学院担当科目 シミュレーション論特論、経営統計学特論、経営情報学演習、シミュレーション論特殊研究、経営統計学特殊研究、経営情報学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） アルゴリズム論で、前回の課題の解説を行った。	2018 年4月	課題の解説を行い、より理解を深めていけるようにした。
2.作成した教科書、教材、参考書 アルゴリズム論講義プリント	2018 年4月	前年度からさらに見直しをした。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2016（平成28）年4月～	宮城県東松島高等学校評議員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017（平成29）年4月～	人を対象とする研究倫理委員会委員長	
2018（平成30）年4月～	共創研究センター運営委員運営委員	
2018（平成30）年4月～	研究助成専門委員会委員	
2007（平成19）年4月～	高大接続研究事業 東松島高等学校担当	
2017（平成29）年4月～	大学院資格審査委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）毎回、前回提出の課題レポートの解説を行い、学習成果の向上を目指した。	例題をそのまま使うだけではないことに気付いた学生が見受けられた。
（実験）特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習）新2年生に算数、数学の初歩をプリント等で確認させた。	すべての苦手意識が抜けているわけではないが、毛嫌いをする様子は少なくなっているように思う。
（その他特記すべき事項）特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部経営学科	職名	教授	氏名	茂木克昭	就任年度	2007(平成 19)年度
----	----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 金融論 国際金融論 ゼミⅠ、ゼミⅡ、ゼミⅢ
2.大学院担当科目 金融論特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年度より継続中	大學開放センター委員	
同上	FD 委員会委員	
同上	図書館委員	
同上	経営学研究編集委員	

VI その他特記すべき事項

短期在外研究制度によりロンドンに 9 月 5 日から 10 月 4 日まで 2 か月間滞在。
研究テーマ：BREXIT の国際金融センターロンドンへの影響（平成 31 年度に論文作成予定）

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 特記事項なし	
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	湊 信吾	就任年度	1989(平成元)年度
----	-----------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報システム演習Ⅲ、オペレーティングシステム論、子どもとマルチメディア、マルチメディア通信論、ネットワーク通信論、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ (全学に関わるもの) いしのまき学、キャリア開発、国際体験研修（海外体験型）、海外語学研修（海外体験型） (教職に関わるもの) 情報科教育法
2.大学院担当科目 情報ネットワーク論特論、情報ネットワーク論特殊研究、経営情報学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 人文情報処理（東北大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 平成 30 年度高等学校商業教育技術研修会	2018 年 9 月 5 日、6 日	平成 30 年度高等学校商業教育技術研修会において「Raspberry Pi の活用と可能性、基本操作」と「Raspberry Pi でのプログラミング」というタイトルで高校の情報関係の先生を対象に講義・演習を行った。 「Raspberry Pi でのプログラミング」では LED ランプをスマホのアプリからネットワーク経由でオン・オフすることを目標に演習

		を行った。この成果をもとに翌日、学んだことを学生に指導をしてもらう演習を行った。
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
情報処理実習と情報技術の多様性	単著	2019年3月	石巻専修大学 経営学研究		30 巻、 15-27 頁	なし
高等学校における教科「情報」に関する一考察	共著	2019年3月	石巻専修大学 経営学研究	佐々木万亀夫、日野博明 湊信吾	30 巻、 53-72 頁	なし
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018 年 7 月 24 日	平成 30 年度 第 1 回石巻市環境審議会
2018 年 12 月 26 日	平成 30 年度 石巻市環境審議会 点検・評価部会
2019 年 2 月 12 日	平成 30 年度 第 2 回石巻市環境審議会
2007 年 4 月～	情報処理学会
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年 4 月～	全学教務委員会委員長	
2018 年 4 月～	石巻専修大学障がい学生支援委員会委員長	
2018 年 4 月～2019 年 3 月	研究助成専門委員会委員	
2018 年 4 月～2019 年 3 月	情報教育研究センターオブザーバー	システム更新に関わる仕様書案の作成、富士通との定例会に参加

VI その他特記すべき事項

2018 年 10 月 24 日 「高大接続事業」石巻好文館高校、「甲斐ある人といわれたいむ」分野別課題研究のうち心理学②の中間発表会に参加し講評を行った。
2019 年 2 月 13 日 「高大接続事業」石巻好文館高校、「甲斐ある人といわれたいむ」分野別課題研究のうち心理学②の「ゼミ内発表会」に参加し講評を行った。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・情報処理システム演習Ⅲでは Java のプログラミング実習を行い、統合開発環境 eclipse を使用して GUI アプリケーションを作れるところまでを目指す。 ・マルチメディア通信論では Blender という 3D モデリングソフトを使用し人体のモデルを作り、アニメーションを行えるようにしている。また、ビジュアルプログラミング言語 PureData を使用しサウンドを扱うための実習を行っている。 ・オペレーティングシステム論ではオペレーティングシステム（OS）の基本的な機能から、スマホに採用されている OS の機能まで講義を行っている。 ・通信ネットワーク論ではインターネットで情報が伝わる仕組みとセキュリティポリシーの考え方について、最新の例を用いて講義している。	実習系の授業では学生が無理なくついていけるような教材を学内ネットワークにおいて公開している。学生の理解状況を把握するために振り返りのレポートを提出してもらい、次回の授業にフィードバックできるようにしている。 講義系の授業はパワーポイントのスライドを利用して授業を行った後、復習ようにスライドをもとに Web ページを作成し、学内ネットワークで公開し、復習に役立ててもらっている。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・ゼミでは Raspberry Pi を使用して、UNIX のコマンドによる操作、各種プログラミング言語を利用し、ゲームプログラミングを中心に実習を行っている。	今回は python や lua という言語を使用し、様々な言語でプログラミングできるようにしたいと考えている。学生の進行状況を見て、次のテキストや素材の準備にフィードバックするように努めている。
（その他特記すべき事項） 東北大学文学部において人文情報処理を担当している。コンピュータリテラシー、Web ページ作成、プログラミングについて実習を行っている。テキストはインターネットで Web ページとして公開し、予習、復習に役立てるようにしている。	学生からの意見や質問をメールで受け付けるようにしている。これらのメールについては即日回答することを目標にしている。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	岡野 知子	就任年度	2002(平成 14)年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 税務会計Ⅰ 税務会計Ⅱ 税法 税法Ⅰ 税法Ⅱ ゼミナールⅠ・ゼミナールⅡ・ゼミナールⅢ 国際体験研修
2.大学院担当科目 租税法特論 会計学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 租税法特講Ⅰ 租税法特講Ⅱ 租税法演習 研究科論文指導（東北学院大学大学院 経営学研究科）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 全国簿記大会（大原簿記学校主催・イタリア大使館、日本公認会計士協会、東京税理士会協賛）春季・秋季大会にゼミ生および石鳳会計研究会の学生が参加 アカウンティング・コンペティション 2018 全国大会参加	2018/ 6/1 2018/11/10 2018/12/23	・ 全国大学簿記大会に参加する学生の指導および引率 ・ 日本大学商学部で開催されたアカウンティング・コンペティションに岡野ゼミナールの学生が参加し報告を指導。会場においてラインを活用したアンケート実施とその迅速集計を研究結果に反映させたことが評価された。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018年5月～2018年11月	宮城県土木部指定管理者選定委員会副委員長
2018年1月～2019年10月	東北税理士会調査研究部委員
2015年1月～	日本会計教育研究学会理事
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017年4月～2019年3月	図書館委員	
2017年4月～	経営学研究編集委員長	
2017年4月～	広報委員	
2017年4月～2019年3月	国際交流センター委員	
2003年～	石鳳会計研究会代表	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・税法 前期において学んだ内容について税務判例研究を行った。学生には、それぞれの租税事件を各々研究しパワーポイントを作成し、報告議論をする授業を試みた。 税法授業で事前授業として税務判例をパワーポイントでまとめ各自に報告させることにより、税法を実践的に理解させる ・税務会計 ある程度教員から教科書内容に沿った授業をおこなった後、共通テーマについてグループで議論し発表する形式の授業を試みた。各授業で必ず一回発言するよう指導した。	・税法 前期は教科書を中心に、後期は判例を用いて学生主体の授業を展開した。判例研究は学部生には難解であると思われたが、自主的にデータベース等を利用し意欲的に取り組んだと思う。 報告者の報告終了後、議論をしたが準備不十分の学生にとっては難しい内容となった。報告者、事前学習をした学生には非常に学習効果があった。 ・税務会計 グループ学習を試みたが、リーダーシップをとる学生が現れず、ディスカッションも消極的であった。以上の反省を踏まえグループで話し合い結論をだしていく学習方法を確立していきたい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・ゼミナールの学生が、2018/12/23 日本大学商学部において開催されたアカウンティング・コンペティション 2018 に参加するにあたり、指導および引率 ・全国大学対抗簿記大会出場にあたりゼミ生、石鳳会計研究会（サークル）の学生指導にあたる。	・今後も大会等に出場する機会を増やし、自らが学び知見を得る成功体験を増やしていきたい。 ・卒業論文は3年生の春休みにテーマを考え、4月から計画的に研究執筆に取り組むようにする。後期は、パワーポイントで3年次以下の学生に報告し議論するようにする。 12月には、執筆が終了するよう計画案を作成し、それに沿って執筆をするよう指導する。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	佐々木万亀夫	就任年度	1990(平成 2)年度
----	-----------	----	----	----	--------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報システム学入門（旧カリキュラム）、ビジネスと情報、情報活用法Ⅰ、情報システム演習Ⅰ・Ⅱ、情報システム管理論、ネットワーク管理論、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ
2.大学院担当科目 経営情報論特論 、情報資源管理論特論、情報資源管理論特殊研究、経営情報学演習、外国語専門文献研究
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 情報活用法Ⅱ（石巻専修大学人間学部）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		特記事項なし
2.作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし
4.その他教育活動上特記すべき事項		特記事項なし

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
高等学校における教科「情報」に関する一考察 (研究ノート)	共著	2019（平成31）年3月10日	石巻専修大学経営学研究 第30巻	佐々木万亀夫、日野博 明 湊信吾	pp.53-72	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

--	--	--	--

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年度～継続中	宮城県石巻商業高等学校評議員
2017(平成 29)年度～継続中	石巻市国民健康保険運営協議会委員
2017(平成 29)年 11 月 1 日～継続中	石巻市市民公益活動推進委員会委員（会長）
2017(平成 29)年度～継続中	特定非営利活動法人いしのまき NPO センター理事
2017(平成 29)年 9 月 25 日～継続中	公益社団法人みらいサポート石巻顧問
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年度～2019(平成 31)年 3 月 31 日	大学院経営学研究科長	
2017(平成 29)年度～継続中	大学院委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	石巻専修大学学部長会・大学院委員会合同委員会委員	
2017(平成 29)年度～2019(平成 31)年 3 月 31 日	自己点検・評価全学委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	日本学生支援機構学資金返還免除者学内選考委員会委員	
2017(平成 29)年度～2019(平成 31)年 3 月 31 日	キャンパス・ハラスメント防止委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	教員資格審査委員会委員	
2017(平成 29)年度～2019(平成 31)年 3 月 31 日	大学院資格審査委員会議長	
2017(平成 29)年度～2019(平成 31)年 3 月 31 日	研究活動等コンプライアンス委員会委員	
2017(平成 29)年度～継続中	石巻専修大学研究推進委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 表、図、写真等を多く授業で活用するため、プロジェクターを用いてスクリーンに投影しての説明が多い。また、資料の量も多めである。そのためか、一方通行の授業にならないように。なるべく授業中に学生とのコミュニケーションをとるように心掛けた。また、授業の理解度を向上させるため、毎回小テストを行っている。	授業アンケートではほぼ平均的な評価が得られたが、数式を使った説明が多い科目での理解度の項目ではやや低いスコアであった。次年度は、数学的な説明の改善に取り組む。また、以前は一方通行の授業になっているとの指摘があったが、今年度は無くなった。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 2016(平成 28)・2017(平成 29)年度のゼミナールでは、教室での知識修得に加え、希望者を学外の学会や NP0 活動に参加させることができたが、今年度は希望者がいなかったため、学外の活動に参加させることができなかった。	硬式野球部などの体育会系の部活動に入部しているゼミ生がほとんどであるので、練習や遠征試合のスケジュールと学外の活動との調整は困難であった。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部経営学科	職名	教授	氏名	三森敏正	就任年度	2007（平成 19）年
----	----------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 企業組織と法・株式と法・社会と法・法と人権（日本国憲法）・民法Ⅱ・ゼミⅠ・ゼミⅡ・ゼミⅢ
2.大学院担当科目 会社法特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) ビジネス法規（仙台白百合女子大学）

【教育業績】

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） Rシート	2018 年 4 月 1 日	授業の概要・質問・感想を毎回の授業毎に提出させて、学生の理解度を知り、疑問に答え、授業の改善を図るために作成している。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特別背任罪と企業買収防衛策	単著	10月20日	成文堂『日高義博先生古稀祝賀論文集』下巻		236-262	有
【その他】(報告書など)						
石巻地区広域行政事務組合第三者委員会報告書	共著	1月28日	石巻地区広域行政事務組合	三森敏正、斎藤智、及川 喜隆		
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
ドイツにおけるコーポレートガバナンス	単独	8月4日	実践経営学会東北支部会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30）年 5 月 21 日	石巻市建築紛争調整委員会（委員）
2018（平成 30）年 6 月 11 日他 4 回	石巻市社会教育委員会（委員）
2018（平成 30）年 6 月 29 日他 6 回	専修大学緑鳳学会（幹事、コメンテーター）
2018（平成 30）年 8 月 4 日他 6 回	実践経営学会（常任理事、報告者、司会、コメンテーター）
2017（平成 29）年 11 月 5 日他 2 回	石巻市情報公開・個人情報保護審査会（会長）
2018（平成 30）年 12 月 15 日	経営哲学学会（会員、司会）
2019（平成 31）年 1 月 9 日他 6 回	石巻地区広域行政事務組合第三者委員会（委員）
【その他研究活動上特記すべき事項】 石巻市行政不服審査会（副会長）、石巻地区広域行政事務組合個人情報保護審査委員会（委員）、石巻水道事業団個人情報保護審査委員会（委員）、 2018 年度経営革新塾講師	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年 4 月 1 日	学校法人専修大学個人情報保護委員会（委員）	
同上	個人情報保護会議（議長）	
同上	自己点検・評価運営委員会（委員）	
同上	経営学部資格審査委員会（委員）	
同上	経営学部教務委員会（委員長）	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） Rシートの活用・分析に基づき、学生の満足感を高めるため、板書等の方法を改善した。	概ね達成したと考えている。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 学生に目標を明確に定めさせて、各自の目標に到達できるよう、個別指導を徹底した。	特に問題が生じていないので、概ね達成していると考えている。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	関根 慎吾	就任年度	1993(平成 5)年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 フレッシュマンセミナー、ビジネス演習入門、簿記基礎、ビジネスと会計、会計学、財務諸表論、コンピュータ会計、会計学入門、会計学基礎、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ、商業科教育法
2.大学院担当科目 簿記論特論、会計学原理特論、会計学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 会計学入門（東北工業大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
公民としての資質・能力の基礎と教養としての 簿記教育—新中学校学習指導要領における簿記 会計教育のあり方—	単著	2018(平成 30)年 7 月	森山書店、會計第 194 巻第 1 号		29—42 頁	無
経営学部カリキュラムにおける初年次教育の効 果と課題	単著	2019(平成 31)年 3 月	石巻専修大学、石巻専修大学研究紀要第 29 巻		23—31 頁	無
【その他】(報告書など)						
<研究ノート>公正価値とコーポレートファイ ナンスの視点	共著	2019(平成 31)年 3 月	石巻専修大学、石巻専修大学経営学研究第 29 巻	関根慎吾・加藤由里絵	73—81 頁	無
<研究ノート>東日本大震災後の福島沿岸部に おける創業支援	共著	2019(平成 31)年 3 月	石巻専修大学、石巻専修大学経営学研究第 29 巻	山崎泰央・李東勲・関根 慎吾	83—93 頁	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 毎回、小テストを実施して授業での学習内容を確認する機会を提供した。また、授業スライドを授業後にコースパワーによって公開するとともに、予習すべき項目を毎回授業の最後に提示して、自学自習の習慣を確立させるように促した。	授業アンケートでは、高い評価を得ることができなかった。課題の提示方法が中途半端であったためと考えている。次年度は具体的な指示を心がける。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ゼミナールⅡでは毎月ボランティア活動を取り入れて、主体的に行動する機会を提供した。また、小説を題材に身近な話題から会計学の専門知識の活用例を自ら見出すという課題を提示して、学生に主体的に取り組ませている。	主体的な姿勢が見られるようになっている。
（その他特記すべき事項） (1)秋田県立大曲高校で出前授業を行なった。	(1)普通科と商業科の生徒が混在していたので、専門知識の基礎というよりは専門知識の前提を理解することの重要性に力点を置いたが、内容がうまく伝わったか、明確ではなかった。次回はペース配分に配慮するとともに、内容のさらなる吟味が必要だと考えている。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	丸岡 泰	就任年度	2012(平成 24)年度
----	-----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 国際経済論、開発経済論、観光開発論、産業観光論、ゼミナールⅢ
2.大学院担当科目 国際比較経営論特殊研究、開発経済論特論、経営学演習（以上、修士課程）、国際比較経営論特殊研究、経営学演習（以上、博士課程）
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) International Economic Development (Randolph-Macon College)、国際観光（宮城学院女子大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 フルブライト奨学金（日米教育委員会）Scholar-in-Residence	2017 年秋・ 18 年春	東日本大震災の津波犠牲者米国人英語 ALT テーラー・アンダーソン氏の日米親善の遺志を継ぎ氏の母校ランドルフ・マコン大学で 2017 年秋・18 年春学期授業(含被災体験談)。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
「東日本大震災後の日米大学交流中のボラン ティア・ツアーの自己評価―宮城県からヴァージ ニア州へ 2017・2018 年―」	単著	2019 年 (平 成 31 年) 1 月	『日本観光研究学会第 33 回全国大会学術論文 集』		CD	無
【その他】 (報告書など)						
「東北支部活動の継続に感謝」	単著	2019 年 (平 成 31 年) 1 月	『東北紀行』日本観光研究学会東北支部 Newsletter(Web)、第 25 号	日本観光研究学会 HP 掲載	1 頁	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
「東日本大震災後の日米大学交流中のボラン ティア・ツアーの自己評価―宮城県からヴァージ ニア州へ 2017・2018 年―」	単著	2018 年 (平 成 30 年) 12 月	日本観光研究学会第 33 回全国大会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018 年（平成 30 年）4 月 30 日	“Disaster and tourism after the Great East Japan Earthquake in comparative perspective” Annual International Studies Program Dinner, Randolph-Macon College, VA, USA
2018 年（平成 30 年）9 月 29 日	日本観光研究学会東北支部研究会（丸岡泰東北支部長、仙台市）
2018 年（平成 30 年）11 月 3 日	慶長使節 400 年記念復元船サン・ファン・パウティスタ号日本観光研究学会会員限定内覧会（石巻市）
2018 年（平成 30 年）11 月 22 日	宮城県慶長使節船ミュージアム主催復元船進水 25 周年記念シンポジウム「空と海とサン・ファン号」（石巻市）
2018 年（平成 30 年）12 月 16 日・17 日	日本観光研究学会第 33 回全国大会、エクスカッション、理事会（丸岡泰理事、跡見学園女子大学）
2018 年（平成 30 年）12 月 22 日	日本観光研究学会東北支部大会 2018（宮城学院女子大学）開催（丸岡泰東北支部長）
2019 年（平成 31 年）1 月 12 日	北東アジアエネルギー安全保障センター（CESNA）第 2 回総会（丸岡泰理事、大阪府・Skype 参加）
2019 年（平成 31 年）1 月 24 日	平成 30 年度宮城県慶長使節船ミュージアム企画運営委員会（丸岡泰委員、仙台市）
2019 年（平成 31 年）1 月 25 日	日本観光研究学会常務理事会、研究懇話会、新年会（丸岡泰常務理事、立教大学）
2019 年（平成 31 年）1 月 30 日	サン・ファン友の会松島研修会、懇親会（松島町、石巻市）
2019 年（平成 31 年）3 月 23 日	「石巻専修大学の観光とまちづくりの取組」石巻を考える女性の会：おんなの井戸端会議「みんなで話そう観光とまちづくり」（石巻市）
【その他研究活動上特記すべき事項】日本学術振興会科学研究費補助金 2017 年度（平成 28 年度）～2019 年度（平成 30 年度） 研究種目：基盤研究(C)「東日本大震災後の被災地における災害ボランティア活動の組織論的研究」 研究分担者：丸岡泰（石巻専修大学＝代表）、田尾雅夫（愛知学院大学）、佐々木万亀夫（石巻専修大学）、竹中徹（淑徳大学）	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年度（平成 30 年度）	外国人留学生担任	ヴェトナム人留学生 4 人の担任。学習意欲にはばらつきがあり、1 名退学に至った。一般に、授業について行くための漢字学習が必要。

VI その他特記すべき事項

2018 年（平成 30 年）11 月 15 日 石巻専修大学 30 周年記念講演「アメリカで再発見した日本のソフト・パワー ランドルフ・メーコン大学 2017-2018 年」
--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）「観光開発論」において履修学生 2 名が石巻市内観光行政・観光関係組織・NPO との面談・アンケート調査を実施。エコミュージアムによる震災後の観光の研究。後日、日本観光研究学会東北支部大会 2018 で発表。	概念研究・アンケート調査・発表のサイクルがあり、アクティブ・ラーニングと言える教育活動。
（実験） 特記事項なし	特記事項なし
（ゼミナール・卒業研究・演習） ゼミナールⅢ学生 1 名の卒業論文指導。東日本大震災後の南三陸町の観光について。	最終的な論文の完成度は高くなかったが、時間をかけたインタビュー調査を行ったことは評価できる。
（その他特記すべき事項） 2018 年（平成 30 年）6 月 20 日 「観光からの学びー経済発展と観光ー」 石巻好文館高等学校（出前授業） 2018 年（平成 30 年）8 月 7 日 「観光と経済発展」（東松島高校 - 石巻専修大学高大連携事業） 2018 年（平成 30 年）10 月 24 日 石巻好文館高等学校「甲斐ある人と言われタイム」中間発表会講評（高大接続授業） 2019 年（平成 31 年）2 月 13 日 石巻好文館高等学校「甲斐ある人と言われタイム」分野別課題研究講評（高大接続授業） 2019 年（平成 31 年）3 月 15 日 石巻好文館高等学校「甲斐ある人と言われタイム」全体発表会審査・講評（高大接続授業）	出前授業、高大連携事業各 1 回実施。 石巻好文館高等学校の「甲斐ある人と言われタイム」に 3 度参加。生徒の関心と研究の進展がわかった。高校生はまだ研究に対する姿勢が未熟で、自分の関心と研究方法を組み合わせることがまだ不得手だが、将来の可能性を感じさせるものもあった。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	山崎泰央	就任年度	2010(平成 22)年度
----	-----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 アントレプレナーシップ、復興ボランティア学、ビジネス演習、ビジネス演習入門、フレッシュマンセミナー、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、チャレンジゼミナール、フィールドワークⅠ・Ⅱ、インターンシップ実践、経営史Ⅰ・Ⅱ、ベンチャー経営論Ⅰ・Ⅱ
2.大学院担当科目 経営管理論特論、経営管理論特殊研究
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 アクティブラーニングは学校を変える～初年次教育で成果を上げるには Read For Action 読書法による「問い」を深める授業づくり *学生主体の防災と事前復興を考える場づくりー「復興ボランティア学ワークショップ」体験会ー	2019(平成 31)年 2 月 16 日 2019(平成 31)年 3 月 24 日 2019(平成 31)年 3 月 23 日	石巻専修大学経営学部が、なぜ初年次教育の取り組みと特徴について報告をした。 授業への関心を深めるために、問いを持って授業に参加できるように、RFA 読書法を取り入れたことの成果報告。 「復興ボランティア学ワークショップ」の成果報告とワークショップ体験会を展開した。

4.その他教育活動上特記すべき事項 第2回東北アクティブラーニング主催、ファシリテーター	2019(平成31)年2月16日	昨年度に引き続き東北アクティブラーニングフォーラムを開催した。東北各地の幼保から大学までほぼ全ての学種に関わる教育者が集まって、教育について考える機会を持った。
---	------------------	--

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
東日本大震災被災地における創業活動	単著	2019（平成31年）3月	『石巻専修大学 経営学研究』第30巻,		pp.29-40	なし
東日本大震災後の福島沿岸部における創業支援	共著	2019（平成31年）3月	『石巻専修大学 経営学研究』第30巻,	山崎泰央、李東勲、関根慎吾	pp.83-93	なし
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2014（平成 26）年 4 月～	石巻市創業支援者連絡会議アドバイザー
2015（平成 27）年 7 月～	宮城連携復興センター理事
2016（平成 28）年 1 月～	移動支援 Rera 理事
2017（平成 29）年 4 月～2019（平成 31）年 3 月	石巻産業創造株式会社「経営革新塾」運営委員
2018（平成 30）年 4 月～2019（平成 31）年 3 月	学都仙台コンソーシアム運営委員会副委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 復興ボランティア学ワークショップを東北、関西、九州で 12 回開催。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017（平成 29）年 4 月～2019（平成 31）年 3 月	大学開放センター長	
2018（平成 30）年 7 月～2019（平成 31）年 3 月	IK 地域研究員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） フレッシュマンセミナーにおける教育内容 1) 二つの自己紹介による話しやすい関係づくり 2) What's my color による他者目線からの自分発見 3) キャリアの多様性を考える外部講師による講話コーディネート 4) マインドマップの修得のための外部講師の招聘 5) マインドマップを利用した他者紹介プログラム 6) 質問の種類とつくりかた 7) 図書館 Quest 8) 職員インタビュー 9) 学校紹介ポスターづくり 10) RFA 読書法修得のための外部講師招聘 11) RFA 読書法 基本読み読書 12) RFA 読書法 ぐるぐる読書法 13) ルーブリックに基づいた前期授業の振り返り 14) 目標達成を「予祝」する 15) 質問コミュニケーション修得のための外部講師招聘 16) フューチャーマッピング修得のための外部講師招聘 17) フューチャーマッピングを使ったアクションプランづくり 18) エンパシーライティング修得のための外部講師招聘 19) エンパシーライティングを使ったゼミ志望書づくり 20) 耳栓を使った朗読による文章の見直し 21) ピアラーニングによる文章の見直し 22) グループラーニングによる文章の見直し	フレッシュマンセミナーでは、授業終了後、教員と SA でリフレクシオン会議を実施して、改善事項を検討したり、次回の授業内容について修正を加えたりしている。以下、主要な改善点のみ記述しておく。 今年度はフューチャーマッピングを後期、RFA 読書法を前期で学習するように入れ替えた。それは、将来のキャリア計画や目標に対して行動計画立てるには、前期は学校に慣れるのが手一杯で学生の余裕がないため、効果が薄いという判断によるものだった。 新入生歓迎企画の策定についても、前年度はフューチャーマッピングを活用していたが、学生の持つ経験や知識が少ないことと、物語から行動計画を紡ぎ出すことが十分にできなかったことから、オーソドックスなアイデア創発法を使うことにした。結果からすれば、オーソドックスな手法の方が、話合う機会が多く計画もよりバラエティに富むものとなった。

23) 付せんを使った自己紹介法 24) 付せんを使った課題の抽出法 25) 共感マップによる相手理解 26) 問いの因数分解 27) ブ레인ライティングによるアイデア創発 28) 親和図法による解決策の検討 29) バタフライテストによる解決策の絞り込み 30) ペイオフマトリクスによる解決策の評価 31) コンセプトシートの作成 32) ギャラリーウォークと他者目線による評価 33) 新入生歓迎企画実行計画の策定 34) Before—After の変化を起こす歓迎企画作り 35) 企画プレゼン大会 36) フューチャーマッピングを使った 10 年間のキャリア計画 37) 10 年後の自分への手紙づくり 38) レゴシリアスプレイをつかった 1 年間のリフレクション	
(実験) 特記事項なし	
(ゼミナール・卒業研究・演習) 特記事項なし	
(その他特記すべき事項) 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	杉田 博	就任年度	1999(平成 11)年度
----	-----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 経営管理論（経営管理論Ⅰ・Ⅱ）、経営組織論（Ⅰ・Ⅱ）、ビジネス演習入門、ゼミナールⅠⅡⅢ
2.大学院担当科目 経営組織論特論（演習）、経営組織論特殊研究（演習）
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の 別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
『農山漁村地域で働き生きるための経営学入門』	単著	2018 (平成 30) 年 6 月	第 6 章「農林水産業の新たな挑戦」文眞堂		71-84 頁 (14 頁)	無
【論文】						
特記事項なし						
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の 別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
「経営学史と解釈学」	単著	2018 (平成 30) 年 5 月 19 日	経営学史学会第 26 回全国大会統一論題 (神戸大学)			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017（平成 29）年度～継続中	経営哲学学会常務理事（東北部会長）
2018（平成 30）年度～継続中	経営学史学会理事
2018（平成 30）年度～継続中	日本マネジメント学会（北海道東北部会副支部長）
【その他研究活動上特記すべき事項】 講演「経営戦略の考え方」石巻信用金庫イノベーション企業家塾（平成 30 年度）、2018（平成 30 年）10 月 9 日、於：石巻信用金庫 講演「石巻圏域の産業復興と本学の取り組み」日本海水学会第 5 回海水・生活・化学連携シンポジウム、2018（平成 30 年）10 月 25 日、於：石巻専修大学 講演「中小企業の経営課題－中小企業が関わる地域づくり－」宮城県中小企業家同友会、2018（平成 30 年）11 月 2 日、於：東北大学	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017（平成 29）年度～継続中	経営学部長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 授業中にグループワークを実施した。またその結果の発表と質疑応答を行った。	〈教員―学生〉の相方向的な授業を行うことが出来た。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 他大学と合同でゼミナール合宿を実施し、グループ研究発表と卒業論文プロポーザル発表を行った。 夏休み：青森公立大学藤沼ゼミ、千葉商科大学坂井ゼミ 春休み：順天堂大学水野ゼミ、日本女子体育大学芳地ゼミ、朝日大学庄司ゼミ	・先行研究の整理、関係者インタビューなど研究発表の準備に取り組むことができた。 ・学外者から有益なコメントを得た。
（その他特記すべき事項） 東松島高校（8月7日）の生徒に高大接続事業で講義した（於本学）。 桜坂高校（11月14日）と仙台育英高校（11月21日）の生徒に対して模擬授業を行った（於本学）。 桜坂高校（3月18日）で出前授業を行った。	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部経営学科	職名	教授	氏名	益満 環	就任年度	2004（平成 16）年度
----	----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 経営情報システム論Ⅰ、経営情報システム論Ⅱ、情報システム設計論、情報システム学入門、情報活用法Ⅰ、総合科目、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ
2.大学院担当科目 経営情報システム論特論、情報システム構成論特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 企業情報システム（東北大学会計大学院）（平成 30 年度） 経営情報（前期）・（後期）（山形大学）（平成 30 年度） 経営学概論、企業 IT 戦略論（東北文化学園大学）（平成 30 年度）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 講義資料の作成 ICT 機器の活用	2018 年 4 月 1 日 2019 年 3 月 31 日	すべての講義において、自作の講義資料を作成し、配布している。また座学にとどまらず、情報通信機器を活用して多くの事例を紹介し、学生にわかりやすい授業を心掛けていく。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 平成 28 年度石巻好文館高等学校分野別課題研究 『甲斐ある人といわれたいむ』講師	2018 年 9 月	大学が教員を派遣し、高校生が行う研究活動を支援するもので、生徒の説明を受け、テーマ設定の重要性、検証・調査方法、今後の進め方等について助言を行った。
4.その他教育活動上特記すべき事項 高大接続研究事業講義(情報活用法Ⅰ)の実施	2018 年 4 月 1 日 2019 年 3 月 31 日	大学生活や社会生活で必要となるコンピュータ・スキルの向上を目指した講義である「情報活用法Ⅰ（高大接続研究事業講義）」を担当し、大学生および高校生に対し、ソフトウェアおよびコンピュータに精通する人材の育成を行った。。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
平成 30 年度登米市行政評価外部評価報告書	共著	2018 年 7 月	登米市	米市行政評価委員会	9 ページ	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
地方自治体におけるシティプロモーションの現 状と課題	単著	2018 年 10 月	第 60 回日本経営システム学会全国研究発表大 会			
オープンデータを活用した地域活性化に関する 研究	単著	2018 年 5 月	日本沙漠学会第 29 回学術大会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
石巻市沿岸部復元立体模型の展示	南浜つなぐ館（石巻市 南浜町）	2018 年 4 月 1 日～継続中	3D プリンターで制作した石巻市沿岸部復元立体模型の展示し、観光客や被災地研修者向けに展示活動を行っている。

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2019 年 2 月 9 日	平成 30 年度石巻専修大学学生表彰式敢闘団体賞「登米市シティプロモーション活動」
2018 年 9 月	平成 30 年度石巻好文館高等学校分野別課題研究『甲斐ある人といわれたいむ』講師
2018 年 7 月～継続中	登米市シティプロモーションサポーター
2018 年 4 月～継続中	登米市行政評価委員会委員長
2018 年 4 月～継続中	一般社団法人東北産業振興協会顧問
【その他研究活動上特記すべき事項】 【外部資金獲得】 (研究代表者) 平成 30 年度石巻専修大学自主活動支援制度 B「田代島観光マップの制作」、2018 年 7 月 1 日-2018 年 12 月 31 日。 平成 30 年度石巻専修大学研究助成「東日本大震災後の石巻市の情報通信政策に関する調査研究」、2018 年 4 月-2019 年 3 月。 (研究分担者) 文部科学省平成 28 年度私立大学研究ブランディング事業「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へー草葉起源による内水面養殖業の創出ー」、2017 年 1 月-2019 年 3 月。 【受託研究】 宮城県商工会連合会「SNS 等を活用した販路開拓支援事業に係るモニター調査分析業務」、2018 年 8 月-2019 年 3 月。 宮城県中小企業家同友会「平成 30 年度会員企業に対するアンケート調査」、2018 年 10 月-2019 年 3 月。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 平成 30)年 4 月～	学科主任	
2018 平成 30)年 4 月～	教務委員会委員	
2018 平成 30)年 4 月～	情報教育研究センター委員	
2018 平成 30)年 4 月～	ソフトテニス部顧問	

VI その他特記すべき事項

2014 年 2 月	平成 25 年度石巻専修大学学生表彰式敢闘賞 (団体)	益満環、高橋智
------------	-----------------------------	---------

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 情報通信技術を活用して変化するビジネス、地域社会、暮らしについての講義である「経営情報システム論Ⅰ」および「経営情報システム論Ⅱ」や、大学生活や社会生活で必要となるコンピュータ・スキルの向上を目指した講義である「情報活用法Ⅰ（高大接続研究事業講義）」を担当し、大学生および高校生に対し、ソフトウェアおよびコンピュータに精通する人材の育成を行っている。また、「総合科目」では、全学部の受講生に対し石巻市が提供するデータを活用して新たな施策を提案している。さらに、「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」および「ゼミナールⅢ」においては、産学官連携のもと IT を活用したものづくりやシステム開発などのゼミナール活動に積極的に取り組んでいる。	すべての授業においてプロジェクター等の IT 機材を用いてわかりやすい授業を心掛けている。「情報活用法Ⅰ」では、受講生のコンピュータ・スキルレベルごとに対応した演習課題を設定した演習を行っている。授業においてはすべてオリジナルの資料を作成・配布し、学生の理解度に応じてテーマを適時変更するなどの努力を行っている。授業アンケートでは、「わかりやすい」、「教え方が丁寧」などの評価を得ている。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 3D プリンターを活用して製作した石巻市沿岸部の復元立体模型の展示活動を県内外で行っている。登米市のシティプロモーションサポーターとなり、SNS を活用した情報発信やロゴマークを活用した商品開発を行っている。	下記（その他特記すべき事項）に記したとおり、各種イベントに参加したり、商品開発を行うことによって地域経済の発展に寄与する人材の育成を行っている。
（その他特記すべき事項） ゼミナール活動に関する実績は以下の通りである。 【イベント参加】 第 15 回日本一はっとフェスティバル（宮城県登米市）『登米市シティプロモーション PR グッズの販売』、2018 年 12 月 2 日（日）。 登米市産業フェスティバル（宮城県登米市）『登米市シティプロモーション PR グッズの販売』、2018 年 9 月 30 日（日）。 【メディア掲載】 「② 石巻専修大学 益満ゼミ「シティプロモーション」、石巻地域産学官グループ交流会ニュースレター ピオニエーレ、2019 年 1 月、10-12 ページ。 「第 2 回目 「情報・ビッグデータを地域で活かす」、石巻地域産学官グループ交流会ニュースレター ピオニエーレ、2019 年 1 月、7-9 ページ。	

「日本一はっとフェスティバルで登米市シティプロモーションサポーターがPR活動」、登米市ホームページ、2018年12月7日。https://www.city.tome.miyagi.jp/shisejoho/ijuteju/20181207.html 東日本放送「KHB ニュース 登米市で”はっとフェスティバル”」、2018年12月2日（日）。 石巻専修大学図書館『3D プリンタ活用による東日本大震災以前の福島県新地町釣師地区の街並み復元模型展示』、2018年10月13日（土）－2018年10月19日（金）。 「「うまし、たくまし、登米市」を発信」、広報とめ12月号、Vol.283、2018年11月、4ページ。	
--	--

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	李 東勲	就任年度	2008(平成 20)年度
----	-----------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目
ビジネス演習入門、マーケティング基礎、マーケティング論Ⅱ、中小企業論、流通論、特殊講義Ⅳ、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ
2.大学院担当科目
マーケティング論特論、外国語専門文献講読
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)
特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		特記事項なし
2.作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし
4.その他教育活動上特記すべき事項		特記事項なし

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
日本における水産物流通に関する一考察	共著	2019年3月	専修マネジメント・ジャーナル第107号	佐藤陽一、 <u>李東勲</u>	5頁	
東日本大震災後の福島沿岸部における創業支援	共著	2019年3月	石巻専修大学経営学研究第30巻	山崎泰央、関根慎吾、 <u>李東勲</u>	4頁	
【翻訳】「Denis Guiot, Université Paris-Dauphine－高齢消費者の統合的な分析の枠組み－	単著	2019年3月	専修マネジメント・ジャーナル第107号			
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
Study on the micro retail trade problem in Japan－日本における小零細小売業問題に関する研究	単著	2018年 10月	2018 Fall International conference The Korea Distribution Association			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2012(平成 24)年度～継続中	旧北上川水面利用者協議会 委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 石巻市は地域産業の競争力強化の手段として石巻地域の観光資源を発掘・活用するために DMO（Destination Management Organization）を 2014(平成 26)年 12 月に設立した。また、東日本大震災によって壊滅的な被害を受けた水産業の復興を目指して鮮魚をはじめ、水産加工業のブランド化にも力を入れている。 そこで、2017(平成 29)年度の研究活動においては、「地域の歴史・文化を活用したまちづくりに関する研究」を研究課題として、石巻市特有の歴史・文化・水産資源を生かしたまちづくり、地域活性化について研究を行っており、本研究活動の一環として石巻の特産品である牡蠣と豊かな自然環境を東京都町田市の消費者にアピールするために「石巻・町田フレンズフェスタ」を東京都町田市の（株）町田まちづくり公社および山形名産四季の杜と連携して、2019 年 2 月 21 日から 2 月 25 日まで開催した。なお、本活動の目的を達成するために町田市関連団体（町田商工会議所、原町田四丁目商店会、原町田四丁目第一町内会）にもご協力を仰ぎ、実施したのである。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017 年(平成 29)年度～2018(平成 30)年度	学生部委員	
2017 年(平成 29)年度～2018(平成 30)年度	FD 委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 担当科目は、「マーケティング基礎」、「マーケティング論Ⅱ」、「中小企業論」、「流通論」および「ビジネス演習入門」、「特殊講義Ⅳ」である。 「マーケティング基礎」では、マーケティングの基礎知識を教授しながら、なぜ企業や組織においてマーケティング戦略が必要であるか、すなわち企業経営におけるマーケティングの役割を理解するように指導している。 「マーケティング論Ⅱ」では、マーケティング基礎の基礎概念を踏まえながら、個別企業視点からマーケティング戦略の根幹をなす「マーケティングの 4Ps」について説明するとともに、事業経営や現代社会における適応方法について教授を行っている。 「中小企業論」では、日本の中小企業の歴史的背景や経済成長における役割について説明しながら、今後の中小企業経営のあり方やグローバル化時代における中小企業の経営革新ならびに経営戦略について指導している。 「流通論」では、商品とサービスの生産から消費に至る流通の仕組みについて解説し、生産者、卸売業者、小売業者のそれぞれのマーケティング戦略について考察しながら、我々の多様で豊かな生活を支える流通の役割と諸機能について教授している。 「ビジネス演習入門」は、社会に出てから必要とされるコミュニケーション能力や課題発見・解決能力・論理的思考力などを身に付けるために、企業が新入社員に課すような実践的なテーマで授業を展開している。 「特殊講義Ⅳ」では、企業活動のグローバル化に関する基礎として世界各国・地域の市場特性や社会文化について説明しながら、多国籍企業のマーケティング活動を多方面から捉えて目まぐるしく変化する経済情勢を理解し、どのように判断すべきかについて指導している。	・マーケティング戦略論（旧、マーケティング論Ⅱ） 前期の学生による授業評価においては、全ての問いは平均を上回る評価であったが、自由記述で講義時間内に終えて欲しいとの意見があった。シラバスの講義計画のこともあって、どうしても時間を超える場合があったが、今後は講義時間内に終えるように努めたい。 ・中小企業論（旧、中小企業論Ⅰ） 本講義に関する受講生からの評価はすべての問いにおいて高評価であった。この結果は、受講生全員が意欲的に講義に参加してくれたからだと思う。今後も受講生から高い評価を得られるように努めたい。 ・特殊講義Ⅳ 後期の学生による授業評価においては、全ての問いは平均を上回る評価であったが、自由記述で講義時間内に板書を消すタイミングが少々早いという意見があった。今後は、学生らに書き終えたかを確認してから消すように心掛けたい。 ・マーケティング基礎（旧、マーケティング論Ⅰ） 授業評価において問 1. と問 6. は平均を上回る評価であったが、それ以外の項目では平均を下回る評価であった。本講義は、多くの学生、特に 1 年生は今まで接したことのない専門用語が数多く、かつ科目特性上英語の表現が多いが故の評価であったと思われる。また、これと関連して板書が見づらい、英語の表記が見にくかったという意見（自由記述回答）もあったので、今後は丁寧な板書を心掛けたい。

	・流通論 本講義に関する受講生からの評価はすべての問いにおいて高評価であった。この結果は、受講生全員が意欲的に講義に参加してくれたからだと思う。今後も受講生から高い評価を得られるように努めたい。
(実験) 特記事項なし	
(ゼミナール・卒業研究・演習) ゼミナールでは「マーケティング」の専門知識を確実に習得するために、覚える・知る→理解する→活用・応用するという順を追って展開している。これは、2006(平成 18)年経済産業省によって定義されている「社会人基礎力」、すなわち前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を養成するためでもある。	
(その他特記すべき事項) 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	教授	氏名	庄子 真岐	就任年度	2010(平成 22)年度
----	-----------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 地理学、都市論、都市と農村、国際経営論Ⅰ、国際経営論Ⅱ、地域経営論、観光学、地域観光論、観光まちづくり論、アートマネジメント、ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、人間文化演習Ⅱ
2.大学院担当科目 国際経営論特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 観光地理（宮城学院女子大学）、観光ビジネス論（宮城大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
震災後の被災地におけるボランティアおよびツ ーリズムを契機とした継続的交流のあり方に関 する考察	共著	2018 年 12 月	日本観光研究学会東北支部会	庄子真岐、宮原育子		
石巻地域における若者の地域イベント参加意向 について	共著	2018 年 12 月	日本観光研究学会東北支部会	鹿野茜、庄子真岐		
川辺資源を活用した大学生による地域イベント 実施報告	単著	2019年2月	平成 30 年度北上川流域圏推進交流会議			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2014（平成 27）年 4 月～	仙台市広域集客型産業立地促進助成金交付事業選定委員会委員
2015（平成 27）年 4 月～	石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員
2016（平成 28）年 2 月～	宮城県農村振興施策検討委員会委員
2016（平成 28）年 2 月～	みやぎグリーンツーリズムアドバイザー
2017（平成 29）年 11 月～	仙台市音楽ホール検討懇話会委員
2017（平成 29）年 7 月～	県立高等学校将来構想審議会委員（宮城県）
2018（平成 30）年 3 月～	これからの観光まちづくり探究委員会委員（東松島市）
2018（平成 30）年 4 月～	仙台市総合計画審議会委員
2018（平成 30）年 4 月～	宮城県行政評価委員会部会委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年度～	教務委員	
2018 年度～	キャンパス・ハラスメント防止委員会委員	
2018 年度～	キャンパス・ハラスメントに関する相談員	
2018 年度～	石巻専修大学創立 30 周年記念事業委員会（プロジェクト）委員	
2018 年度	経営学部新学科構想ワーキンググループ 座長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 双方向型授業の実践 ① 質問票と質問対応に基づいた講義内容の復習 ② チーム制によるプレゼン ③ 新聞記事発表 ④ 相互理解を促進	本学で担当の「地理学」「都市論・都市と農村」「地域経営論」「アートマネジメント」においては、講義の後半10分を用いてオリジナルの質問票で講義に関する質問を募集し、次の講義の冒頭に質疑応答の時間を設定し、講義内容を振り返った。学生のつまづきや興味を知った上で講義を組み立てることができ、学生の理解が深まった。本学で担当の「観光まちづくり論」「地域観光論」「観光学」の講義では、講義内容に関する新聞記事を検索し、発表する場を設けた。講義で学ぶ理論的内容を実践につなげる視点を養うと同時に、自ずと予習する習慣を作り出すことができたと考える。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・以下の実践的なプロジェクトプロジェクトに取り組んだ。 リバーアートプロジェクト（高大産連携プロジェクト） 全国運河サミット in みやぎ サブイベント「竹こもれびナイト」の開催	ゼミ生は、これらのプロジェクトを通して、地域への理解を深めるとともに専門的な知識を活用した実践力を養うことができた。また、現場で活躍されている方々と触れ合うことで社会的なマナーをも身につけさせることができたと考える。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	准教授	氏名	田村 真介	就任年度	2008（平成 20）年度
----	-----------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 管理会計論、原価計算論、経営分析、商業簿記、フレッシュマンセミナー、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢ
2.大学院担当科目 管理会計論特論、中小企業会計論特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2019(平成 31)年 6 月 30 日	石巻市公務災害補償等認定委員会委員
2018(平成 30)年 10 月 18 日～2019(平成 31)年 3 月 31 日	石巻市専門委員(行財政改革)
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年度	教務委員会委員	
2018(平成 30)年度	広報委員会委員	
2018(平成 30)年度	学生部委員会	
2018(平成 30)年度	高大接続研究事業担当（石巻商業）	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） (1)管理会計論：計算能力の向上のために各自で復習できるよう練習用のプリントをテーマごとに配布した。 (2)経営分析：実在企業の財務諸表等をもとに経営分析を行うことで関心が深まるようにして、学習成果の向上を目指した。 (3)原価計算論：計算能力の向上のために各自で復習できるよう練習用のプリントをテーマごとに配布した。 (4)商業簿記：演習の時間をなるべく多く設けるようにして、学習成果の向上を目指した。	(1)授業アンケートにより、授業時間以外の学修時間について学生間の差がみられたので、事前・事後学習の改善に取り組む。 (2)経営分析の前提となる財務諸表の理解が不十分であった学生もみられるため、毎回復習の時間を設けるなど財務諸表の理解により多くの時間を割くように改善に取り組む。 (3)カリキュラムの変更に伴い、授業内容の変更を行ったが、内容を詰め込みすぎたため、授業内で計算のトレーニングに時間を多く割くことができなかった。内容の理解に影響を及ぼしたため、授業計画の見直しを図る。 (4)授業計画の前半から難易度が高めの内容となってしまうと考えられるので、授業内容の再点検に取り組む。
（実験） 特記事項なし	

(ゼミナール・卒業研究・演習) (1)ゼミナールではプレゼン力、調べる力、考え抜く力を養うことに重点を置いている。ゼミナールのテーマである管理会計(マネジメントをサポートする会計)を学ぶにあたっては、ゼミ生それぞれが管理会計の対象となる企業の経済的事象のいづれに関心があるのかを明確にできるよう取り組んでいる。これらのためには初年次教育で学んだツール(マインドマップ、読書法など)も活用している。 (2)岡野ゼミナールと合同で、簿記能力の向上と日商簿記検定の合格者を増やすことを目指して、日商簿記検定合格プロジェクトを実施している。このプロジェクトには資格の大原 大原大学院大学主催の全国大学対抗簿記大会への出場も含まれる。 (3)アカウンティングコンペティション(会計学を学ぶ学生たちによる研究発表大会)の第3回大会に参加した岡野ゼミナールの学生の報告準備(テーマは「軽減税率制度」)のため、補佐的に指導に当たった。	(1)どの程度の力がついたのかを確認するための機会(研究発表の場など)が少なかったので改善に取り組む。 (2)日商簿記検定3級と2級の合格者を輩出している。プロジェクトにおいて簿記の学び方を経験しているため、プロジェクト外においても検定合格を目指して自学を進めることができている。全国大学対抗簿記大会は検定受験日の1週間前に開催されているため、大会出場が簿記能力の向上とともにモチベーションの維持・向上に役立っている。 (3)参加学生の調査研究能力、プレゼン能力が向上した。また、他学(東京中心)の学生の様々なゼミナール活動に触れることにより、参加学生にはゼミナールでの学びに対しモチベーションの向上がみられた。
(その他特記すべき事項) (1)高大連携(大学見学会)で来学した石巻商業高校の2年生に模擬授業を実施した。 (2)高大連携で来学した専修大学北上高校(商業科)の2年生に岡野ゼミナールとともにゼミナール体験を実施した。 (3)専修大学北上高校で1年生を対象に出前授業を行った。 (4)石巻商業高校で1年生を対象に高大接続研究事業(出前授業)を行った。 (5)石巻商業高校で2年生を対象に高大接続研究事業(単位認定講義のガイダンス)を行った。	(1)高校で学んでいる簿記の知識を活かしながら、簿記の役立ちを考えてもらうよう、「有価証券の取引」や「交通費の取引」など分かりやすい事例をもとに参加型の授業を行うことができた。 (2)ゼミ生が主体となり、各ゼミナールの活動状況と、岡野ゼミナールと田村ゼミナールが合同で実施している日商簿記検定合格プロジェクトの体験記を発表し、高校生と交流を図り、ゼミ生の日常を知ってもらうことで本学に対する高校生の興味を引くことができた。 (3)簿記や会計について学ぶ意欲を引き上げるため、「有価証券の取引」や「交通費の取引」など分かりやすい事例をもとに簿記・会計の役立ちを考えてもらう参加型の授業を行うことができた。 (4)本学に進学した石巻商業高校の卒業生に大学での学び等について講話をしてもらう時間を設けた。学生視点による本学の紹介ができたとともに、卒業生の成長を見てももらう機会とすることができた。 (5)高校生のうちに大学の講義を受講する意義について理解してもらう機会となった。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	准教授	氏名	工藤 周平	就任年度	2015(平成 27)年度
----	-----------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 企業組織とマネジメント、経営戦略論Ⅰ・Ⅱ、生産管理論Ⅰ・Ⅱ、フレッシュマンセミナー
2.大学院担当科目 経営学特論、経営学演習
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 「企業組織とマネジメント」での取り組みについて	2019 年 1 月 24 日	FD 委員会が実施する「授業研究会」において、1 年次開講の「企業組織とマネジメント」での工夫や留意点について発表を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Research on Business Resilience against Natural Disaster: Business Changes after the Great East Japan Earthquake	単著	2019年3月	石巻専修大学経営学研究、第30巻、石巻専修大学経営学会		41～52	無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
顧客価値とICT適用範囲の関係分析—東北地方の中小製造業の事例—	単著	2018年6月	日本情報経営学会			
Value Discipline and ICT Utilization in Small and Medium-sized Enterprises: The Case of Manufacturers in Tohoku Area	単著	2018年6月	Association of Japanese Business Studies Conference			
組織的成熟度の観点からのICT利活用の評価—東北地方の中小製造業のケース—	単著	2018年6月	経営情報学会			
Value Discipline and Organizational Capabilities for ICT Utilization: The Case of Small and Medium-sized Manufacturers in Tohoku Area	単著	2018年12月	日本経営学会東北部会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018 年 12 月 8 日	2018 年 12 月開催の日本経営学会東北部会の幹事
2018 年 12 月 1 日～継続中	石巻市立病院倫理委員会委員
2018 年 7 月 19 日～継続中	登米市施設指定管理者選定委員会委員
2018 年 7 月 1 日～継続中	石巻地方広域水道企業団経営審議会第 1 号委員
2018 年 6 月 1 日～継続中	石巻市地域公共交通会議委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

(1) 2018 ランドルフ・メーコン大学との交流事業に参加する学生を引率し、事前研修、現地での研究発表、帰国報告会、研究報告書作成の指導を行った (2) 富士通コンピュータテクノロジーズ社と石巻地域の高校との高大産連携プロジェクトに参加し、ゼミナールで家族ロボット教室に参加・協力した

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） （１）マインドマップやフューチャーマッピングを導入し、アクティブラーニングによる学習成果の向上を目指した （２）授業全般で、長い説明は配布資料にまとめ、ポイントのみを板書するというように工夫を行った （３）日本を中心とする代表的な企業の事例を活用するということや、極力最新の企業の取り組みを紹介しながら基礎的な経営学の理論を説明することを心がけた	授業評価アンケートの結果から、「黒板に内容を書きすぎて、スペースが狭まっているのもうちょいスペース空けた方がいい」「板書をもう少し整理して書いてほしい。分かりにくい」というコメントがあった。また、「教員の話し方」と「教員の熱意」で平均点を下回っていた。次年度は、黒板に内容を書きすぎるのではなく、適宜資料を配布するなどして、板書の内容を減らすように工夫し、熱意の点では、講義内容の重要性を強調し、それを理解してもらうように心がける。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） （１）ゼミナールでは、経営戦略の基礎的な枠組みを説明しながら、それら枠組みを用いて地域の問題や自分の興味のある経営現象について分析できるように指導を行った （２）ゼミナールでの教育研究活動では、企業経営における情報通信技術の活用に焦点を当てているが、富士通コンピュータテクノロジーズ社との高大産連携プロジェクトに参加し、ロボットの操作やプログラミングの方法について学習した （３）ゼミナールで、調査したことを実際にパワーポイントにまとめて発表してもらい、またレポートや卒業論文を作成する際の基本的な流れや注意事項の説明を行いながら、プレゼンテーションや卒業論文作成のための作法について指導を行った	学生の毎回の発表状況から、プレゼンテーション資料のデザインや内容について学生の能力が高まった。またレポートの内容も指導前よりも改善されたものが提出されており、卒業論文作成のための能力が高まった。高大産連携プロジェクトに参加し、石巻地域の方々との交流を通じて、学生が地域と関わる能力が高まった。次年度は、調査や分析の能力がさらに高まるように指導を行う。また高大産連携プロジェクトの内容に基づいて、新しい地域との交流プログラムについて検討していく。
（その他特記すべき事項） （１）専修大学北上高等学校で高大接続授業（出前授業）を行った。 （２）石巻専修大学にて石巻市立桜坂高等学校（１年生）の体験授業を行った。	高校生を対象にしていることから、高校生にとって身近な企業の事例を取り上げたことで興味関心を持って講義を受講していたと考える。数式を使って説明を行ったが、イメージしにくい部分もあったため、次回は説明を工夫する。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	准教授	氏名	舩井 道晴	就任年度	2011(平成 23)年度
----	-----------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 情報活用法、コンピュータシステム論、データベース論、経営数学、社会科学と数学、意思決定システム論、オペレーションズリサーチ、ゼミナール、フィールドワーク、フレッシュマンセミナー
2.大学院担当科目 情報経済学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「商業科プログラミング分野の実際～県内各高校との連携事例の紹介～」	2018 年 9 月 6 日	宮城県総合教育センター主催の「商業教育技術者研修」において、本学高大産連携プロジェクトをはじめとした、昨今の ICT 教育の事例について講演と Pepper を活用した実習を行った。
「ひがしまつしま食べメッセ」	2018 年 11 月 18 日	東松島市コミュニティセンターで実施された「ひがしまつしま食べメッセ」において、Pepper によるイベント案内のアプリ制作・デモンストレーションおよび「東松島食育アプリ」の制作・展示を行った。

「IoT と AI」	2018 年 11 月 19 日	地域の経営者の方々に「IoT と AI」の理解を深める機会を設けたいとの要請が石巻信用金庫からあり、ゼミナールで進めている情報教育・データサイエンスに対応した学び、モノとインターネットについての「IoT」、データを活用した「AI」についての解説を行った。
「食育とプログラミング教育」	2019 年 2 月 13 日	東松島市健康推進課、矢本第一中学の生徒と共に、「食育」をテーマにしたスマートフォンアプリケーションを作成した（「東松島食育クイズ」「野菜博士・栄養博士」）。行政、中学、大学のコラボレーションを生み出すと同時に、野菜の栽培など実体験型ではない、新しい食育のアプローチを提案した。
「研究シェアリングプログラム」	2019 年 2 月 25 日	遂行している研究・教育内容を石巻市内の企業に対して紹介した。併せて、Pepper によるデモンストレーションを行った。
4.その他教育活動上特記すべき事項 「高大産連携による地域活性化への挑戦」	2019 年 3 月	高大産連携プロジェクト（Pepper）について、石巻市桜坂高校と取り組んできた内容を「大学時報」にて紹介した。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】特記事項なし						
【論文】特記事項なし						
【その他】（報告書など）特記事項なし						
高大産連携による地域活性化への挑戦	単著	2019年3月	大学時報 No.385			無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

Ⅴ 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年 6 月～	オープンキャンパス担当（入試委員会）	
2018 年 7 月～	数学入試問題作成	
2018 年 4 月～	ホームページ委員会（2017 年度～）	委員長
2018 年 4 月～	入試委員会（2017 年度～）	

Ⅵ その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 今年度の授業では「事前・事後学習」の徹底を図った。予習・復習内容をアナウンスした上で、毎回「事前学習確認問題」を実施した。また、学習習慣を根付かせるために、特に初年次配当科目の「情報活用法」ではノートの取り方やグループワークの仕方に関しても扱った。	アンケートに関して、どの項目も概ね高評価を得た。特に「データベース論」においては昨年度と比べて講義以外の学習時間の増加が顕著であった。一方「内容が難しい」「自習だけでは追いつかない」といった声もあったため、さらなる改善を加えたい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 今年度のゼミナールは「メディアコンテンツ制作」と「アプリケーション開発」の2つを中心として活動を行った。いずれの活動においても、学外の団体と協力することにより、これまでにない成果を出すことができた。活動に取り組んだ学生が大きく成長できたことは言うまでもない。また、卒業論文指導においては、多彩なテーマを設定し、論文の書き方や考察の仕方など、丁寧に指導を行った。 ゼミ生には「授業を大事にすること」を徹底している。単位を取得するだけでなく、評価にもこだわり、自分の力を伸ばすことを意識づけている。そのため、毎年必ず在学生特別奨学生に選ばれる学生を輩出している。また、川島記念学術賞受賞者を2年連続で輩出できたことも喜ばしい。	ゼミナールの運営は円滑に進んでいる。また、学生たちの取り組む姿勢も非常に良く、今年度も多くの成果をあげることができた。一方で、活動に意欲的になりきれない学生も少ないながらも存在する。そのような学生に対する動機付けを工夫していきたい。
（その他特記すべき事項） 以下の取り組みについて現在構想中である。 ・小・中・高校生に対するプログラミング教育 ・小学校教諭を対象としたプログラミング教育の勉強会	【教育業績】の欄で示した通り、今年度は昨年度以上の業績を残した。これらの業績で得た知見を地域に還元するための取り組みを実行に移していきたい。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	経営学部 経営学科	職名	准教授	氏名	関口 駿輔	就任年度	2013(平成 25)年度
----	-----------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 経済と社会、基礎経済、経済学、経済学入門、基礎統計学、統計学、経済理論、ゼミナールⅠ・Ⅱ
2.大学院担当科目 企業経済学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 経済学入門	2018(平成 30)年 10 月 5 日	米本清・宇都宮仁編著 「第 3 章企業の行動」担当
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 公益財団法人東北活性化研究センターとの共同研究	2018(平成 30)年 10 月 5 日 2019(平成 31)年 2 月 20 日	公益財団法人東北活性化研究センターとの共同研究として、ゼミナールⅠ・Ⅱの学生による研究報告（事前報告会）を実施。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
経済学入門	共著	2018(平成30)年10月	株式会社みらい	米本清・宇都宮仁他	第3章	無
【論文】						
都市内歳出較差のシミュレーション分析	共著	2019(平成31)年3月	石巻専修大学研究紀要第30号	関口駿輔(本人)・長瀬勇人		無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018(平成 30)年 12 月～継続中	公共選択学会幹事
2017(平成 29)年度～継続中	日本計画行政学会学術賞幹事
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年 4 月～ 8 月	経営学部留学生担当	ベトナム人留学生との面談（毎週）等

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 特記事項なし	
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ゼミナールⅠ・Ⅱにおいて公益財団法人東北活性化研究センターとの共同研究を実施	公益財団法人東北活性化研究センターとの共同研究として、ゼミナールⅠ・Ⅱの学生による研究報告（事前報告会）を実施 2019（平成31）年4月15日に研究報告会を実施予定
（その他特記すべき事項） 石巻好文館高校で高大接続授業（出前授業）を行った。	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部	人間教育学科	職名	教授	氏名	山崎 省一	就任年度	1989(平成元)年度
----	------	--------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 保育実習指導Ⅰ 地域スポーツ論 幼児教育実習Ⅰ 幼児教育実習Ⅱ 保育実習Ⅰ（保育所）
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		特記事項なし。
2.作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし。
4.その他教育活動上特記すべき事項		特記事項なし。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の 別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし。						
【論文】						
特記事項なし。						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし。						
【学会発表】	単著・ 共著の 別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし。						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし。			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2013(平成25)年から現在に至る	NPO法人石巻市体育協会理事
2013(平成25)年から現在に至る	石巻市スキー協会理事(1016年まで)、顧問(2016年から現在に至る)
2013(平成25)年から現在に至る	石巻市陸上競技協会副会長(2013年まで)、顧問
2013(平成25)年から現在に至る	日本体力医学会評議員
2013(平成25)年から現在に至る	日本体育学会東北地域会会長(2013年から2016年)、代議員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし。		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 特記事項なし	
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	照井 孫久	就任年度	2014(平成 26)年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 地域福祉論、保育実習Ⅰ（施設）指導、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、人間学概論、家族社会学、相談援助、生活構造論、高齢者福祉論、社会福祉論、専門職研究、フレッシュマンセミナー
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・不登校児童生徒支援のための取り組み	31 年 3 月	①石巻地域拠点校連絡会議で不登校支援への取り組みの現状を報告した。②「生徒指導主事へのインタビュー調査による不登校支援に関する連携の実際と課題」、石巻専修大学研究紀要、2019, 3
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
「生徒指導主事へのインタビュー調査による不登校支援に関する連携の実際と課題-A 地区の事例から-」	共著	2019年3月	石巻専修大学研究紀要	新福悦良・ <u>照井孫久</u>	55-57	無
【その他】（報告書など）						
不登校支援研究会報告書	共著	2019年2月	石巻地区不登校支援研究会	<u>照井孫久</u> 、新福悦郎、 横江信一	1-31	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
主任介護支援専門員におけるスーパービジョン実践の評価モデル構築に向けての調査研究	共著	2018年5月	日本ケアマネジメント学会第17回研究大会	<u>照井孫久</u> 、野村豊子、 本山潤一郎		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
平成 30 年 6 月 14 日、8 月 3 日、10 月 25 日、平成 31 年 1 月 17 日、2 月 14 日	石巻地域に勤務する小学校、中学校の教員 8 名との協同により、不登校支援事例の検討、不登校児童生徒に関するアセスメントシートの作成等に取り組んだ。
平成 30 年 4 月～6 月、7 月 14 日、平成 31 年 3 月 21 日	主任介護支援専門員におけるスーパービジョンへの取り組みの現状と課題について、インタビュー調査及びアンケート調査を実施し、主任介護支援専門員 SV モデルの構築に取り組んだ。その研究成果を日本ケアマネジメント学会で報告し、優秀賞を受賞した。
山形県（平成 30 年 5 月 31 日、6 月 18 日、9 月 19 日、12 月 18 日、2 月 28 日）／宮城県（30 年 5 月～31 年 2 月、月 1 回）／岩手県（10 月～2 月、月 1 回）	高齢者福祉施設におけるケアのリスクの現状と、リスクへの対応の課題について明らかにするために、研究協力への同意を得た事業所（山形県 27 事業所、岩手県 2 事業所、宮城県 20 事業所）と連携し、自動車事故、薬の誤配、転倒骨折事故等の現状と課題の分析、及び今後の対応方法の検討に取り組んだ。
平成 30 年 8 月	石巻市地域福祉計画策定のためのアンケート調査の実施、及び調査結果の分析について石巻市の担当職員と協働で取り組み、石巻市地域福祉計画のための基礎資料を作成した。
平成 30 年 8 月 7 日	平成 29 年教員免許更新講習講師、テーマ「危機管理の課題と組織的対応の必要性
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
平成 30 年 4 月 1 日～	学生部委員	
〃	石巻専修大学地域協働プログラム推進委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 前期年度の授業アンケートの結果では、講義の内容が非常に難しいと感じている学生が多いことがわかったため、後期の授業では社会福祉の理論の基本をわかりやすく説明すること、及び具体的な事例を提供することを心がけた。また、授業内で学生同士が意見交換をすることができる場面をできるだけ多くつくるとともに、テーマによってはビデオ等を活用して学生自らが問題点を調べる機会を多く取り入れた。	授業アンケートの結果については、全科目で向上が見られたが、「相談援助」では授業内容がわかりにくいという評価が多かった。今後については、ソーシャルワークの理論に加えて具体的な事例を活用していきたいわかりやすい授業を心がけていきたい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 1年制対象のフレッシュマンセミナーについて、特に前期は「知のツールボックス」を参考に資料を作成し、新入学生が少しでも早く大学生活に馴染むことができるよう配慮した。	新入学生の大学での学びに一定の貢献をすることができたものとする。年度末の時点では、グループ討議での発言、調査研究結果のプレゼンテーション等にかかなりの向上が見られた。
（その他特記すべき事項） 人間教育学科 1 年のクラス担任として、クラス全員の学生との面談を実施し、学生一人一人の授業やクラブ活動への取り組み状況について把握するとともに、問題や課題が予想される場合は早めの対応を心がけた。不登校傾向を有する学生とのコミュニケーションを頻繁に行い、必要に応じては保護者とも連絡を取り合っている。	クラス担任は 3 年生となるので、将来を見据えた就職などの問題にも十分に配慮していく必要があるものと考えている。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	佐藤 幹男	就任年度	2014(平成 26)年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 教職概論、教職概論（中等）、教育課程論、教育制度論、教育制度論（中等）、保育・教職実践演習（幼・小）
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 教育制度論（尚絅学院大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
The relationship between risk management and effectiveness in preschool in Taiwan	共	2018年3月	東北教育学会研究紀要 第21号	東北教育学会	15～27頁	有
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017 年 4 月～2019 年 3 月	東北教育学会 理事
2017 年 4 月～2019 年 3 月	東北教育学会 編集委員
2018 年 3 月	東北教育学会 分科会 司会
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017 年 4 月～2019 年 3 月	人間学部長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 双方向の授業、わかりやすい授業に努めた。	他学部、他学科の授業は手応えがあるが、人間教育学科の授業では、さらなる改善が必要
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 2018 年 10 月 学内サークル サッカー部長に就任	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	近藤 裕子	就任年度	2013(平成 25)年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目：音楽文化論、初等教科教育法（音楽）、アンサンブルⅠ、アンサンブルⅡ、ピアノ実技とソルフェージュⅠ、ピアノ実技とソルフェージュⅡ、子どもの歌と伴奏法Ⅰ、子どもの歌と伴奏法Ⅱ、保育内容（音楽表現）、音楽、器楽演習（応用）Ⅰ、器楽演習（応用）Ⅱ、器楽演習（応用）Ⅲ、器楽演習（応用）Ⅳ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 1) ピアノ実技授業での個人進度表を作成	2018(平成 30)年 4 月～	授業：「ピアノ実技とソルフェージュⅠ、Ⅱ」「子どもの歌と伴奏法Ⅰ、Ⅱ」 ピアノ実技授業では『コード奏』と『弾き歌い』を学ぶが、数字の成績評価だけでは伝えられない本人への助言を、毎回個々の学生に行っている。また半期ごとに、目標や課題曲、達成度等がわかる個人進度表を作成し、現在の実力を「目に見える形で提示」した。その結果、学生のやる気を引き出し、彼らは現状と今後について深く考えながら練習するようになった。
2) 子どもの歌チャレンジシートの作成	2014(平成 26)年 4 月～	授業：保育内容（音楽表現） ・将来、保育士・幼稚園教諭になるための授業で、幅広い音楽実技を身につけてもらうために、個々の学生が各項目の達成度を確認することができるシートを考案した。項目ごとに達成した日時を記入し担当者のサインをもらい最終日に提出する。学生たちは、この授業で何をやるか、何ができるようになったか、が明確になり、授業への取り組みが一層深まった。

2.作成した教科書、教材、参考書 1) 改訂4版 幼児の音楽教育法 美しい歌声をめざして(ふくろう出版)	2019(平成31)年3月～	授業：保育内容（音楽表現）、音楽、ピアノ実技とソルフェージュⅠ、Ⅱ、子どもの歌と伴奏法Ⅰ、Ⅱ、器楽演習（応用）Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ ・第8章「初心者のためのキーボード・ハーモニー」を執筆。幼稚園教諭・保育士をめざす学生が、読んですぐに理解し、演奏できることを目標にした。 ・子どもの歌6曲を編曲。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	査読の有無
【著書】						
改訂4版 幼児の音楽教育法 美しい歌声をめざして	共著	2019(平成31)年3月	ふくろう出版	吉富功修・三村真弓編著	83-91, 158, 174-175, 176-177, 180-181, 182-183, 188	
【論文】						
【その他】（報告書など）						
【学会発表】	単著・共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）		
揚琴の可能性を求めて《Elastic Oscillation 弾性振動》香港公演より	単著	2018(平成30)年7月	東北芸術文化学会第24回大会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
1. 2018 Asian Tradition, Asian Contemporary : Japan - Hong Kong Exchange Concert (香港)	Theatre, Hong Kong City Hall	2018(平成 30)年 5 月 31 日	作曲：《Elastic Oscillation 弾性振動》 揚琴:Kwok Kaying
2. 中国・四国の作曲家 2018 in 岡山 ～共生と創造への架け橋～	ルネスホール（おかや ま旧日銀ホール）	2018(平成 30)年 9 月 29 日	作曲：《緑蔭 Ryokuin》 尺八と箏のための 箏：山路みほ 尺八：イオ・パヴェル
3. 爽籟の響き―箏・尺八コンサート―	やかげ町家交流館 (岡山)	2018(平成 30)年 10 月 21 日	作曲：《緑蔭 Ryokuin》 尺八と箏のための 箏：山路みほ 尺八：イオ・パヴェル
4. 音楽のたまため箱 vol.4 (岡山) ―子どもとともに創る・楽しむ―	ルネスホール（おかや ま旧日銀ホール）	2018(平成 30)年 11 月 25 日	作曲：近藤裕子 ソプラノ：池田尚子 ピアノ：芦田田鶴子 1. うんていがはげましてくれた 作詩：岡山県里庄町里庄東小学校 3 年生 2. こおった池 作詩：岡山市大元小学校 2 年生 3. ねこ 作詩：岡山市大元小学校 2 年生 4. タベのかね 作詩：岡山市立三軒小学校 2 年生

Ⅳ 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2012(平成 24)年 11 月～現在に至る	石巻市子どもの権利推進委員会委員（会長）
2017(平成 29)年 8 月～現在に至る	ヤングコンポーザーコンサート in 東北 実行委員会 会計監査
2019(平成 31)年 3 月 11 日	東日本大震災石巻市追悼式 追悼合唱 作曲” 石巻の小学生の詩による「ことば」” および指揮
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・毎時間、学生一人一人とコミュニケーションをとるように心がけ、実行した。個々に対応しなければならない授業なので教員の負担が大きいが、今後も一人一人に向き合ってより良い授業を展開したい。（全担当授業） ・最終的に全員が楽器を演奏し、絵本にオリジナルの曲を付けることができた。（保育内容（音楽表現））	音楽文化論は実技科目ではないが、授業アンケートでは独特で大変面白い音楽の授業であると大変好評だった。
（実験） ・特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・特記事項なし	
（その他特記すべき事項） ・石巻市立桜坂高校の高大接続授業（体験授業）を行った。	生徒や先生から、非常に独創的な授業で楽しかったと大変好評だった。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	柳 明	就任年度	2018(平成 30)年度
----	-------------	----	----	----	-----	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 理科、初等教科教育法（理科）、保育内容（環境）、幼児教育実習事前事後指導、くらしのバイオサイエンス、自然環境論 生命と地球、細胞生物学、基礎生物学 A（基礎生物学、生物学 I）
2.大学院担当科目 細胞生物学特論、（細胞進化学特論）
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
第3研究グループ「研修システムの確立」	共著	2019年3月	私立大学研究ブランディング事業報告書	柳明、恵原貴志、指方 研二、佐藤利明、照井孫 久、山崎省一	pp. 52-64 (未確定)	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30 年）年 9 月 19 日	「第 8 回科学の甲子園---宮城チャレンジ 2018---」の事前課題②【生物分野】で使用するゾウリムシを提供した。
2019（平成 31 年）年 3 月 3 日	宮城県遠田郡涌谷町の相野沼で採集したゾウリムシをナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）ゾウリムシに提供した。
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	人間学部人間教育学科 学科主任	
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	人間学部教務委員	
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	人間学部教員資格審査委員	
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	人間学部学科主任教授協議会員	
2018(平成 30)年 9 月～2019(平成 31)年 3 月	学部長会に出席	オブザーバーとしての出席

VI その他特記すべき事項

2018(平成 30)年 11 月 8 日に開催された石巻専修大学創立 30 周年記念事業「私立大学研究ブランディング事業シンポジウム」の研究成果発表会において第 3 研究グループの代表者として報告した。 - 私立大学研究ブランディング事業第 3 研究グループ代表者として研究報告書を執筆した。
--

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・ 「保育内容（環境）」の授業の中で、学生の体験活動を重視して、野菜（ジャガイモとサツマイモ）の栽培を行った。また、「理科」の授業ではアサガオの栽培を行った。 ・ 授業アンケート結果への対応として、授業の導入部分で学生の興味を引くように工夫した。	一部の授業では、授業の導入部分の改善が効果を奏したが、一部の授業ではさらに授業の導入部分を改善する必要があることがわかった。次年度以降の課題である。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部	人間教育学科	職名	教授	氏名	笹原英史	就任年度	1996(平成 8)年度
----	------	--------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目
人間学概論、教育原理、地域・学校連携論、教職課程論、教育方法論、特別活動の指導法、教育実習事前事後指導、中学校・高等学校教育実習ほか
2.大学院担当科目
特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)
特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） マルチメディアなどのデジタル化教材の使用。ミニットペーパーを用いた継続的かつ意欲的な授業への参加の工夫、ワークショップ的学習の導入。	2018 年 4 月～	この業績については、以下の論文で公表している （「道徳指導法」におけるグループによる模擬授業の導入に関する考察」 石巻専修大学教育会教科教育（初等・中等）研究部会報第 2 号補遺, pp37-42, 2012 年 4 月ほか） 当該年度前より、左記内容については注力しているが、今後とも努力傾注する。
2.作成した教科書、教材、参考書 講義用教材（指導案事例集、教育・教師について考える小説・映画資料）の作成	2018 年 4 月～	当該年度前より、左記内容については注力しているが、今後とも努力傾注する。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
ファンダメンタルエデュケーションの「全般的な課題」について	単著	2019 年 3 月	石巻専修大学研究紀要第 30 号	45～50 ページ		なし
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
～2018 年 5 月	全国私立大学教職課程研究連絡協議会・全国私立大学教職課程協会理事
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年 4 月～	図書委員	
2018 年 4 月～	保育士・教員養成センター委員	
2018 年 4 月～	再課程認定専門部会委員	
2018 年 4 月～	石巻専修大学創立 30 周年記念事業委員会プロジェクト委員	
2018 年 4 月～	紀要編集員会委員長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 本年度においてもパワーポイントによるデジタル化教材を使用した視覚的な授業実践、スライドの内容の分かりやすさに留意した。マルチメディアやデジタル化教材を使用した授業実践、小課題・確認課題を頻繁に提示したり、ディスカッションや模擬授業などのワークショップ的要素を取り入れるなどして学生の理解を促進するよう努めた。	（教育活動全般・FD 活動） 石巻専修大学FD委員会「学生による授業評価アンケート」報告書では、ほとんどすべての項目で全体の平均値を上回る評価を受けた。本年度においてもパワーポイントによるデジタル化教材を使用した授業実践などについて評価する学生が多かった。本年度においてもとくにマルチメディアやデジタル化教材を使用した授業実践、小課題・確認課題を頻繁に提示したことなどが、評価を受けた。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 模擬授業の実施、学生による課題研究発表など、いわゆるアクティブラーニングの機会を頻繁に設けるよう努力している。	学生のレポート内容や取り組み姿勢などから判断するに、左記の努力が奏功しているものと思われる。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部人間教育学科	職名	教授	氏名	佐藤 正恵	就任年度	2013(平成 25)年度
----	------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 保育心理学Ⅰ、保育心理学Ⅱ、子どもの保健Ⅱ、教育相談の理論と方法、臨床心理学概論、障がい児・者心理学、家族心理学、心理アセスメント基礎実習、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（施設）、幼児教育実習Ⅰ、幼児教育実習Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 障害児心理療法特論（岩手県立大学大学院 社会福祉学研究科）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】 特記事項なし						
【論文】 宮城県における放課後児童クラブ支援員の 悩みに関する研究 2ー沿岸部の特徴につい てー	単著	2019 年 3 月	石巻専修大学研究紀要 第 30 号		141-147	無
【その他】(報告書など) 特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
宮城県における放課後児童クラブ支援員の 悩みについてー仙台市とそれ以外の地域を 比較してー	単著	2018 年 6 月	日本学童保育学会 第 9 回研究大会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018 年度	キャンパス・ハラスメント防止委員会 副委員長	(兼) 相談員
2018 年度	学生相談室、キャンパス・ハラスメントに関する相談室 副室長	(兼) 相談員
2018 年度	人間学部人間教育学科 1 年生担任	

VI その他特記すべき事項

2018 年度宮城県保育士養成校連絡協議会における施設実習当番校（本学）担当者として、県内の全養成校の施設実習生の配置や反省会開催等の関連業務に携わった。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
(授業) 保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、認定心理士の資格取得のための必修科目等、授業数は多かったが、わかりやすい資料作成等に努力した。	授業評価アンケートは総じて平均的、もしくはそれを上回るものもあり、概ね評価しうる結果であった。学生の志向は徐々に変化するので、今後も柔軟に授業を組み立てていきたい
(実験) 特記事項なし	
(ゼミナール・卒業研究・演習) 人間教育学科に卒業研究等はないが、大学院進学希望者 1 名（4 年生）に卒論の指導を実施した。	
(その他特記すべき事項) 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部	人間教育学科	職名	教授	氏名	指方 研二	就任年度	1998(平成 10)年度
----	------	--------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎物理化学、基礎化学 A、生活環境科学、物質とエネルギー、理科、初等教科教育法（理科）、保育内容環境、初等教育実習Ⅰ、初等教育実習Ⅱ、幼児教育実習Ⅰ、幼児教育実習Ⅱ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ
2.大学院担当科目 応用反応化学特論、構造化学特論、物質工学特別研修Ⅰ（物質基礎）、物質工学特別研修Ⅱ（物質基礎）、物質工学特別演習・実験Ⅰ（物質基礎）、物質工学特別演習・実験Ⅱ（物質基礎）、界面物理化学特論、応用反応化学特論、機能性物質設計工学セミナー、物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む）		特記事項なし
2.作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし
4.その他教育活動上特記すべき事項		特記事項なし

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
		特記事項なし	

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2013 年～現在	電気化学会東北支部幹事
2013 年～現在	表面技術協会東北支部幹事
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2013 年～現在	実験廃棄物処理委員会委員	
2013 年～現在	学生部委員会委員長	2015 年～現在
2015 年～現在	日本学生支援機構奨学資金返還免除者学内選考委員会、キャンパス・ハラスメント防止委員会、石巻地域連携推進会議委員、人間力育成センター運営委員会、個人情報保護運営委員会	学生部長
2016 年～現在	人間学部人間教育学科クラス担任	

VI その他特記すべき事項

私立大学研究ブランディング事業・第3研究グループ

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（教育活動全般・FD 活動） 講義資料の配付を心がけている。また、板書の速度、声の大きさに気をつけるよう心がけている。	授業評価（基礎物理化学）では、例年になく低い評価となった。途中でシラバスから外れ、学生の希望する分野に講義内容を変更したことが原因の一つと考えられる。次年度は計画通りに進める。
（授業） 理科、初等教科教育法（理科）、保育内容（環境）では、植物の育成や実験なども行っている。	主体的に取り組もうとしない学生を減らすため、計画立案から学生に関わらせる。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	教授	氏名	新福 悦郎	就任年度	2014(平成 26)年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 社会、初等教科教育法社会、教育方法論、道德教育の理論と指導法、教職実践演習、地域学校連携論、人間学概論、中学・高校教育実習、保育実習 I
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 社会科教育論、公民科教育論（東北大学教育学部）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 中学校社会科副読本『資料で学ぶ東松島市の歴史』を作成した。	2019 年 3 月	東松島市教育委員会と同市中学校社会科教師とともに、2 年間にわたって郷土素材について検討を図り、教師用副読本を完成させた。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
いじめ問題関係判決書の教材開発といじめ授業	単著	2018 年 12 月	専修大学出版局		496 頁	
【論文】						
生徒指導主事へのインタビュー調査による不登校支援に関する連携の実際と課題—A 地区の事例から—	共著	2019年3月	「石巻専修大学研究紀要」第 30 号	新福悦郎・照井孫久	pp,51-59	無
【その他】（報告書など）						
資料で学ぶ東松島市の歴史	共著	2019年3月	石巻専修大学・東松島市教育委員会編集	新福悦郎 他 9 名	36 頁	
平成 30 年度石巻地区不登校支援研究会報告書	共著	2019年3月	石巻地区不登校支援研究会編集	新福悦郎・照井孫久・横江信一		
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
安全学習についての総合的研究—判決書の教材開発を中心に—	共同	2018年7月	日本学校教育学会第 33 回研究大会	新福悦郎・蜂須賀洋一		
安全学習の総合的研究—「いじめ・自然災害」「学校事故・熱中症」関連の判決書教材開発によるプログラム化と授業開発—	共同	2018 年 11 月	日本教育実践学会第 21 回研究大会	新福悦郎・蜂須賀洋一・上猶覚・萩原和孝・山元研二		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017 年 10 月～現在まで継続	女川町教育委員会教育委員
2018 年 4 月～現在まで継続	石巻市いじめ問題対策連絡協議会 会長
2018 年 9 月～2019 年 3 月	石巻市立高等学校将来構想委員会 委員長
2018 年 8 月 7 日	教員免許状更新講習会 講師 いじめ、法的視点から見た安全教育
2018 年 11 月 22 日	石巻市いじめ問題対策協議会事業教育講演会 講師
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017 年 4 月～現在まで継続	FD 委員会委員長	
2017 年 4 月～現在まで継続	石巻専修大学地域協働プログラム推進委員会 委員長	
2018 年 4 月～2019 年 3 月	保育士・教員養成センター委員	
2018 年 4 月～2019 年 3 月	人間学部人間教育学科 4 年生担任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 事前に判決書教材をもとに学習を深め、大川小学校へのフィールドワークと遺族語り部による体験談を取り入れ、授業の工夫を行った。	授業後のリアクションペーパーでは、安全教育についての深い学びが見られた。その実践は、「私立大学1・2・3」において個性が光る取組として掲載された。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 石巻西高校で高大接続授業（総合的な学習へのコメント）を行った。	高校生の疑問点を大事にしながら、研究の進め方についてアドバイスを行った。発表のポスターを見ると、アドバイスが生かされていたように思われた。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部	人間教育学科	職名	特任教授	氏名	田中 秀典	就任年度	客員 2013（平成 25）年度 特任 2014（平成 26）年度
----	------	--------	----	------	----	-------	------	--------------------------------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 算数、初等教科教育法（算数）、道徳教育の指導法、生徒・進路指導の理論と方法、特別活動の指導法 専門職研究、保育所実習Ⅰ・Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 算数、初等教科教育法（算数）	30.4. 30.9	新学習指導要領改訂に伴う内容を精査し、学生の学びが深まるように教材テキストを改訂。
2.作成した教科書、教材、参考書 道徳教育の指導法、生徒・進路指導の理論と方法、特別活動の指導法	30.4. 30.9	新学習指導要領改訂に伴う内容を精査し、学生の学びが深まるように教材テキストを改訂。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
第6期『耕人塾』活動のまとめ	共著	H31.3	耕人塾	田中秀典、木村民男	72ページ	
「がってん塾」の活動のまとめ	単著	H31.3	石巻専修大学人間学部田中秀典ゼミナール		30ページ	
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
30.6～31.3	平成29年度石巻専修大学共創研究センター 「学習支援の質向上とボランティア運営の一元化を図る方策」
30.6～31.3	平成29年度石巻市心の復興事業 「復興ボランティア」リユニオン～学生参加による支援活動
平成30年度	日本数学教育学会 会員 代議員
平成30年度	北海道算数数学教育会小学校部会 賛助会員
平成30年度	初等教育研究会札幌市＜算数＞支部 顧問
【その他研究活動上特記すべき事項】 ・石巻支援学校「運動会」「学芸会」ボランティア ・石巻カンファレンス「学校と地域の協働による未来」31.2.9 実行委員 ・キッズ・サポート・プログラム ボランティア 実施日 平成30年10月6日(土) 集合場所 本学体育館 ・第6回 石巻リバーサイドマラソン ボランティア 30.6.12 午前 追波河河川公園 ・平成30年度ソニーものづくり教室 ソニー科学教育研究会（SSTA）宮城支部 日時 平成30年7月23日（月）午前9時から11時30分まで 場所 石巻市立中津山第二小学校 体育館	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
平成30年度	人間学部4年次学級担任	
平成30年度	就職委員	
平成30年度	石巻専修大学 保育士・教員養成センター委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 日常用語との違いがある専門用語も多く、学生の能力に見合った授業改善に努めている。活動を位置づけ、学生が主体化する姿を生み出すよう努力しているが、時間数が不足している。模擬授業の効果的な取り組み方にもさらに検討を加えていきたい。	F D委員会等からの刺激で指導法の改善行う教員が増えているせいか授業評価の数値が高まっているが、個人的にはさがってきているので結果を真摯に受け止め、授業改善を図るべく、テキスト等を改訂中である。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	特任教授	氏名	有見 正敏	就任年度	2014(平成 26)年度
----	-------------	----	------	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1. 学部担当科目	「算数」、「専門職研究」、「保育・教育研究」、「専門教養演習」、「初等教育実習事前事後指導」、「初等教育実習Ⅰ・Ⅱ」 「キャリア研究」、「インターンシップ」
2. 大学院担当科目	特記事項なし
3. 非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。)	特記事項なし

【教育業績】

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 特記事項なし		
2. 作成した教科書、教材、参考書	平成30年 3月	小学校実習ガイドブックについて、新学習指導要領の改訂に伴い、各教科・領域等のねらいの加除修正
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成30年 8月3日	宮城県学力向上研究指定校事業研修会講師（栗原市立一迫小学校） 「算数の授業改善に向けて」指導過程と発問についての講話
4. その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
平成 30.5.1・8.20・平成 31.2.26	矢本西小学校学校運営協議会
平成 30.5.2 ・7.30・平成 31.1.11	女川の教育を考える会
平成 30.7.24・ 11.13	仙台市教員育成協議会
平成 30.8.1 ・8.21	女川町教育行政評価委員会
平成 30.8.7	免許更新講習講師
平成 30.6.13 ・10.2・平成 31.2.6	石巻市食育推進会議
平成 30.12.5	在仙大学教育実習等連絡協議会
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
平成 30.6.5・11.1	教育人材育成拠点校連携推進連絡会 保育士・教員養成副センター長	
平成 31.2.1	石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会 保育士・教員養成副センター長	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・毎回、振り返りの時間を設け、感想や要望等の把握に努めた。	・授業アンケートは良好な評価であったが、内容の理解については4点以下であった。次年度は、内容の精選と主体的に取り組める工夫（学習形態等）をしていく。
（実験） ・特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） （１）教育実習については、事前指導を徹底した。 （２）演習中心の科目（保育・授業参観）については、相手校と念入りに打ち合わせを行って実施した。	（１）脱落者もなく、全員が終えることができたが、日誌の書き方や社会的マナーなど課題が残った。次年度は課題を中心に事前指導を徹底する。 （２）レポートなどから保育・教職の实际的、実践的な理解を深めることができた。次年度も更なる充実を図っていく。
（その他特記すべき事項） ・小学校教員を目指す学生を対象に、週３回、正課外授業（教育法規、教育時事等）を実施した。また、長期休暇中に志津川自然の家において、２泊３日の宿泊研修を行った。	・自己の課題を明らかにすることができた。その後、計画を立てて取り組むなど意欲的な姿が見られた。次年度も継続していく。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部	人間教育学科	職名	特任教授	氏名	横江 信一	就任年度	2018(平成 30)年度
----	------	--------	----	------	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1. 学部担当科目 保育・教職実践演習（幼・小）、初等教育実習事前事後指導、地域と政策、地域政策論、基礎総合演習Ⅱ、初等教育実習Ⅰ、初等教育実習Ⅱ、キャリア設計、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、幼児教育実習事前事後指導、幼児教育実習Ⅰ、幼児教育実習Ⅱ、いしのまき学
2. 大学院担当科目 特記事項なし
3. 非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1. 教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 学校・地域保健連携推進事業 保健講話	2018(平成 30)年 11 月 22 日	・ゲーム依存による諸問題を提示し、「SNS」や「無料通話アプリ」の正しい利用の仕方について、松島町立松島第二小学校の 5 年生と 6 年生を対象に授業を行った。
多様な価値観を引き出すコミュニケーションづくり	2018(平成 30)年 11 月 21 日	・仙台育英学園高等学校 2 年生による大学見学会において、模擬授業を実施。本音で語り合う探究の対話 p 4 c（philosophy for children）を取り入れながら、他者の考えを引き出し、折り合いを付けて自己決定ができるコミュニケーションづくりの在り方を模擬授業を通して行った。
石巻好文館高校出前授業	2018(平成 30)年 6 月 20 日	・石巻好文館高校の総合的な学習の時間「甲斐ある人といわれたいむ」において、アイスブレイクや探究の対話 p 4 c 等を取り入れ、コミュニケーション能力の開発について出前授業を行った。

2.作成した教科書、教材、参考書		特記事項なし
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 鹿角市立花輪第二中学校区「しばひら起業体験フォーラムⅢ」講演 宮城県小学校特別活動研究協議大会講演 女川町校務等研修会講話 登米市教育研究会小学校特別活動研究会講演 石巻地区学級づくり研修会講話	2019(平成 31)年 2 月 15 日 2018(平成 30)年 11 月 28 日 2018(平成 30)年 10 月 24 日 2018(平成 30)年 10 月 5 日 2018(平成 30)年 8 月 3 日	・秋田県鹿角市立花輪北小学校、平元小学校の 5・6 年生と花輪第二中学校 1・2 年生対象に地域の特性を生かしながら学校の魅力を引き出す起業体験活動に関する講話を行った。 ・宮城県連合小学校教育研究会特別活動部会主催による宮城県小学校特別活動研究協議大会が仙台市泉区中央市民センターで行われ、「特別活動への期待と展望」と題して講演を実施。魅力ある学級づくりを目指して、学級活動における合意形成のプロセスとマンダラート発想法や探究の対話「p 4 c」などの実践について講話を行った。 ・女川町内小中学校中堅、教頭、指導主事対象に学校運営全般に関する管理職等の職務遂行について、関係法規や今日的課題を踏まえて指導・助言を行った。 ・学級経営を基盤にしたこれからの特別活動に向けて、「特別活動を基盤とした魅力ある学級づくりを目指して」と題して「合意形成」に対する学級担任同士の共通理解や同質的共同性から並存性を大事にした学級づくりについて講演を行った。 ・大学開放センター「教育連携部会」の事業として、石巻地区学級づくり研究会を立ち上げ、石巻教育研究会特別活動研究部会と連携して実施した。本学人間教育学科学生その他、石巻圏域の小学校教員が参加し、学級経営の運営について講話を行い、小学校の学級担任がより良い学級をつくるための意見交換を行った。
4.その他教育活動上特記すべき事項 魅力ある学級づくりに向けた特別活動教育講演会の主催 教員免許更新講習	2019(平成 31)年 1 月 20 日 2018(平成 30)年 8 月 7 日	・本学人間教育学科学生その他、宮城県内小・中学校教員対象に、新学習指導要領の全面实施によるこれから求められる特別活動の在り方を東松島市矢本東市民センターを会場に講演会を行った。 ・学校をめぐる近年の状況の変化と専門職としての教師について、「生きる力を育む特別活動の役割」をテーマに、講義と演習を行った。

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
		特記事項なし	

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
学級経営の充実を図ったPM理論の再構築による学級活動の一試み 一探究の対話（p 4 c）を基盤とした討議二重方式による話合いの合意形成を求めて―	単著	2018(平成 30)年 8 月 26 日	日本特別活動学会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017（平成 29）年年度～継続中	石巻市立小・中学校学区再編計画検討委員会委員
2018(平成 30)年 8 月 26 日・2019(平成 31)年 1 月 26 日	日本特別活動学会会員 研究発表（武蔵野大学）・日本特別活動学会会員 第 2 回研修会参加（東京理科大学）
2018(平成 30)年度	宮城県石巻好文館高等学校学校評議員
2018(平成 30)年度	東松島市立矢本東小学校学校運営協議会委員
2018(平成 30)年 8 月 6 日～	石巻市震災復興推進会議委員（副委員長）
2018(平成 30)年度	日本キャリア教育学会会員
2018(平成 30)年度	日本生活科・総合的学習教育学会会員
2018(平成 30)年度	日本学級経営学会会員
【その他研究活動上特記すべき事項】	
2018(平成 30)年度 いしのまきレクリエーション協会副会長（石巻市社会福祉協議会主催 第 6 回レクリエーション講座 講師:2019(平成 31)年 3 月 23 日実施）	
2018(平成 30)年度 石巻地区学級づくり研究会 会長	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年度	保育士・教員養成センター委員	
2018(平成 30)年度	高大接続研究事業担当（石巻地区高等学校校長会担当）	
2018(平成 30)年度	開放センター委員会教育連携部会長	

VI その他特記すべき事項

2018(平成 30)年度	中学・高校生人間力育成「耕人塾」運営委員長(地域のゴミ拾い活動等の社会奉仕活動の実践)
2018(平成 30)年度	剣道部部長

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）毎回、グループ討議を実施するとともに「振り返りシート」による自己評価を行い、学習成果の向上を目指した。	授業アンケートでは、課題に対する意欲・関心を高めることができ、一定の成果が得られた。次年度は、課題に対するグループ討議の工夫改善により主体的な思考力の改善に取り組む。
（実験）教職課程における教育実習の事前指導において、理科の模擬授業による実験方法の工夫改善に努め、課題追究意欲の向上を目指した。	仮説・検証の見通しを持ち、授業改善を図ることができた。次年度は、模擬授業のVTR視聴を取り入れ、課題意識を高め、更に主体的な活動に取り組む。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 保育・教育実践演習では、観察による分析を行い、課題意識を高め、学習成果の向上を目指した。	個人毎の発表とグループ討議により成果が得られた。次年度は、実態調査を行い、課題に対する思考力、判断力等の改善に取り組む。
（その他特記すべき事項） (1) 松島町立松島第二小学校で、宮城県教育委員会による学校・地域保健連携推進事業の出前授業を行った。 (2) 石巻市政策コンテスト参加を働きかけ、人間学部学生から2チームが出場することができた。	 (1) 5年生と6年生を対象に行い、関心・意欲を高めることができた。 (2) 最優秀賞に選ばれた。次年度は、更に学生の個人研究と関連させて参加できるよう配慮する。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	准教授	氏名	永山 貴洋	就任年度	2013（平成 25）年度
----	-------------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 健康心理学，心理学基礎実験，心理学基礎実習，幼児体育，健康科学と身体運動，保育内容（健康），初等教科教育法（体育），子どもと野外活動， 幼児教育実習事前事後指導，幼児教育実習Ⅰ，幼児教育実習Ⅱ，フレッシュマンセミナー
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) スポーツ心理学Ⅰ（仙台医健専門学校），スポーツ心理学Ⅱ（仙台医健専門学校）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
教員養成課程学生の領域「健康」のねらいに対す る認識	単著	2019（平成 31年3月）	石巻専修大学研究紀要第30号		75-79	無
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017（平成 29）年度～継続中	東北体育・スポーツ学会理事
2017（平成 29）年度～継続中	東北体育・スポーツ科学研究 編集委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 科研費（研究代表者）2018（平成 30）年度～2020（平成 32）年度 「適応的熟達化に向けた身体技能創造を支援するコーチングモデルの構築」（基盤研究（C））	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2013（平成 25）年度～2018（平成 30）年度	人間学部教務委員会委員	
2017（平成 29）年度～継続中	保育士教員養成センター委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） （1）授業改善 （2）体験型学習の導入 （3）講義用教材の工夫	（1）授業評価アンケートでは平均以上の評価が得られたが、引き続きコメントペーパー等で学生の理解度を把握し、学生が授業内容をより深く理解できるように改善に努めたい。 （2）[「初等教科教育法（体育）」において、実践的な知識の習得と学習意欲の向上を目的として、学生を教師役と児童役に分けて実際に教え学びあう中で体育科教育の知識を学習させている。各学生が得意な領域での指導を体験することで、できることと教えることの違いを認識させる効果があった。 （3）体験型学習や双方向の授業を進めるにあたり、問題を提起し、ディスカッションのために最低限必要とされる知識を提供する目的で講義用教材を作成している。教科書には掲載されていない新しい論文の知見や時事問題を取り入れた教材を用意することで、各学生の興味・関心をひきつけると同時に、学生が授業内容を身近な問題として考え活発な意見交換がみられる等の効果があった。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） （1）「認定心理士」資格取得を希望する人間文化学科，人間教育学科の学生に対する指導，申請のサポートを行った。 （2）2018（平成 30）年 6 月 27 日，本学にて志津川高校 1 年生に対し模擬授業を行った。	（1）資格申請を行った 3 名全員が資格を取得した。次年度も申請者全員が認定されるよう指導したい。 （2）概ね好評だった。再度要請があった場合は，高校 1 年生が

(3) 2018（平成 30）年 7 月 30, 31 日に, 仙台向山高校 2 年生 5 名を対象に, 本学にてアカデミックインターンシップを実施した。	進学を意識できるように内容を改善したい。 (3) 幼児教育に関心のある高校生に対し, 本学のカリキュラムを例に大学における学びについて説明し, 模擬授業を行った。 感想等は確認していないが, 再度要請があった場合は, 教員養成課程での学びについてわかりやすく伝えられるよう内容の改善に努めたい。
--	--

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	助教	氏名	平川久美子	就任年度	2013（平成 25）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1. 学部担当科目 教育心理学、発達心理学、保育原理、障がい児保育、幼児理解の理論と方法、家庭支援論、フレッシュマンセミナー（複数担当）、心理学基礎実験（複数担当）、心理学基礎実習（複数担当）、保育実習Ⅰ（保育所）（複数担当）、保育実習指導Ⅱ（複数担当）、保育実習Ⅱ（複数担当）
2. 大学院担当科目 特記事項なし
3. 非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 母性の心理・社会（スズキ病院附属助産学校）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 授業研究会における話題提供	2019（平成 31）年 1 月 24 日	
2.作成した教科書、教材、参考書 本郷一夫(編著)『公認心理師の基礎と実践第 12 巻 発達心理学』（遠見書房） 本郷一夫・飯島典子(編著)『シードブック保育の心理学』（建帛社）	2018（平成 30）年 9 月 1 日 2019（平成 31 年）年 2 月 15 日	第 6 章 感情の発達（pp.80-91）を執筆 第 8 章 社会性の発達（pp.78-89）を執筆
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁 数	査読の 有無
【著書】						
実践研究におけるチェックリストの活用方法	単著	2018 (平成 30) 年 4 月	実践研究の理論と方法 (シ リーズ支援のための発達心 理学) 第 7 章 (金子書房)		67-76	無
感情の発達	単著	2018 (平成 30) 年 9 月	公認心理師の基礎と実践第 12 巻 発達心理学第 6 章 (遠見書房)		80-91	無
社会性の発達	単著	2019 (平成 31) 年 2 月	シードブック保育の心理学 第 8 章 (建帛社)		78-89	無
【論文】						
Social Development of Young Children with ASD and ADHD Symptoms	共著		Annual Bulletin, Graduate School of Education, Tohoku University, Vol4	Kazuo Hongo, <u>Kumiko</u> <u>Hirakawa</u> , & Noriko Iijima	1-9	無
幼児期における情動表出の理解と日常場面にお ける情動表出との関連	単著	2019 (平成 31) 年 3 月	石巻専修大学研究紀要第 30 号		113- 117	無
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
児童期の情動発達とその特異性に関する研究 10 —「気になる」児童の表情および言葉による情動 表現の特徴—	共著	2019 (平成 30) 年 9 月	日本教育心理学会第 60 回 総会	<u>平川久美子</u> ・飯島典子・ 高橋千枝・相澤雅文・本郷 一夫		

幼児期における情動表出の発達—情動表出の理解と日常場面における情動表出との関連—	単著	2019（平成 31）年 3 月	日本発達心理学会第 30 回大会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2015（平成 27）年 6 月～2018（平成 30）年 6 月	日本臨床発達心理士会東北支部役員（研修担当）
2018（平成 30）年 6 月～継続中	日本臨床発達心理士会東北支部役員（事務局長）
2018（平成 30）年 6 月～継続中	日本臨床発達心理士会研修委員会委員
2013（平成 25）年 9 月～継続中	塩竈市子ども・子育て会議委員
2016（平成 26）年 4 月～継続中	仙台市保育専門技術向上支援事業スーパーバイザー
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年 4 月～継続中	紀要編集委員会委員	
2018（平成 30）年 4 月～継続中	人間学部クラス担任（人間教育学科 2 年次）	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 毎回、パワーポイントをそれに基づいた穴埋め式の配布資料を配布し、授業を実施している。	授業評価アンケートでは概ね良好な結果が得られた。特に配布資料は授業に取り組みやすいという学生の意見もあったため、次年度以降も継続して準備する予定である。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間教育学科	職名	助教	氏名	佐藤 誠子	就任年度	2014(平成 26)年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 心理学―心の科学―，心理学概論，学習心理学，教育心理学（中等），教育相談の理論と方法（中等），生徒・進路指導の理論と方法（中等），心理学基礎実験，心理学基礎実習，人間学概論，幼児教育実習事前事後指導，人間文化演習 I
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 教育相談（聖和学園短期大学），保育の心理学 I（会津大学短期大学部），保育の心理学 II（会津大学短期大学部）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 授業におけるコメントペーパーの積極的活用（「心理学概論」「心理学―心の科学―」「学習心理学」「教育心理学（中等）」「教育相談の理論と方法（中等）」「生徒・進路指導の理論と方法（中等）」）	2018(平成 30)年	毎回の授業で学生にコメントペーパー（課題，感想，疑問）への記入を求め，学生の学習への意識を高めるとともに授業改善の一助とした。次の授業時にコメントへの補足や質問への回答をおこなった。この結果，授業評価も平均を上回るなど一定の成果があった。
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
講義型授業における大学生の能動的学習の可能性—コメントペーパーの記述分析から—	単著	2019(平成31)年3月	石巻専修大学研究紀要, 30		105-111	無
The Effect of Knowledge Systematization on the Learning Scientific Rule: A Case Study Using a Qualitative Approach.	共著	2019(平成31)年3月	Annual Bulletin Graduate School of Education, Tohoku University, 5.	Kudo, Y., Sato, S., Nishibayashi, K., & Shindo, T.	29-41	無
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
科学的ルール of 学習に及ぼす知識システム化の効果	共著	2018(平成30)年6月	日本教授学習心理学会第14回年会	佐藤誠子・西林克彦・進藤聡彦・工藤与志文		
講義型授業における大学生の認知的能動性の検討—コメントペーパーの記述分析から—	単著	2018(平成30)年9月	日本教育心理学会第60回総会			
直観に反する仮説的判断の強制導入が自己完結的推論の抑制に及ぼす効果	共著	2018(平成30)年9月	日本教育心理学会第60回総会	工藤与志文・佐藤誠子		

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成 29)年 7 月～継続中	日本教授学習心理学会 編集委員
2018(平成 30)年 8 月 6 日	石巻専修大学 教員免許更新講習 講師
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	人間学部教務委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・学生の既有知識や理解度を踏まえ、授業で扱う具体例や課題を変えるなど授業の工夫をおこなった。 ・各回の授業において学生にコメントペーパーへの記入を求め、その記述内容から、学生の授業の理解度を知るとともに、自身の授業の成否について学習目標に照らし合わせて検討した。 ・授業評価アンケートに記載された学生の意見を踏まえ、授業改善に役立てた。	授業評価アンケートでは、各担当科目とも全体平均以上の評価をいただいた。次年度も継続し、学生の理解度を踏まえた授業改善に取り組む。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 人間文化演習Ⅰ（人間文化学科開講科目）において、認定心理士（心理調査）取得希望の3年次学生に対し研究指導をおこなった。心理学研究を体系的に学ぶカリキュラムは設定されていないため、ゼミの中で心理学的研究の理論・方法、研究課題の設定、論文の読み方、質問紙作成法、データ収集、統計的分析等について一から個別指導をおこなった。	テーマ設定からデータ収集・分析まで学生自身が主体的に取り組み、研究を推進することができた。資格の性質上、次年度は別テーマでの研究となるが、学生の主体的取り組みを促すよう配慮する。
（その他特記すべき事項） 人間教育学科および人間文化学科の学生に対して、認定心理士および認定心理士（心理調査）資格に関連する指導、サポートをおこなった。	これまでとくに大きな問題は生じていない。引き続き資格取得のためのサポートをおこなう。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	西方 守	就任年度	1989(平成元)年度
----	-------------	----	----	----	------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 哲学－知の起源－(哲学、哲学Ⅰ)、倫理学(哲学Ⅱ)、教育学概論(教育学Ⅰ)、教育原理(中等)(教育学Ⅱ)、教育哲学、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、人間学概論、人間文化入門、特殊講義Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 哲学(石巻赤十字看護専門学校)

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 「東松島高校高大連携事業講義」（「人間」と「文化」について） 「図書館長就任記念展示－西方館長が選んだ手にとって欲しい作品－」（「図書館企画展」）	2018年8月 10日 2018年6月 7日～7月 10日	高大連携事業の一環として、東松島高校の7名の生徒を対象にして90分の「人間」と「文化」についての講義を行った。 井上ひさし、有吉佐和子、カズオ・イシグロ、徳田秋聲、ドナルド・キーン、石毛直道、アルフィー・コーン、杉山登志郎、教育六法、又吉直樹、若竹千佐子の作品からの言葉と紹介についてのA4パネル21枚の展示を行った。

「図書館長就任記念講演会」（「本との出会い」） 大学祭学部企画展示（「教育のことばたち」パネル展）	2018 年 10 月 11 日	「図書館長就任記念展示」で紹介した本を含め、これまでの「本との出会い」についての講演(70分)を行った(参加者は、学外者、教員、職員、学生15名)。 大学祭の学部展示として、西方ゼミ4年生4名と3年生3名でゼミの演習で読んだ文献を中心に「教育のことばたち」のA3パネル33枚の展示を行った。
	2018 年 10 月 13 日、14 日	

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
1979(昭和 54)年 9 月～	東北教育哲学教育史学会
1983(昭和 58)年 7 月～	教育哲学会
1989(平成元)年 7 月～	日本哲学会
1992(平成 4)年 6 月～	日本現象学会
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2020(平成 32)年 3 月 31 日	東北大学出版会評議員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2020(平成 32)年 3 月 31 日	図書館長	
2018(平成 30)年 4 月 1 日～2019(平成 31)年 3 月 31 日	人間学部クラス担任(人間文化 1 年次)	
1993(平成 5)年 4 月 1 日～2019(平成 31)年 3 月 31 日	遺伝子組換え実験安全委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） できるだけ分かりやすい適切な例を使って説明するようにしている。 ノートを取りやすいように、できるだけ内容を整理して板書するようにしている。 毎回出席カードを配って出欠を取っているが、出席カードの裏面は欠席届等の届けや質問等によるコミュニケーションの手段として用い、とにかく一方通行的になりがちな授業の問題点の解消に努めている。また、私語をなくすために、受講人数に対して広めの教室を使用し、隣の席を必ず空けて座らせている。評価に平常点を加味するために、写真票の提出を求め、出席カードには座席の位置も記入させている（私語の防止にもなる）。 総合評価の資料を得るためと講義内容の理解を深める目的で、半期2回の、授業内容についてのレポート（授業時間内各40分、自筆のノートと授業で配ったプリントのみ利用可能）を書かせている。	授業評価アンケートの結果は、教育学概論、教育哲学、教育原理（中等）は全体平均より高く、哲学一知の起源－は平均並みで、倫理学は平均より低い結果でした。評価が高い科目は、受講者とよい関係を作れているということではないかと考えます。評価の低い科目に関しては、全体的に見直して、特に板書と話し方に注意して授業をしていきたいと思っています。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 人間文化演習Ⅰでは、様々な文献の講読・討論を通して、文化としての教育の問題を自己の経験に照らして自己の問題として考えられるように意図して行ってきた。 人間文化演習Ⅱでは、3名の学生の卒業研究（「学校教育における競争と協力－佐藤学『習熟度別指導の何が問題か』を中心に－」「学力低下の問題点と解決策－佐藤学『学力を問い直す』を中心に－」「学校教育における競争と協力－佐藤学に依拠して－」）の指導を行った。	意図したことはほぼ達成できていると考える。 1名の学生の卒業研究（「学びの共同体とその活用法－佐藤学『学校を改革する』を中心に－」）は未提出に終わった。
（その他特記すべき事項） 高大連携事業の一環として、東松島高校の7名の生徒に90分「「人間」と「文化」について」の講義を行った。	生徒が書いた講義内容をまとめたレポートから、概ね好評であったと思われる。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部	人間文化学科	職名	教授	氏名	佐藤利明	就任年度	2013(平成 25)年度
----	------	--------	----	----	----	------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 社会学概論、地域社会論、社会調査論、社会調査の基礎、社会調査演習、社会調査実習、地域調査法、人間文化入門、人間文化演習Ⅰ・Ⅱ、社会学の世界、人間文化基礎演習、いしのまき学、特殊講義Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
いえの継承と家族動態－山間地農村MむらS家の事例－	単著	2019（平成31）年3月	石巻専修大学研究紀要（30号）		131-139	無
【その他】（報告書など）						
内水面養殖業に関する調査報告	単著	2018（平成30）年10月	私立大学研究ブランディング事業・第3グループ報告書		1-12	無
内水面漁業と環境教育プログラムの事例に関する報告	単著	2019（平成31）年1月	私立大学研究ブランディング事業・第3グループ報告書		1-21	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】 ・私立大学研究ブランディング事業の研究として、浜名湖体験学習施設（静岡県）、琵琶湖博物館（滋賀県）を視察し、環境教育に関する資料及び情報の収集を行った。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年 4 月 1 日	人間力育成センター運営委員会委員	
2018（平成 30）年 4 月 1 日	開放センター委員	
2018（平成 30）年 4 月 1 日	共創センター運営員	
2018（平成 30）年 4 月 1 日	個人情報業務責任者	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・小テスト、レポートを課し、添削指導を行った。 ・学習効果を高めるため視覚資料による補足説明を行い、それに関するレポートを課すとともに添削して返却し、学生の理解の向上を図った。	・課題を理解し、適切に対応することの重要性を認識させることができた。また、文章の添削をすることで、文章能力の向上が図られた。 ・レポートからは、視覚資料を通して社会事象の現実的理解が進んだと思われる。 ・次年度も継続し、さらなる工夫を行って取り組みたい。
（実験） ・特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・現場体験として牡鹿半島域の被災地を視察し地域住民にインタビューを実施した。また、地域文化の理解のため松山酒ミュージアムを訪問し、報告レポートの取りまとめ指導を行った。 ・社会調査実習において、アンケートの実施、集計・分析の指導を行った。 ・卒業研究において、事例研究のためのアンケート調査を指導した。	・体験型授業の実施と報告レポート作成によって学生の現実感覚の醸成と学習内容の整理・文章作成能力の向上に寄与できたと考える。 ・データの集計・分析作業による情報処理能力の向上が図られた。 ・次年度も今年度の経験を活かす指導を実践したい。
（その他特記すべき事項） ・特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	長谷川 香子	就任年度	1989（平成元）年度
----	-------------	----	----	----	--------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 言語学概論、異文化コミュニケーション論、言語翻訳研究 I（英日）、（英語翻訳入門 I）、特殊講義 II、英語 C、人間文化演習 I、人間文化演習 II
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018年（平成30年）4月～ 2019年（平成31年）3月まで	JALT SENDAI（全国語学教育学会仙台支部）にて、月例研究会に参加した。
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018年（平成30年）4月～ 2019年（平成31年）3月まで	言語教育専門部会副会長	
2018年（平成30年）4月～ 2019年（平成31年）3月まで	ホームページ委員会委員	
2018年（平成30年）4月～ 2019年（平成31年）3月まで	人間学部クラス担任（人間文化2年次）	

VI その他特記すべき事項

入学試験英語出題主責任者 ボールペン字愛好会部長

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 1. 「言語学概論」、「異文化コミュニケーション論」では、毎回、事前に、講義内容の概要を作成・配布し、予習講読課題とした。その結果、講義内容の理解と知識が深まったと実感できた。 2. 「言語翻訳研究（日英）」（英語翻訳入門Ⅰ）では、予習課題・復習課題として、独自に、練習問題を作成し、家庭での学習により、英語力の増強がさらに図れるようにした。 3. 「特殊講義Ⅱ」では、英語検定試験の準1級と2級の問題を中心に演習を進めた。教科書を使用しなかったため、ドリルやオリジナルに作った練習問題のコピー印刷準備に時間がかかった。しかし、学生のレベルに合わせ、演習を進めることができたことは良かったと感じている。	*授業では、学生の積極的な授業参加の姿勢が見られ、学生の充実感と学習の動機づけへの効果が感じられた。 *英日翻訳においては、学生の語学力に見合った練習問題をこなすことを念頭に置いた。初めの頃は、句や表現文について、細かな解説や訳例を提示することを心掛けていたが、次第に、学生各自が自由に自信をもって翻訳をすることができるようになってきた。 *学生各自の英語力に差が見られたが、それぞれの学生が、自分のレベルに見合った級の演習問題をこなした。中には、せいて、正解を求める学生がいたため、来年度の授業では、学生が個別に自分のペースで演習を進めることができるよう、ドリル問題集を教科書として使用したいと考えいいる。また、オリジナルの練習問題については、随時、正解を提示するようにしたいと思う。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 1. 「人間文化演習Ⅰ」では、計画通りにスムーズな授業を行うことができた。研究発表とレポート作成に関しては、学生各自が希望に沿った研究テーマについて、書籍や文献、ネット資料を入手し、独自性に富んだ資料作成とレポート作成を充実感を持って行うことができた。また、サブスタディーとして、TOEICの学習に計画的に取り組むゼミ生もいたので良かったと思う。できれば、ゼミ生全員が、大学卒業前に、何らかしらの資格取得やスキル習得を目指せるよう、無理のない範囲で、助言、サポートを行っていききたいと思う。	*前期と後期で、合わせて2回、研究発表とレポート提出を行ったが、それらに終始することなく、さらに研究内容や領域を深めれるよう研究のあり方について探求してもらいたいと感じる。そのため、次年度のゼミでは研究内容や方法について、学生ともっと議論、意見交換を行っていききたいと思う。

2. 「人間文化演習 II」では、卒業論文と研究発表（中間・最終）の指導に主眼をおいた。ゼミ生の中には、教員志望者や一般企業就職希望者がいたが、教育実習や就職活動が、卒論執筆に影響を及ぼさないよう、4年生の6月からは卒論を書き始めさせた。書籍や文献の提供、そして、随時、卒論の構成、内容、資料の作成方法について、説明、議論、助言しながら、卒論執筆をサポートした。そのため、学生には、隔週ごと、定期的に、執筆した文書の提出が課された。（卒論執筆に関しては、各学生と、無理のない日程で計画を立てたが、まったく計画通りに進めない学生が1名いたため、その学生には、可能な限り、資料の提供と卒論の構成、及び内容について、解説と助言を重ねた。当学生はゼミの授業には出席し、私の話や解説に应对はするものの、卒業するための科目履修で手一杯な状況であったためか、卒論の文章は、提出日まで、部分的にでも、一度も私に提示されたことはなかった。このような状況下であったため、当学生に対しては、卒論を書き始めるよう指導することで、他の学生の何倍もエネルギーを消費したと感じている。このような事例から、今後のゼミでは、卒業論文の指導は、慎重に進めなければならないと痛感した。） サブスタディーでは、ゼミの時間以外で、TOEIC、英会話練習の個別指導を行った。	＊ゼミ生各自の年間予定を十分に把握、考慮しながら、卒業論文、及び、研究発表の指導を進めることが重要と感じた。 ゼミ生の科目履修や就職活動について十分に確認しながら、時間的に無理のない卒論執筆の計画を立てることが重要であることが強く認識された。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	松崎 俊之	就任年度	1989（平成元）年度
----	-------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 美学、人間学概論、人間文化入門、人間文化基礎演習、現代文化論、地域文化政策論、芸術文化論、メディアアート論、人間文化演習Ⅰ・Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし。
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 美学（東北芸術工科大学）（2018（平成 30）年）、芸術の世界（東北大学）（2018（平成 30）年）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし。		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし。		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし。		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし。		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし。			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし。						
【論文】						
色彩特性と物理的特性との関係 III	単	2019年3月	石巻専修大学、『石巻専修大学研究紀要』30号			無
表象的特性としての知覚的クオリアと美的クオリアーフレীগの表象主義にもとづく考察	単	2019年3月	『東北芸術工科大学紀要』第26号		1-18頁	有
【その他】(報告書など)						
特記事項なし。						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
ニューメディアアートに固有のインタラクティ ビティとしての「開かれたインタラクティ ビティ」	単	2018年7月	東北芸術文化学会第24回大会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし。			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017 年 7 月～継続中	東北芸術文化学会副会長
2018 年 7 月～継続中	東北芸術文化学会誌『芸術文化』編集委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし。	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	人間力育成センター運営委員会委員	
2017(平成 29)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	自己点検・評価運営委員会委員	
2017(平成 29)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	自己点検・評価全学委員会委員	
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	教員資格審査委員会委員	
2018(平成 30)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	研究助成専門委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし。

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）それぞれの講義ごとに文献資料および各種視聴覚資料を準備するとともに、それらをもとにマルチメディアパワーポイントファイルを作成することで、学生の理解度の向上に努めた。また単元ごとに講義概要と参考文献を記したハンドアウトを用意することで学生が事前・事後学習をおこなうための指針とした。	授業アンケートでは概ね良好な評価が得られた。評価の低かった一部の科目については、次年度に向けて改善に取り組み、講義内容を整理するとともにより丁寧な説明を心がけることで学生の理解度を向上させるよう努める。
（実験） 特記事項なし。	
（ゼミナール・卒業研究・演習）学生の研究テーマに関連する基本的文献資料を収集しそれらを学生に提供するとともに、そうした基本文献に関する徹底した講読指導をおこなうことで、学生の卒業研究を後押しした。	学生の研究成果を見るに、ゼミにおける指導内容および指導方法は、概ね評価できるものと考えられる。次年度に向けてさらに改善に努め、個々の学生の資質、能力、問題関心に応じた指導方針と指導計画を策定し、それらをもとにより効果的な指導をおこなうよう努める。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし。	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	根本 泉	就任年度	1994（平成 6）年度
----	-------------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 英語 A、英語 B、人間文化入門（複数担当者）、言語芸術文化論（複数担当者）、キャリア設計（サポート教員）、小学校の外国語活動、比較文学論、英米文学研究、地域文化研究（英語圏）、教育総合英語Ⅱ、特殊講義Ⅰ、特殊講義Ⅱ、現地語学実習
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
「グリルはグリルのままに」——「至福の園」の挿話と C. S. ルイス『さいごの戦い』をめぐって	単著	2018(平成30)年5月19日	日本スポンサー協会 2018 年度総会			

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017(平成)29 年度～継続中	日本キリスト教文学会 役員
【その他研究活動上特記すべき事項】 (研究発表の司会) 日本キリスト教文学会 2018 年度 第 47 回全国大会において研究発表の司会を担当した。(研究発表：聖書研究家 高橋清隆「『さいごの戦い』に見る C. S. ルイスの救済論—エーメスの救済を巡って」)	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	人間学部人間文化学科主任	
2017(平成 29)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	教員資格審査委員会委員	
2017(平成 29)年 4 月～2020(平成 32)年 3 月	教務委員会委員	
2017(平成 29)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	編入生担任 (人間文化学科)	
2017(平成 29)年 4 月～2019(平成 31)年 3 月	人間学部学科主任教授協議会委員	
2017(平成 29)年 9 月～2019(平成 31)年 3 月	教職課程再課程認定に係る専門部会構成員	
2018(平成 30)年 4 月～2020(平成 32)年 3 月	英語外部検定試験検討委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業への取り組み） 基本教育科目の「英語 B」では、理工学部習熟度の高いクラスを対象に、コナン・ドイル作の小説『まだらのひも』（シャーロック・ホームズのシリーズ中の一作）を易しく書き直したテキストを扱い、英語の運用能力を涵養するとともに、学生がストーリーへの興味を持って学習に取り組めるよう努めた。	左記の取り組みに対して、授業評価アンケートでは、「初めて、英語でまとまった物語を読み、面白かった」との評価が得られた。次年度は、物語の英文中の語彙、文法事項等をより整理した形で学生に提示し、内容への興味関心を、より高い英語運用能力の涵養につなげていければと考える。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 本年度はゼミナールの担当学生は 0 であった。	
（その他特記すべき事項） 石巻好文館高校との高大接続事業の一環として、「総合的な学習の時間」における分野別課題研究（個人研究）の講師を務めた。具体的には、出前授業、生徒による中間発表会における指導、ゼミ内発表会における講評を行った。	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	恵原貴志	就任年度	1993(平成 5)年度
----	-------------	----	----	----	------	------	--------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 基礎物理学、基礎物理学 A、物理学 I、物質とエネルギー、くらしの安全学、人間環境学、情報活用法 I、フレッシュマンセミナー、人間文化演習 I、人間文化演習 II
2.大学院担当科目 固体物理学特論、磁気デバイス工学特論、物質工学特別研修 I（物質基礎）、物質工学特別研修 II（物質基礎）、物質工学特別演習・実験 I（物質基礎）、物質工学特別演習・実験 II（物質基礎）、固体物性工学特論、物質物理工学セミナー、物質機能工学博士特別演習・実験
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Effect of Annealing Temperature and Atmosphere to Surface Solid Phase Reaction of Sapphire Substrates and Spin-Coated Copper Nitrate Gel Films	単著	2018 (平成30) 年 5 月 25 日	Journal of Materials Science and Chemical Engineering 第6巻、5号 発行所 Science Research Publishing		1-10	有
【その他】(報告書など)						
20190121 私立大学研究ブランディング事業「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へー草葉起源による内水面養殖業の創出ー」(第3研究グループ)	共著	2019 (平成31) 年 1 月 21 日		柳 明、 <u>恵原貴志</u> 、 指方研二、佐藤利明、照井孫久、山崎省一		無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
特記事項なし	
【その他研究活動上特記すべき事項】	
特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
平成 30 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日	入試委員	
平成 30 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日	スポーツ推薦入試委員	
平成 30 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日	広報委員	
平成 30 年 4 月 1 日～31 年 3 月 31 日	放射線管理委員	オブザーバー

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 1 講義科目を学習するために必要な姿勢、生活態度などを宿題として出題する 2 各教科においてパワーポイントファイルを作成、使用している。	1 欠席者、途中からでなくなる学生が激減した。 2 答案での学生の誤字が著しく減少した。
（実験） 文科系の学生に理科系の実験を行わせたが、昨年度の教育に引き続き特に安全面での指導を繰り返し子 になった。	卒業研究に必要な実験はすべて事故なく行えた。
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究担当学生が就職のため退学した。	本人の強い希望のためやむを得なかった。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	山内武巳	就任年度	1997（平成 9 年）年度
----	-------------	----	----	----	------	------	----------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 健康教育学、食生活論、運動方法学、運動生理学、体育、健康と食生活論、人間文化基礎演習、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、健康科学と身体運動、スポーツ科学 A、スポーツ科学 B、生活習慣と健康管理
2.大学院担当科目 運動生体情報学特論
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 ・日本セーフティーカヌーイング協会の SUP ガイド 1 を取得 ・第 7 回石巻市民食育健康フェスティバルに出展	H30.12 月 H30.10 月	・マリンスポーツの教育研究活動を実施していくうえで、安全管理上必要と考えられる日本セーフティーカヌーイング協会の SUP ガイド 1 を取得 ・第 7 回石巻市民食育健康フェスティバルに出展し、山内研究室が取り組んでいる石巻市圏域の健康施策を紹介 ・東松島市の食育イベント「ひがしまつしま食べメッセ」に出展し、山内研究室

・東松島市の食育イベント「ひがしまつしま食べメッセ」に出展	H30.11 月	が取り組んでいる健康施策を紹介
-------------------------------	----------	-----------------

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
Effects of promoting daily physical activity on physical and mental health in older individuals	共著	2018（平成30）年	J. Phys. Ther. Sci. 30, 2018	Naoto Takayanagi, Katsuro Kitamura, <u>Takeshi</u> <u>Yamauchi</u> , Ichiro Tokimitsu	1315-1322	有
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
特殊環境下のヒトの生体応答	単著	2018（平成30）年5月	日本沙漠学会第29回学術大会			
低酸素環境下の睡眠構造と室内二酸化炭素濃度の関連	単著	2018（平成30）年6月	第38回日本登山医学会学術集会			
二酸化炭素が低酸素環境下の睡眠に与える影響	単著	2018（平成30）年7月	日本睡眠学会学術集会第43回大会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2017（平成 29）年 11 月～継続中	石巻市スポーツ推進審議会委員
2018（平成 30）年 10 月	第 7 回石巻市民食育健康フェスティバルに出展
2018（平成 30）年 11 月	「ひがしまつしま食べメッセ」に出展
2018（平成 30）年 1 月～継続中	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会宮城県推進会議ボランティア部会員
2018（平成 30）年 3 月～継続中	いしのまき・スマート・プロジェクト実行委員
2018（平成 30）年継続中	大学バックカントリー研究会理事
2018（平成 30）年継続中	日本登山医学会代議員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年度	石巻専修大学 IR 推進委員会委員	
2018（平成 30）年度	全学教務委員会教務委員	
2018（平成 30）年度	人間学部教務委員会委員長	
2018（平成 30）年度	個人情報保護運営会議委員	
2018（平成 30）年度	石巻専修大学安全衛生委員会委員	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
石巻地域における具体的な課題を設定し、解決するための必要な知識を学ぶことができるよう授業を運営した。 「健康科学と身体運動」では生涯にわたって健康な人生を築くために必要とされるスポーツを楽しむ態度や能力、特にグループでのコミュニケーション能力を身につけさせることを目的に複数の実技種目を学生に経験してもらった。また実技の運動量として 300kcal を授業時間内に確保するように授業を運営した。	学生の授業時間外の学習時間が十分ではなく、学習時間を増やすための仕組み作りが必要と感じた。
（実験） 担当授業なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 卒業研究では研究テーマの決定や方法論については学生自身の主体性を重んじ、一方で行き詰まった学生や自主性の乏しい学生には個別指導を積極的に行っている。未知のわからない事を自分の力で調べ、解決し、卒業研究をまとめ上げていく過程を経験することで仕事に対する責任感と問題解決能力が育まれるという教育効果がみられた。	客観的な数値を導くことはできるが、その研究の価値について数値から導き、伝えることの指導を十分にできていないと感じた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	教授	氏名	大縄 道子	就任年度	2005（平成 17）
----	-------------	----	----	----	-------	------	-------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 英米文学論、中等教科教育法（英語）Ⅰ、中等教科教育法（英語）Ⅱ、総合英語演習Ⅰ、総合英語演習Ⅱ、英米文学講読入門、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、フレッシュマンセミナー
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】(報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動(芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30）年 9 月～継続中	日本多読学会 理事
2018（平成 30）年 9 月～継続中	日本多読学会 紀要編集委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2017(平成 29)年 4 月～	保育士教員養成センター運営委員	
2017(平成 29)年 4 月～2019（平成 30）年 3 月	情報教育研究センター運営委員	
2018(平成 29)年 4 月～2019（平成 30）年 3 月	言語専門教育センター外国語第一小部会長	
2017(平成 29)年 4 月～2019（平成 30）年 3 月	個人情報保護委員会 個人情報業務責任者	
2018(平成 30)年 4 月～	人間文化学科 2 年生担任	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・英文多読・多聴の授業。平易な英語を大量に読むことで、英語の感覚を身につけ直読直解の力をつける英文多読・多聴の授業を継続的に行っている。 ・CALL システムを利用した英語教育。学生各自が再生や録音を個別にできるソフトウェアを用いて、ディクテーション、シャドーイングなど実践的なトレーニングを授業に取り入れた。 ・講義科目では毎週学生同士で前回の内容を説明し合う時間を設けたり、毎週感想コメントを書いてもらうなど、学生が受け身にならず主体的に取り組めるように工夫をした。演習科目では、記録や提出物、発表などを元に個別のアドバイスを頻繁に行なうようにした。	・リーディングの実力テストで大部分の受講生の点数が上昇した。また受講生各自が本を選び、目標を立て、自己評価をしつつ進めることで、英語力と同時に自立的な学習態度も養うことができた。 ・授業時間に加えてソフトウェアの持ち帰り機能も利用し、自宅学習でも英語に触れる機会を増やすことができた。リスニングテストにおいて有意に平均点が上昇した。 ・授業アンケートではどの授業も 4.5～5.0 の評価を受けることができた。次年度は各活動の目的や効果をきちんと説明することを心掛けた。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 5名の4年生の卒論指導を丁寧に行なった	それぞれの学生の関心に合ったテーマと切り口で卒論を完成させるサポートができた。次年度は文学研究の仕方をしっかり指導したい。
（その他特記すべき事項） (1) 正規授業とは別に、英語教育コース4年生1名の英語指導を夏まで毎週1回行なった。 (2) (1)とは別に、英語教育コースの学生3名の英語指導（検定対策など）を個別に毎週一人1コマずつ行なった。	(1)私立高校に英語教員として就職が決まった。今後は公立の採用試験対策もより充実させたい。 (2)それぞれ英語検定の準1級、2級、準2級合格のためのサポートができた。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	准教授	氏名	輪田 直子	就任年度	2014（平成 16）年度
----	-------------	----	-----	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 中国語中級Ⅰ・Ⅱ、中国文化論、中国文学研究、中国語通訳研究、言語芸術文化論、地域文化研究（中国）、人間文化入門、人間文化基礎演習、人間文化演習Ⅱ
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 特記事項なし		

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
史鉄生作品における二つの鐘の音——「廟の思い 出」を中心に	単著	2019（平成 31）年 3 月	石巻専修大学『石巻専修大学研究紀要』第 30 号		81～92	無
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
特記事項なし						

Ⅲ 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30）年 4 月～（継続中）	中国文史哲研究会 編集顧問
2018（平成 30）年 4 月～（継続中）	石巻市立桜坂高校 評議員
2018（平成 30）年 9 月～（継続中）	石巻市立高等学校将来構想委員会 副委員長
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年 4 月～	国際交流センター運営委員	
2018（平成 30）年 4 月～	人間学部教務委員	
2018（平成 30）年 4 月～	言語教育専門部会 部会長、全学教務委員	
2018（平成 30）年 4 月～	高大接続事業 桜坂高校・専大北上高校担当	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業）初級語学クラス、80 人の大クラスではプリントでの課題提出、コンピューター教室の小クラスではメールでの添削を実施し、学生の理解度を確認、ブラッシュアップを図った。	総合満足度が大クラスでは 4.5 ポイント、小クラスでは 5.0 ポイント。 大クラスの充実がさらに求められる。
（実験） 特記事項なし	特記事項なし
（ゼミナール・卒業研究・演習） ゼミはマンツーマンであったため、学生の興味・実力に合わせて、きめ細かい指導を実施。	学生の進度に合わせることを優先したが、若干、叱咤が不足し、さらなる高度な達成を見ることが叶わなかった。
（その他特記すべき事項） 専大北上高校で高大接続授業を担当し、また世話人としてガイダンス、オープンキャンパス担当、レポート集作成、成績処理を担当した。	アンケートおよびレポートからは、講義内容に興味を持ったことがうかがえ、科目の目的を達成できていると考えられる。

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	特任准教授	氏名	遠藤 郁子	就任年度	2014(平成 26)年度
----	-------------	----	-------	----	-------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 日本文学へのいざない、日本文化、日本文学論、日本文学研究、言語表現、国語、人間文化演習Ⅰ、人間文化演習Ⅱ、人間文化入門、言語芸術論
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・2017（平成 29）年度 IS 奨学研究員研究発表会	2018（平成 30）9 月 10 日	2017（平成 29）年度 IS 奨学研究員として助成を受けた研究課題「ビブリオバトルによって地域の人と文化と学生をつなぐための実践研究」における研究成果について、口頭発表を行った。ビブリオバトルにおける遊びと共有という要素によって、読書文化を地域社会の中に拓いていく可能性が見出せることを指摘した。
4.その他教育活動上特記すべき事項 ・〈知〉の交差点プロジェクト（第 3 回）	2018（平成 30）12 月 1 日	2017（平成 29）年度から継続し、地域における〈知〉の交差点の創

・〈知〉の交差点プロジェクト（第４回） 「石ノ森章太郎生誕記念トークセッション&ビブリオバトル」	2019（平成 31）1 月 26 日	出を目指し、学生とともに作る「〈知〉の交差点プロジェクト」と題した取り組みを行った。第３回として、本の紹介を通じたコミュニケーションゲーム「ビブリオバトル」を、学生とともに実施・運営した。昨年度よりも一般参加のバトラーを多く得ることができ、充実した学びの共有の場となった。 地域における〈知〉の交差点の創出を目指し、学生とともに作る「〈知〉の交差点プロジェクト」第４回として、石ノ森萬画館の協力を得て、石ノ森章太郎のマンガをテーマとした「ビブリオバトル」を、学生とともに実施・運営した。漫画家、研究者、萬画館スタッフなど、専門的なバトラーによる紹介によって、多くの参加者から好反応を得ることができた。（この取り組みは、平成 30 年度 IK 地域研究助成を受けています。）
---	----------------------------	--

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副 査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
読書教育と地域をつなぐ実践研究—ビブ リオバトルを一例として	単著	2019(平 成 31)年 3 月 20 日	石巻専修大学研究紀要 (第 30 号)		93~103	無
【その他】 (報告書など)						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)		
正田篠枝の短歌—原爆表象を中心に	単著	2018 (平 成 30) 年 7 月 14 日	新・フェミニズム批評の会 2018 年 7 月 例会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動 (芸術分野や体育実技等の分野)

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018（平成 30）年度～継続中	日本近代文学会東北支部会務委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
特記事項なし		

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） ・授業の改善や工夫のヒントを得るために、教員セミナーに積極的に参加し、多くを学んだ。 ・大人数の授業もあるが、一方通行の授業にしないために、できる限り、学生の参加、発話を促すように心掛けた。	・授業評価アンケートでは、前期平均 4.5、後期平均 4.3 と、概ね高評価をえることができた。 ・今年度のアンケート結果を参考にしつつ、来年度も引き続き積極的に授業改善に取り組みたい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） ・学生個人の興味関心にできる限り寄り添い、個別にきめ細かい指導を行うように心掛けた。	・個別対応によって、それぞれの学生に合った指導を行い、充実した卒業研究を完成させた。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	助教	氏名	目黒 志帆美	就任年度	2018(平成 30)年度
----	-------------	----	----	----	--------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 英語 A、英語 B、英語コミュニケーション A、英語コミュニケーション B、教育総合英語 I、英語 D、英米文化論
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 英語（東北大学）

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 石巻専修大学模擬授業	2018. 11. 21	仙台育英高校の生徒を対象とし、ハワイの歴史と文化について講義を行った

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読 の有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
The Transitional Period toward the Complete Reform of English Education in Japanese Elementary Schools: From the Research of Watanoha Elementary School in Ishinomaki	単著	2019 年 3 月	『石巻専修大学研究紀要』第 30 号		119-125 頁。	無
【その他】（報告書など）						
特記事項なし						
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
「ハワイ元年者 150 周年を考える」 元年者を迎えたハワイ王国	共同	2018 年 6 月	日本移民学会	高木（北山）真理子（愛知学院大学） 白水 繁彦（駒澤大学） 根川 幸男（国際日本文化研究センター）		
Breaking the Wall of Japanese Immigrants' History	単独	2018 年 8 月	Breaking Walls Project			
気骨と度量を備えた石巻人 -牧野富三郎とハワイ移民「元年者」の再考	単独	2019 年 3 月	東北アメリカ研究会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
2018年6月17日	講演「フラとハワイ史」（三陸かほく新報社主催）
2018年8月～9月	『石巻かほく』『つつじ野』連載全9回「ハワイ史研究者」「フラの歴史」「メリーモナーク」「ウクレレ」「ハワイのキルト」「インスタ映えの聖地」「真珠湾は誰のものか」「ハワイとサーフィン」「人文学の存在意義」
2018年9月10日	講演「わたしたちとハワイ」（石巻市商工会議所主催）
2018年11月14日	東北大学大学院国際文化研究科主催キャリア講習会講演「私の研究生生活を振り返って」
2019年2月23日	科研費プロジェクト第一回国際シンポジウム「ドイツ・ハレ市における難民・移民の社会統合」講演通訳
【その他研究活動上特記すべき事項】 <受賞歴> ①日本国際文化学会第8回平野健一郎賞受賞（2018年7月8日） 対象となった論文：「ハワイ王国に写し出されるアメリカマーク・トウェインの『ハワイ通信』にみる『自国認識』」「『インターカルチュラル』」（日本国際文化学会） 第16号、83-98頁。 ②石巻専修大学平成30年度第二回研究活動表彰（2019年3月28日）	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018年4月1日～	人間文化学科1学年担任	
2018年4月1日～	学生部委員会	

VI その他特記すべき事項

特記事項なし

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 英語の苦手な学生に対し、英語の楽しさを伝える工夫をした。具体的には、毎回異なる英語のヒットソングをとりあげ、その歌詞や発音などを解説するなどして、英語に親しめるような工夫をした。	左記の取り組みは概ね好評であったため、来年度以降もこのような取り組みを継続したい
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 特記事項なし	
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	

2018（平成 30）年度 教員活動報告書

【2018(平成 30)年度分】

所属	人間学部 人間文化学科	職名	助教	氏名	杉浦 ちなみ	就任年度	2018(平成 30)年度
----	-------------	----	----	----	--------	------	---------------

I 教育活動

【担当科目】

1.学部担当科目 人間文化入門、教育社会学、社会教育実習、フレッシュマンセミナー、人間文化演習Ⅰ、生涯学習論、社会教育演習
2.大学院担当科目 特記事項なし
3.非常勤担当科目(括弧内に大学名を記入してください。) 特記事項なし

【教育業績】（学内外向けに発表・公表したもの）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1.教育内容・方法の工夫（授業研究会等を含む） 特記事項なし		
2.作成した教科書、教材、参考書 特記事項なし		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記事項なし		
4.その他教育活動上特記すべき事項 （1）オープンキャンパス来場者向けの研究（室）紹介ポスターの作成 （2）高校生を対象とした体験授業	2018 年 8 月 5 日 2018年 11 月 14 日	2018（平成 30）年度本学オープンキャンパス来場者向けに研究（室）紹介ポスターを作成し、OC 当日（8/5）にはポスターをもとに説明した。 本学の体験授業の一環で、石巻市立桜坂高等学校の一年生に、地域と教育をテーマに授業を行った。（「地元を考えようーあなたはどうか生きる？」）

(3) 「人間文化演習Ⅰ」の学外授業についての記事	2018 年 8 月、12 月	学外授業について、本学広報（大学 HP）で紹介がなされた。①宮城県栗原市（2018 年 8 月 10 日）、②東松島市（2018 年 12 月 17 日）。
(4) 「社会教育演習」の課外授業および関連記事	2018 年 8 月 19 日	「社会教育演習」課外授業の一環として受講者に、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』をめぐる座談会に参加してもらった。 （石巻専修大学学生、杉浦ちなみ、山崎功「『君たちはどう生きるか』を今どう読むか—学生たちと考える」『月刊社会教育』2018 年 11 月号に掲載）

【博士論文審査】

学位取得年度	氏名	論文題名	主・副査
特記事項なし			

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または 発表年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	査読の 有無
【著書】						
特記事項なし						
【論文】						
特記事項なし						
【その他】（報告書など）						
「『君たちはどう生きるか』を今どう読むか—学生たちと考える」	共著	2018年11月	月刊社会教育	石巻専修大学学生、 <u>杉浦ちなみ</u> 、山崎功、月刊社会教育編集小委員会（司会・記録）	pp.18-24.	無
書評「大田堯・中村桂子著『百歳の遺言—いのちから「教育」を考える』」	単著	2019年2月	月刊社会教育	<u>杉浦ちなみ</u> （書評）	pp.50-51	無
【学会発表】	単著・ 共著の別	発表年月	学会の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		
Kominkan (Public Hall in Japan) as a Center for Community Music	共著	2018年7月19日	ISME 2018 33 rd World Conference of International Society for Music Education	<u>Chinami Sugiura</u> , Hironobu Shindo		
奄美大島の公民館における島唄講座成立のプロセスに関する考察	単著	2018年10月6日	日本社会教育学会第65回研究大会			

III 展覧会・演奏会・競技会等における主な活動（芸術分野や体育実技等の分野）

展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
特記事項なし			

IV 学会等および社会における主な活動

年月日	学会等および社会における主な活動内容
平成 24 年 6 月～現在	地域文化研究会（2017 年度より記録担当）
平成 25 年 8 月～現在	社会教育研究全国集会「地域文化の創造と社会教育」分科会（2016 年より同分科会全国世話人）
平成 26 年 5 月～現在	日本社会教育学会（会員）
平成 27 年 10 月～現在	International Society for Music Education（会員）
平成 28 年 5 月～現在	日本音楽教育学会（会員）
平成 28 年 12 月～現在	日本教育学会（会員）
平成 29 年 10 月～現在	国土社『月刊社会教育』編集協力委員
【その他研究活動上特記すべき事項】 特記事項なし	

V 大学運営活動

年月日	学内役職	備考
2018（平成 30）年度～継続	就職指導部委員	
2019 年 1 月 31 日	石巻専修大学学長選考の信任投票立会人	

VI その他特記すべき事項

【競争的資金の獲得】 (1) 公益財団法人村田学術振興財団平成 30 年度海外派遣援助：“Kominkan” (Public Hall in Japan) as a Center for Community Music) (2) 平成 30 年度 IS 研究費：石巻地域における社会教育行政及び施設の整備過程に関する研究 (3) 平成 30 年度科学研究費補助金（研究活動スタート支援）：戦後教育制度整備過程における「地域文化」の位置づけに関する研究 【表彰】 2019（平成 31）年 3 月 28 日 平成 30 年度石巻専修大学研究活動表彰

VII 自己点検・評価

【教育活動】	
授業への取り組み（工夫や改善、授業アンケート結果への対応など）	点検・評価（授業アンケート結果なども含む）
（授業） 「人間文化入門」（前期）、「教育社会学」（前期）、「生涯学習論」（後期）他については、講義に使用するためのパワーポイント資料、レジュメを作成した。その他、本年度は各授業について以下を重視して取り組んだ。 （１）「教育社会学」（前期）、「生涯学習論」（後期） 受講者数の多い講義の中でも、教員-学生間、学生相互のコミュニケーションが生まれるよう、リアクション・ペーパーやグループ・ディスカッションを取り入れた。 （２）「人間文化演習Ⅰ」（通年）、「社会教育演習」（後期） いずれも少人数の演習型授業である。文献購読を通じてテーマについての理解を深めるとともに、各自が感想や疑問点を表現し、議論することを大切にした。また、学外に調査に出かけ、地域に即したテーマの掘り下げを行った。	授業アンケートの総合評価では平均以上のスコアではあったが、次年度は教室環境や受講者の特徴（人数、学年、学科等）も考慮に入れつつ、教材・資料の改善を行いたい。本年度本学に着任し、様々な授業を担当する中で手探りの部分も多かったが、次年度以降、上記を含め今年度の経験を活かしていきたい。
（実験） 特記事項なし	
（ゼミナール・卒業研究・演習） 上述の通り、ディスカッション、学外におけるフィールドワーク等を取り入れながら授業を行った。	今年度の経験を活かしつつ、受講者の特徴に応じて引き続き内容や進め方について工夫し、質の向上を目指す。
（その他特記すべき事項） 特記事項なし	